

基本計画書

基		本		計		画		
事	項	記 入				欄	備 考	
計 画 の 区 分	ナ	大学の設置						
フ リ ガ ナ	者	コマツシ 小松市						
フ リ ガ ナ	称	コウリツコマツダイガク 公立小松大学 (Komatsu University)						
大 学 本 部 の 位 置		石川県小松市四丁町ヌ1番地3						
大 学 の 目 的		確かな基礎知識と高度な専門能力を有し、国際的な視野をもって地域と世界で活躍する創造力ある専門職業人を育成するとともに、地域の知の拠点として学術文化の振興と情報発信を担い、地域産業の持続的発展と健康で豊かな地域社会の実現、さらには我が国及びグローバル社会に顕在する課題の解決に寄与することを目的とする。						
新 設 学 部 等 の 目 的		【生産システム科学部 生産システム科学科】 地域社会の様々なニーズに応えながらも、循環型社会実現のための生産システム構築を目指す技術者の育成と、関連分野で世界をリードする研究開発を行う。 【保健医療学部 看護学科】 実在または潜在する健康問題を抱える対象の反応をアセスメントし、その人にとって望ましい看護ケアの提供の実現に向けて、看護師として求められる知・技・行とともに、病を抱える人や老いを生きている人の心身の痛みに共感できるしなやかで繊細な感性と、人としての深さを併せもち、幅広い領域で求められる看護ケアを的確かつ柔軟に提供できる看護専門職業人を育成する。 【保健医療学部 臨床工学科】 高度化する医療技術と多様な医療環境の中でチーム医療の一員として、より安全で確かな医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学技士および臨床工学教育・研究者を育成する。 【国際文化交流学部 国際文化交流学科】 人文・社会科学系の総合学部として、外国語力をベースとした国際社会に対する知識と国際感覚を備え、強い人間力と豊かな知性・感性をもって地域社会の創生と我が国の持続的発展に貢献できる人材を育成する。						
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所 在 地
	生産システム科学部 [Faculty of Production Systems Engineering and Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
	生産システム科学科 [Department of Production Systems Engineering and Sciences]	4	80	—	320	学士 (工学)	平成30年4月 第1年次	
	保健医療学部 [Faculty of Health Sciences] 看護学科 [Department of Nursing]	4	50	—	200	学士 (看護学)	平成30年4月 第1年次	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市向本折町へ14番地1
	臨床工学科 [Department of Clinical Engineering]	4	30	—	120	学士 (臨床工学)	平成30年4月 第1年次	
	国際文化交流学部 [Faculty of Intercultural Communication] 国際文化交流学科 [Department of Intercultural Communication]	4	80	—	320	学士 (国際文化学)	平成30年4月 第1年次	石川県小松市土居原町10-10
	計		240	—	960			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		小松短期大学（廃止） 地域創造学科 (△120) ※平成30年4月学生募集停止 専攻科 臨床工学専攻科 (△20) 診療情報管理専攻科 (△40) ※平成32年4月学生募集停止 平成30年4月1日 公立大学法人公立小松大学設立予定（平成29年12月申請予定） 平成30年4月1日 小松短期大学設置者変更予定（平成29年12月申請予定）						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	生産システム科学部 生産システム科学科	90 科目	14 科目	6 科目	110 科目	124 単位		
	保健医療学部 看護学科	96 科目	27 科目	15 科目	138 科目	127 単位		
	保健医療学部 臨床工学科	90 科目	15 科目	11 科目	116 科目	124 単位		
	国際文化交流学部 国際文化交流学科	109 科目	49 科目	4 科目	162 科目	127 単位		
		看護学科において保健師選択者は、卒業要件単位数を142単位とする。						

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称			専任教員等						兼 教 員 等				
				教授	准教授	講師	助教	計	助手					
	新 設 分	生産システム科学部 生産システム科学科	13人 (9)	4人 (3)	0人 (0)	2人 (2)	19人 (14)	－ 人 (－)	45人 (43)					
		保健医療学部 看護学科	10人 (8)	2人 (2)	3人 (3)	9人 (5)	24人 (18)	4人 (－)	68人 (58)					
		臨床工学科	7人 (4)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	12人 (9)	－ 人 (－)	65人 (57)					
		国際文化交流学部 国際文化交流学科	9人 (8)	8人 (7)	0人 (0)	1人 (1)	18人 (16)	－ 人 (－)	52人 (40)					
		計	39人 (29)	17人 (15)	5人 (5)	12人 (8)	73人 (57)	4人 (－)	－ (－)					
	既 設 分	該当なし	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)					
			－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)					
			－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)					
計		－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)						
合 計			39人 (29)	17人 (15)	5人 (5)	12人 (8)	73人 (57)	4人 (－)	－ (－)					
教員以外の 職員の概要	職 種			専 任		兼 任		計						
	事 務 職 員			23人 (15)		0人 (0)		23人 (15)						
	技 術 職 員			4人 (1)		0人 (0)		4人 (1)						
	図 書 館 専 門 職 員			3人 (2)		0人 (0)		3人 (2)						
	そ の 他 の 職 員			0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)						
	計			30人 (18)		0人 (0)		30人 (18)						
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地		18,962.05 m ²		0 m ²		0 m ²		18,962.05 m ²					
	運 動 場 用 地		14,271.00 m ²		0 m ²		0 m ²		14,271.00 m ²					
	小 計		33,233.05 m ²		0 m ²		0 m ²		33,233.05 m ²					
	そ の 他		8,251.28 m ²		0 m ²		0 m ²		8,251.28 m ²					
	合 計		41,484.33 m ²		0 m ²		0 m ²		41,484.33 m ²					
校 舎			専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計						
			16,305.47 m ² (4,555.95 m ²)	0 m ² (3,644.67 m ²)		0 m ² (4,926.47 m ²)		16,305.47 m ² (13,127.09 m ²)						
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
	23 室		12 室		18 室		0 室 (補助職員 0人)		0 室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室			新設学部等の名称				室 数							
			生産システム科学部 生産システム学科				20 室							
			保健医療学部 看護学科				16 室							
			保健医療学部 臨床工学科				9 室							
			国際文化交流学部 国際文化交流学科				17 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点	
	生産システム科学部 生産システム科学科		13,558 [524] (12,911 [354])		46 [29] (46 [29])		29 [29] (29 [29])		156 (71)		96 (28)		0 (0)	
	保健医療学部 看護学科		9,818 [111] (8,877 [98])		36 [3] (36 [3])		3 [3] (3 [3])		867 (799)		103 (89)		93 (79)	
	保健医療学部 臨床工学科		6,182 [102] (6,061 [96])		9 [0] (9 [0])		0 [0] (0 [0])		130 (92)		138 (104)		18 (18)	
	国際文化交流学部 国際文化交流学科		12,000 [513] (10,064 [325])		54 [20] (54 [20])		20 [20] (20 [20])		345 (246)		0 (0)		0 (0)	
	計		41,558 [1,250] (37,913 [873])		145 [52] (145 [52])		52 [52] (52 [52])		1,498 (1,208)		337 (221)		111 (97)	
	図書館			面積 909.83 m ²		閲覧座席数 118 席				収 納 可 能 冊 数 80,000 冊				
体育館			面積 960.00 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要									
			－		－									

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員 1 人当り 研究費等	生産システム科学科		600千円	600千円	600千円	600千円	—	—	
			看護学科		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
			臨床工学科		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
			国際文化交流学科		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
		共同研究費等	生産システム科学科		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	—	—	
			看護学科		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
			臨床工学科		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
			国際文化交流学科		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	
		図書購入費	生産システム科学科	13,491千円	13,491千円	13,491千円	7,594千円	7,594千円	—	—	
			看護学科	5,211千円	5,211千円	5,211千円	2,933千円	2,933千円	—	—	
			臨床工学科	1,286千円	1,286千円	1,286千円	722千円	722千円	—	—	
国際文化交流学科	6,668千円		6,668千円	6,668千円	3,753千円	3,753千円	—	—			
設備購入費		130,000千円	98,000千円	98,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—			
学生 1 人当り 納付金	第 1 年次		第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		※学生納付金は上から、生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部 ①は市内学生 ②はその他学生		
	①918 ②1,059千円		636千円	636千円	636千円	— 千円	— 千円				
	①918 ②1,059千円		636千円	636千円	636千円	— 千円	— 千円				
	①868 ②1,009千円		586千円	586千円	586千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			大学運営費交付金、資産運用収入、雑収入 等								
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		小松短期大学								
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	地域創造学科		2 年	120 人	— 年次人	240 人	短期大学士	0.66 倍	昭和63年度	石川県小松市四丁町又1番地3	
附属施設の概要			該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

（生産システム科学部生産システム科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	1前	1		○			1						
		アカデミック・スキルズ	1前	1		○								兼14	
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2			○		13	4		2			
		情報処理基礎	1前	2		○			2	3				兼1	
		南加賀の歴史と文化	1後	2		○								兼1	
		小計（5科目）	—	8	0	0	—		13	4	0	2	0	兼16	—
	一般科目（人間力）	哲学	1前		2	○								兼1	
		心理学	1前		2	○								兼1	
		人間の発達と心	1前		2	○								兼1	
		日本の伝統芸能	1前		2	○								兼1	
		人文地理学	1後		2	○								兼1	
		文化人類学	1後		2	○								兼1	
		医療と文化	1後		2	○								兼1	集中
		文章表現法	1後		2	○								兼1	
		言葉と文化	1後		2	○								兼2	オムニバス
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼8	—
	一般科目（社会力）	日本産業史	1前		2	○			4						オムニバス
		自然資源と環境問題	1前		2	○								兼1	
		経済学	1前		2	○								兼2	オムニバス
		政治学	1後		2	○								兼2	オムニバス
		社会学	1後		2	○								兼1	
		公共政策論	1後		2	○								兼1	
		社会福祉論	1後		2	○								兼1	
		日本国憲法	1前		2	○								兼1	
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		4	0	0	0	0	兼9	—
	一般科目（科学力）	データ科学と社会	1前		2	○			3						オムニバス
		情報処理応用A	1後		2	○				2					
		情報処理応用B	1後		2	○								兼1	
		クリティカルシンキング	1後		2	○								兼1	
		統計学	1前		2	○			1					兼1	
		現代科学技術論	1前		2	○			5						オムニバス
		小計（6科目）	—	0	12	0	—		7	2	0	0	0	兼3	—
	一般科目（健康と体力）	健康と体の科学	1前		2	○								兼2	オムニバス
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1		○							兼1	
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1		○							兼1	
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1		○							兼1	
		スポーツ演習（卓球）	1後		1		○							兼1	
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1		○							兼1	
		小計（6科目）	—	0	7	0	—		0	0	0	0	0	兼3	—

教 育 課 程 等 の 概 要															
(生産システム科学部生産システム科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
共通 教育 科目	英語 科目	英語Ⅰa	1前	2		○								兼5	
		英語Ⅰb	1前	2		○								兼3	
		英語Ⅱa	1後	2		○								兼3	
		英語Ⅱb	1後	2		○								兼4	
		英語Ⅲ	1後		2	○								兼1	
		英会話Ⅰ	1後		2		○							兼1	
		英会話Ⅱ	1後		2		○							兼1	
		実用英語Ⅰ	1前・後			2	○							兼1	
		実用英語Ⅱ	1前・後			2	○							兼1	
		実用英語Ⅲ	1前・後			2	○							兼1	
		実用英語Ⅳ	1前・後			2	○							兼1	
		小計（11科目）	—	8	6	8	—		0	0	0	0	0	兼11	
	その他 外国語 科目	中国語Ⅰ	1前		2	○								兼1	
		中国語Ⅱ	1後		2	○								兼1	
		フランス語Ⅰ	1前		2	○								兼1	
		フランス語Ⅱ	1後		2	○								兼1	
		ドイツ語Ⅰ	1前		2	○								兼1	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2	○								兼1	
		ロシア語Ⅰ	1前		2	○								兼1	
		ロシア語Ⅱ	1後		2	○								兼1	
		スペイン語Ⅰ	1前		2	○								兼1	
		スペイン語Ⅱ	1後		2	○								兼1	
		小計（10科目）	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	兼5	
専門 基礎 科目	応用数学Ⅰ	1前	2			○			1						
	工業数学	1前	2			○			1						
	応用物理学	1前	2			○			1						
	工業力学	1後	2			○			1						
	プログラミングⅠ	1後	2			○			1	1					共同
	材料力学及び演習	2前	2			○			1						※演習
	工業熱力学及び演習	2前	2			○			1						※演習
	流れ学及び演習	2前	2			○			1						※演習
	電気回路及び演習	2前	2			○			1						※演習
	振動工学及び演習	2後	2			○			1						※演習
	小計（10科目）	—	20	0	0	—			8	1	0	0	0	0	—
	数値解析	2後	2			○			1						
専門 共通 科目	技術英語Ⅰ	2後	2			○								兼1	
	技術者倫理	2後	2			○			2						オムニバス
	機械設計製図Ⅰ	2後	2				○		2	1		1			
	生産工学	3前	2			○			1	1					
	ロボット機構学	3前	2			○			1	1					オムニバス
	技術英語Ⅱ	3前	2			○								兼1	
	機械設計製図Ⅱ	3前	2				○		2			2			
	機械工作実習	3前	1					○	3	1		2			共同
	機械電気工学実験Ⅰ	3前	1					○	5	2		2			共同

教 育 課 程 等 の 概 要															
(生産システム科学部生産システム科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 共通 科目	生産技術	3後	2			○			1						
	課題探求プロジェクト	3後	1				○		13	4		2			
	技術英語演習Ⅰ	3後	1				○							兼1	
	機械電気工学実験Ⅱ	3後	1					○	4	3		1			共同
	学外技術体験実習A	3前・後		1				○	1						
	学外技術体験実習B	3前・後		2				○	1						
	課題研究ゼミナール	4前	1				○		13	4		2			
	技術英語演習Ⅱ	4前	1				○							兼1	
	卒業研究	4通	8					○	13	4		2			
	小計（19科目）	—	33	3	0	—			13	4	0	2	0	兼1	—
専門 科目	応用数学Ⅱ	1後		2		○			1						
	複素解析	1後		2		○			1						
	化学入門	1後		2		○								兼1	
	統計・確率論	2前		2		○			1						
	エレクトロニクス概論	2前		2		○			1						
	プログラミングⅡ	2前		2		○			1						
	機械加工学	2後		2		○			1						
	電気制御学	2後		2		○			1						
	機械材料学	2後		2		○			1						
	機械要素設計	2後		2		○			1						
	エネルギー資源と開発	2後		2		○			1						
	アルゴリズム論	2後		2		○			1						
	応用電磁気学	2後		2		○			1						
	環境適合技術論	3前		2		○			1						
	制御工学	3前		2		○				1					
	電子回路	3前		2		○				1					
	情報科学概論	3前		2		○			1						
	データベース論	3前		2		○			1						
	資源有効利用学	3後		2		○			1						
	人工知能	3後		2		○			1						
	電気機器工学	3後		2		○				1					
	画像認識論	3後		2		○				1					
	データマイニング	3後		2		○			1						
	地球環境と環境流体	4前		2		○			1						
	センサと通信	4前		2		○			1						
	インテリジェント生産システム	4前		2		○			1						
	小計（26科目）	—	0	52	0	—			11	3	0	0	0	兼1	—
合計（110科目）		—	69	134	8	—			13	4	0	2	0	兼45	—

教 育 課 程 等 の 概 要			
(生産システム科学部生産システム科学科)			
学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1 共通教育科目（計38単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力6単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 （4）（1）～（3）で履修した科目以外から5単位以上 2 専門科目（計86単位以上） （1）専門基礎科目 必修20単位 （2）専門共通科目 必修33単位、選択必修1単位以上 （3）専門科目（コース別） 専門分野別に生産機械コース、知能機械コースの2つを設け、 コース必修科目8単位及び選択科目24単位以上の計32単位以上 【生産機械コース選択者】 ・コース必修科目8単位 「機械加工学」「電気制御学」「資源有効利用論」「地球環境と環境流体」 ・選択科目から24単位以上を選択 【知能機械コース選択者】 ・コース必修科目8単位 「アルゴリズム論」「制御工学」「人口知能」「センサと通信」 ・選択科目から24単位以上を選択 以上、共通教育38単位以上、専門科目86単位以上、合計124単位以上 3 履修単位の登録の上限 48単位（年間）		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

（生産システム科学部生産システム科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 基 礎 科 目	振動工学及び演習	2後	2			○			1						※演習
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			8	1	0	0	0	0	—
専 門 共 通 科 目	数値解析	2後	2			○			1						
	技術英語Ⅰ	2後	2			○								兼1	
	技術者倫理	2後	2			○			2						オムニバス
	機械設計製図Ⅰ	2後	2				○		2	1		1			
	生産工学	3前	2			○			1						
	ロボット機構学	3前	2			○			1	1					オムニバス
	技術英語Ⅱ	3前	2			○								兼1	
	機械設計製図Ⅱ	3前	2				○		2			2			
	機械工作実習	3前	1					○	3	1		2			共同
	機械電気工学実験Ⅰ	3前	1					○	5	2		2			共同
	生産技術	3後	2			○			1						
	課題探求プロジェクト	3後	1				○		13	4		2			
	技術英語演習Ⅰ	3後	1				○							兼1	
	機械電気工学実験Ⅱ	3後	1					○	4	3		1			共同
	学外技術体験実習A	3前・後		1				○	1						
	学外技術体験実習B	3前・後		2				○	1						
	課題研究ゼミナール	4前	1				○		13	4		2			
	技術英語演習Ⅱ	4前	1				○							兼1	
	卒業研究	4通	8					○	13	4		2			
	小計（19科目）	—	33	3	0	—			13	4	0	2	0	兼1	—
専 門 科 目	機械加工学	2後		2		○			1						
	電気制御学	2後		2		○			1						
	機械材料学	2後		2		○			1						
	機械要素設計	2後		2		○			1						
	エネルギー資源と開発	2後		2		○			1						
	アルゴリズム論	2後		2		○			1						
	応用電磁気学	2後		2		○			1						
	環境適合技術論	3前		2		○			1						
	制御工学	3前		2		○				1					
	電子回路	3前		2		○				1					
	情報科学概論	3前		2		○			1						
	データベース論	3前		2		○			1						
	資源有効利用学	3後		2		○			1						
	人工知能	3後		2		○			1						
	電気機器工学	3後		2		○				1					
	画像認識論	3後		2		○				1					
	データマイニング	3後		2		○			1						
	地球環境と環境流体	4前		2		○			1						
	センサと通信	4前		2		○			1						
	インテリジェント生産システム	4前		2		○			1						
小計（20科目）	—	0	40	0	—			11	3	0	0	0	兼1	—	
合計（40科目）		—	35	43	0	—			13	4	0	2	0	兼1	—

教 育 課 程 等 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1 共通教育科目（計38単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力6単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 （4）（1）～（3）で履修した科目以外から5単位以上 2 専門科目（計86単位以上） （1）専門基礎科目 必修20単位 （2）専門共通科目 必修33単位、選択必修1単位以上 （3）専門科目（コース別） 専門分野別に生産機械コース、知能機械コースの2つを設け、 コース必修科目8単位及び選択科目24単位以上の計32単位以上 【生産機械コース選択者】 ・コース必修科目8単位 「機械加工学」「電気制御学」「資源有効利用論」「地球環境と環境流体」 ・選択科目から24単位以上を選択 【知能機械コース選択者】 ・コース必修科目8単位 「アルゴリズム論」「制御工学」「人口知能」「センサと通信」 ・選択科目から24単位以上を選択 以上、共通教育38単位以上、専門科目86単位以上、合計124単位以上 3 履修単位の登録の上限 48単位（年間）		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

（生産システム科学部生産システム科学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	1前	1		○			1						
		アカデミック・スキルズ	1前	1		○								兼14	
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2			○		13	4		2			
		情報処理基礎	1前	2		○			2	3				兼1	
		南加賀の歴史と文化	1後	2		○								兼1	
		小計（5科目）	—	8	0	0	—		13	4	0	2	0	兼16	—
	一般科目（人間力）	哲学	1前		2	○								兼1	
		心理学	1前		2	○								兼1	
		人間の発達と心	1前		2	○								兼1	
		日本の伝統芸能	1前		2	○								兼1	
		人文地理学	1後		2	○								兼1	
		文化人類学	1後		2	○								兼1	
		医療と文化	1後		2	○								兼1	集中
		文章表現法	1後		2	○								兼1	
		言葉と文化	1後		2	○								兼2	オムニバス
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼8	—
	一般科目（社会力）	日本産業史	1前		2	○			4						オムニバス
		自然資源と環境問題	1前		2	○								兼1	
		経済学	1前		2	○								兼2	オムニバス
		政治学	1後		2	○								兼2	オムニバス
		社会学	1後		2	○								兼1	
		公共政策論	1後		2	○								兼1	
		社会福祉論	1後		2	○								兼1	
		日本国憲法	1前		2	○								兼1	
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		4	0	0	0	0	兼9	—
	一般科目（科学力）	データ科学と社会	1前		2	○			3						オムニバス
		情報処理応用A	1後		2	○				2					
		情報処理応用B	1後		2	○								兼1	
		クリティカルシンキング	1後		2	○								兼1	
		統計学	1前		2	○			1					兼1	
		現代科学技術論	1前		2	○			5						オムニバス
		小計（6科目）	—	0	12	0	—		7	2	0	0	0	兼3	—
	一般科目（健康と体力）	健康と体の科学	1前		2	○								兼2	オムニバス
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1		○							兼1	
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1		○							兼1	
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1		○							兼1	
		スポーツ演習（卓球）	1後		1		○							兼1	
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1		○							兼1	
		小計（6科目）	—	0	7	0	—		0	0	0	0	0	兼3	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(生産システム科学部生産システム科学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	英語科目	英語Ⅰa	1前	2			○									兼5
		英語Ⅰb	1前	2			○									兼3
		英語Ⅱa	1後	2			○									兼3
		英語Ⅱb	1後	2			○									兼4
		英語Ⅲ	1後		2		○									兼1
		英会話Ⅰ	1後		2			○								兼1
		英会話Ⅱ	1後		2			○								兼1
		実用英語Ⅰ	1前・後			2	○									兼1
		実用英語Ⅱ	1前・後			2	○									兼1
		実用英語Ⅲ	1前・後			2	○									兼1
		実用英語Ⅳ	1前・後			2	○									兼1
	小計（11科目）	—	8	6	8	—			0	0	0	0	0	兼11		
	その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		中国語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		フランス語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		フランス語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		ロシア語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		ロシア語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		小計（10科目）	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
専門基礎科目		応用数学Ⅰ	1前	2			○			1						
	工業数学	1前	2			○			1							
	応用物理学	1前	2			○			1							
	工業力学	1後	2			○			1							
	プログラミングⅠ	1後	2			○			1	1					共同	
	材料力学及び演習	2前	2			○			1						※演習	
	工業熱力学及び演習	2前	2			○			1						※演習	
	流れ学及び演習	2前	2			○			1						※演習	
	電気回路及び演習	2前	2			○			1						※演習	
	小計（9科目）	—	18	0	0	—			7	1	0	0	0	0	—	
	専門科目	応用数学Ⅱ	1後		2		○			1						
複素解析		1後		2		○			1							
化学入門		1後		2		○								兼1		
統計・確率論		2前		2		○			1							
エレクトロニクス概論		2前		2		○			1							
プログラミングⅡ		2前		2		○			1							
小計（6科目）		—	0	12	0	—			3	0	0	0	0	兼1	—	
合計（70科目）		—	34	91	8	—			13	4	0	2	0	兼45	—	

教 育 課 程 等 の 概 要			
(生産システム科学部生産システム科学科)			
学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1 共通教育科目（計38単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力6単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 （4）（1）～（3）で履修した科目以外から5単位以上 2 専門科目（計86単位以上） （1）専門基礎科目 必修20単位 （2）専門共通科目 必修33単位、選択必修1単位以上 （3）専門科目（コース別） 専門分野別に生産機械コース、知能機械コースの2つを設け、コース必修科目8単位及び選択科目24単位以上の計32単位以上 【生産機械コース選択者】 ・コース必修科目8単位 「機械加工学」「電気制御学」「資源有効利用論」「地球環境と環境流体」 ・選択科目から24単位以上を選択 【知能機械コース選択者】 ・コース必修科目8単位 「アルゴリズム論」「制御工学」「人口知能」「センサと通信」 ・選択科目から24単位以上を選択 以上、共通教育38単位以上、専門科目86単位以上、合計124単位以上 3 履修単位の登録の上限 48単位（年間）		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		○			1		1	1		兼3
		アカデミック・スキルズ	1前	1		○								兼11
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2			○		3	1	1			兼5
		情報処理基礎	1前	2		○								兼6
		南加賀の歴史と文化	1後	2		○								兼1
		小計（5科目）	—	8	0	0	—		4	1	2	1	0	兼2
	一般科目（人間力）	哲学	1前		2	○								兼1
		心理学	1前		2	○								兼1
		人間の発達と心	1前		2	○								兼1
		日本の伝統芸能	1前		2	○								兼1
		人文地理学	1後		2	○								兼1
		文化人類学	1後		2	○								兼1
		医療と文化	1後		2	○								兼1 集中
		文章表現法	1後		2	○								兼1
		言葉と文化	1後		2	○								兼2 オムニバス
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼6
	一般科目（社会力）	日本産業史	1前		2	○								兼4 オムニバス
		自然資源と環境問題	1前		2	○								兼1
		経済学	1前		2	○								兼2 オムニバス
		政治学	1後		2	○								兼2 オムニバス
		社会学	1後		2	○								兼1
		公共政策論	1後		2	○								兼1
		社会福祉論	1後		2	○								兼1
		日本国憲法	1前		2	○								兼1
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼13
	一般科目（科学力）	データ科学と社会	1前		2	○								兼3 オムニバス
		情報処理応用A	1後		2	○								兼2
		情報処理応用B	1後		2	○								兼1
		クリティカルシンキング	1後		2	○								兼1
		統計学	1前		2	○								兼2
		教養としての物理	1前		2	○								兼2
		教養としての数学	1後		2	○								兼2
		現代科学技術論	1前		2	○								兼5 オムニバス
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼14
	一般科目（健康と体力）	健康と体の科学	1前		2	○			1					兼1 オムニバス
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1		○							兼1
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1		○							兼1
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1		○							兼1
		スポーツ演習（卓球）	1後		1		○							兼1
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1		○							兼1
		小計（6科目）	—	0	7	0	—		1	0	0	0	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語科目	英語Ⅰa	1前	2		○								兼5
		英語Ⅰb	1前	2		○								兼3
		英語Ⅱa	1後	2		○								兼3
		英語Ⅱb	1後	2		○								兼4
		英語Ⅲ	1後		2	○								兼1
		英会話Ⅰ	1後		2		○							兼1
		英会話Ⅱ	1後		2		○							兼1
		実用英語Ⅰ	1前・後		2	○								兼1
		実用英語Ⅱ	1前・後		2	○								兼1
		実用英語Ⅲ	1前・後		2	○								兼1
		実用英語Ⅳ	1前・後		2	○								兼1
		小計（11科目）	—	8	6	8	—		0	0	0	0	0	兼11
	その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		中国語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		フランス語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		フランス語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		ドイツ語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ドイツ語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		ロシア語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ロシア語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		スペイン語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		スペイン語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		小計（10科目）	—	0	20	0	—							兼5
専門基礎科目	人の身体と心を知る ステージ	解剖学	1前	2		○								兼1
		生理学	1前	2		○								兼1
		病理学	1前	2		○								兼1
		心の健康とストレスマネジメント論	1前	1			○		2					オムニバス
		感染免疫学	1後	2		○								兼1
		栄養・生化学	1後	2		○								兼2
		薬理学	1後	2		○								兼1
		小計（7科目）	—	13	0	0	—		2	0	0	0	0	兼5
	人の健康問題を考える ステージ	認知症ケア論	1後	1			○		1					
		老年疾病・治療論	2前	1		○								兼1
		公衆衛生学	2前	1		○								兼1
		急性疾患論	2前	1		○								兼1
		母子疾病・治療論	2前	2		○								兼1
		生活習慣病論	2後	2		○								兼1
		保健医療福祉法制度論	2後	2		○								兼1
		疫学・保健統計学	2後	2		○			1					
		小計（8科目）	—	12	0	0	—		2	0	0	0	0	兼6
専門科目	看護とは何かを 理解するステージ	市民健康論	1前	1			○		3					オムニバス 共同（一部）
		看護学概論	1後	1			○		2					オムニバス 共同（一部）
		基礎看護実習Ⅰ	1後	1				○	2			3		共同
		看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）	2前	2			○		2					共同
		看護の技基礎コースⅡ （フィジカルアセスメント）	2前	1			○		2					共同
		看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）	2後	2			○		2					共同

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	看護とは何かを理解 するステージ	看護ケア提供論：看護理論と看護過程	2前	1			○		1					
		看護の品格育成論	2前	1			○		2					共同
		看護倫理	2前	1		○			1					
		基礎看護実習Ⅱ	2後	2				○	2			3		共同
		精神保健看護学概論	2前	1		○			1					
		精神保健看護ケア提供論	2前	2		○			1					
		精神保健看護演習	2後	1			○		1					
		精神保健看護実習Ⅰ	2後	1				○	1			2		共同
		精神保健看護実習Ⅱ	3通	1				○	1			2		共同
		小計（15科目）	—	19	0	0	—		7	0	0	5	0	—
	看護ケア能力を育てる ステージ	老年看護学概論	2前	1			○		1					
		老年看護ケア提供論	2前	1			○		1					
		老年看護演習	2後	2			○		1		1			共同
		老年看護実習Ⅰ	3通	2				○	1		1	1		共同
		老年看護実習Ⅱ	3通	2				○	1		1	1	1	共同
		成人看護学概論	2前	1			○		1					
		成人看護ケア提供論	2前	2			○		1	1				オムニバス
		成人看護演習	3前	3			○		1	1				共同
		成人看護実習Ⅰ（急性）	3通	2				○	1	1	1	1		共同
		成人看護実習Ⅱ（慢性）	3通	2				○	1	1	1	1		共同
		成人看護実習Ⅲ（回復・維持）	3通	2				○	1	1	1	1		共同
		母性看護学概論	2前	1			○		1					
		母性看護ケア提供論	2前	1			○		1					
		母性看護演習	3前	2			○		1					
		母性看護実習	3通	2				○	1				2	
		小児看護学概論	2前	1			○		1					
		小児看護ケア提供論	2前	1			○		1					
		小児看護演習	3前	2			○		1					
		小児看護実習Ⅰ	2後	1				○	1			1		共同
		小児看護実習Ⅱ	3通	1				○	1			1	2	共同
		小計（20科目）	—	32	0	0	—		4	1	2	3	3	—
	看護ケア能力を 広げるステージ	在宅看護学概論	2後	1			○		1					
		在宅看護ケア提供論	2後	1			○		1					
		在宅看護演習	3前	2			○		1					
		在宅看護実習	3通	2				○	1	1			1	共同
		看護統合実習	4前	2				○	8	1	3	8	4	
		公衆衛生看護学概論	2後	1			○		1					
		健康教育論	2後	1			○		1			1		オムニバス
		公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）	3後		1		○		1					
		公衆衛生看護方法論Ⅱ （公衆衛生看護技術）	3後		1		○		1					
		公衆衛生看護方法論Ⅲ （学校・産業・災害）	4前		2		○		1	1				オムニバス 共同（一部）
		公衆衛生看護方法論Ⅳ （地域看護診断）	4前		1		○		1	1				共同
		公衆衛生看護方法論Ⅴ （健康診査・家庭訪問・健康教育）	4前		2		○		1	1				共同
		公衆衛生看護管理論	4前		1		○		1					
		疫学・保健統計学演習	3後		2		○		1					
		公衆衛生看護実習	4通		5			○	1	1		1		共同
		小計（15科目）	—	10	15	0	—		10	2	3	9	4	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
（保健医療学部看護学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	看護熟練の技 看護の未来を共創するステージ	安全・安楽なポジショニングの技	4前		1		○			1						
		排便ケア	4前		1		○			1						
		看護リーダー	4前		1		○			1						
		食と看護	4後		1		○			1						
		タッチケア・スキル	4後		1		○			1						
		ノンテクニカル・スキル	4後		1		○			1						
		MMPI心理検査と看護ケア	4後		1		○			1						
	看護未来創出	グローバル感染対策	4前		1		○			1						
		看護技術の科学的検証	4前		1		○			1					兼1	共同
		地域の健康課題と多職種連携	4前		1		○			1						
		統合医療	4後		1		○				1					
		地域包括ケア	4後		1		○			1						
		チーム医療論	4前		2		○								兼2	共同
		看護と異文化理解	4通		2		○			1						
		研究方法論	4前	2			○			1						
		卒業研究	4通	4				○		10	2					
小計（16科目）	—	6	16	0	—			10	2				兼3			
合計（138科目）		—	108	114	8	—			10	2	3	9	4	兼68	—	
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学）								
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
1 共通教育科目（計31単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力4単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 2 専門基礎科目（計25単位） （1）人の健康を知るステージ 必修13単位 （2）人の健康問題を考えるステージ 必修12単位 3 専門科目（計71単位以上） （1）看護とは何かを理解するステージ 必修19単位 （2）看護ケア能力を育てるステージ 必修32単位 （3）看護ケア能力を広げるステージ 必修10単位 ※保健師選択者は、更に必修15単位 （4）看護の未来を共創するステージ 必修6単位、選択必修4単位以上 以上、共通教育31単位以上、専門基礎科目25単位、専門科目71単位以上、合計127単位以上 ※保健師選択者は、専門科目86単位以上 合計142単位以上 4 履修科目の登録の上限 48単位(年間)									1 学年の学期区分				2 学期			
									1 学期の授業期間				15週			
									1 時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																
（保健医療学部看護学科）																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	人の健康問題を考えるステージ	生活習慣病論	2後	2			○								兼1	
		保健医療福祉法制度論	2後	2			○								兼1	
		疫学・保健統計学	2後	2			○			1						
		小計（3科目）	—	6	0	0	—			1	0	0	0	0	兼2	—
専門教育	理解するステージ	基礎看護実習Ⅰ	1後	1					○	2			3			共同
		看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）	2後	2				○		2						共同
		基礎看護実習Ⅱ	2後	2					○	2			3			共同
		精神保健看護演習	2後	1				○		1						
		精神保健看護実習Ⅰ	2後	1					○	1			2			共同
		精神保健看護実習Ⅱ	3通	1					○	1			2			共同
		小計（6科目）	—	8	0	0	—			3	0	0	5	0		—
	看護ケア能力を育てるステージ	老年看護演習	2後	2				○		1		1				共同
		老年看護実習Ⅰ	3通	2					○	1		1	1			共同
		老年看護実習Ⅱ	3通	2					○	1		1	1	1		共同
		成人看護演習	3前	3				○		1	1					共同
		成人看護実習Ⅰ（急性）	3通	2					○	1	1	1	1			共同
		成人看護実習Ⅱ（慢性）	3通	2					○	1	1	1	1			共同
		成人看護実習Ⅲ（回復・維持）	3通	2					○	1	1	1	1			共同
		母性看護演習	3前	2				○		1						
		母性看護実習	3通	2					○	1				2		
		小児看護演習	3前	2				○		1						
		小児看護実習Ⅰ	2後	1					○	1			1			共同
		小児看護実習Ⅱ	3通	1					○	1			1	2		共同
		小計（12科目）	—	23	0	0	—			4	1	2	3	3		—
	看護ケア能力を拡げるステージ	在宅看護学概論	2後	1			○			1						
		在宅看護ケア提供論	2後	1			○			1						
		在宅看護演習	3前	2				○		1						
		在宅看護実習	3通	2					○	1	1			1		共同
		看護統合実習	4前	2					○	8	1	3	8	4		
		公衆衛生看護学概論	2後	1			○			1						
		健康教育論	2後	1			○			1			1			オムニバス
		公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）	3後		1		○			1						
		公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3後		1		○			1						
		公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）	4前		2		○			1	1					オムニバス 共同（一部）
		公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）	4前		1			○		1	1					共同
		公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）	4前		2			○		1	1					共同
		公衆衛生看護管理論	4前		1		○			1						
		疫学・保健統計学演習	3後		2			○		1						
		公衆衛生看護実習	4通		5				○	1	1		1			共同
		小計（15科目）	—	10	15	0	—			10	2	3	9	4		—

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(保健医療学部看護学科)																	
科目 区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	看護 熟練の技	安全・安楽なポジショニングの技	4前		1		○			1							
		排便ケア	4前		1		○			1							
		看護リーダー	4前		1		○			1							
		食と看護	4後		1		○			1							
		タッチケア・スキル	4後		1		○			1							
		ノンテクニカル・スキル	4後		1		○			1							
		MMPI心理検査と看護ケア	4後		1		○			1							
	看護 未来創 出	グローバル感染対策	4前		1		○			1						兼1	共同
		看護技術の科学的検証	4前		1		○			1							
		地域の健康課題と多職種連携	4前		1		○			1							
		統合医療	4後		1		○				1						
		地域包括ケア	4後		1		○			1							
		チーム医療論	4前		2		○									兼2	共同
		看護と異文化理解	4通		2		○			1							
		研究方法論	4前	2			○			1							
		卒業研究	4通	4				○		10	2						
小計（16科目）		—	6	16	0	—			10	2					兼3		
合計（52科目）			—	53	31	0	—			10	2	3	9	4	兼5	—	
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野					保健衛生学関係（看護学）								
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
1 共通教育科目（計31単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力4単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 2 専門基礎科目（計25単位） （1）人の健康を知るステージ 必修13単位 （2）人の健康問題を考えるステージ 必修12単位 3 専門科目（計71単位以上） （1）看護とは何かを理解するステージ 必修19単位 （2）看護ケア能力を育てるステージ 必修32単位 （3）看護ケア能力を広げるステージ 必修10単位 ※保健師選択者は、更に必修15単位 （4）看護の未来を共創するステージ 必修 6単位、選択必修4単位以上 以上、共通教育31単位以上、専門基礎科目25単位、専門科目71単位以上、合計127単位以上 ※保健師選択者は、専門科目86単位以上 合計142単位以上 4 履修科目の登録の上限 48単位(年間)										1 学年の学期区分				2 学期			
										1 学期の授業期間				15週			
										1 時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		○			1		1	1		兼3
		アカデミック・スキルズ	1前	1		○								兼11
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2			○		3	1	1			兼5
		情報処理基礎	1前	2		○								兼6
		南加賀の歴史と文化	1後	2		○								兼1
		小計（5科目）	—	8	0	0	—		4	1	2	1	0	兼2
	一般科目（人間力）	哲学	1前		2	○								兼1
		心理学	1前		2	○								兼1
		人間の発達と心	1前		2	○								兼1
		日本の伝統芸能	1前		2	○								兼1
		人文地理学	1後		2	○								兼1
		文化人類学	1後		2	○								兼1
		医療と文化	1後		2	○								兼1 集中
		文章表現法	1後		2	○								兼1
		言葉と文化	1後		2	○								兼2 オムニバス
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼8
	一般科目（社会力）	日本産業史	1前		2	○								兼4 オムニバス
		自然資源と環境問題	1前		2	○								兼1
		経済学	1前		2	○								兼2 オムニバス
		政治学	1後		2	○								兼2 オムニバス
		社会学	1後		2	○								兼1
		公共政策論	1後		2	○								兼1
		社会福祉論	1後		2	○								兼1
		日本国憲法	1前		2	○								兼1
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼13
	一般科目（科学力）	データ科学と社会	1前		2	○								兼3 オムニバス
		情報処理応用A	1後		2	○								兼2
		情報処理応用B	1後		2	○								兼1
		クリティカルシンキング	1後		2	○								兼1
		統計学	1前		2	○								兼2
		教養としての物理	1前		2	○								兼2
		教養としての数学	1後		2	○								兼2
		現代科学技術論	1前		2	○								兼5 オムニバス
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼14
	一般科目（健康と体力）	健康と体の科学	1前		2	○			1					兼1 オムニバス
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1		○							兼1
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1		○							兼1
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1		○							兼1
		スポーツ演習（卓球）	1後		1		○							兼1
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1		○							兼1
		小計（6科目）	—	0	7	0	—		1	0	0	0	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部看護学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語科目	英語Ⅰa	1前	2		○								兼5
		英語Ⅰb	1前	2		○								兼3
		英語Ⅱa	1後	2		○								兼3
		英語Ⅱb	1後	2		○								兼4
		英語Ⅲ	1後		2	○								兼1
		英会話Ⅰ	1後		2		○							兼1
		英会話Ⅱ	1後		2		○							兼1
		実用英語Ⅰ	1前・後		2	○								兼1
		実用英語Ⅱ	1前・後		2	○								兼1
		実用英語Ⅲ	1前・後		2	○								兼1
		実用英語Ⅳ	1前・後		2	○								兼1
		小計（11科目）	—	8	6	8	—		0	0	0	0	0	兼11 —
	その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		中国語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		フランス語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		フランス語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		ドイツ語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ドイツ語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		ロシア語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		ロシア語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		スペイン語Ⅰ	1前		2	○								兼1
		スペイン語Ⅱ	1後		2	○								兼1
		小計（10科目）	—	0	20	0	—							兼5 —
専門基礎科目	人の身体と心を知る ステージ	解剖学	1前	2		○								兼1
		生理学	1前	2		○								兼1
		病理学	1前	2		○								兼1
		心の健康とストレスマネジメント論	1前	1			○		2					オムニバス
		感染免疫学	1後	2		○								兼1
		栄養・生化学	1後	2		○								兼2 オムニバス
		薬理学	1後	2		○								兼1
		小計（7科目）	—	13	0	0	—		2	0	0	0	0	兼5 —
	人の健康問題を考える ステージ	認知症ケア論	1後	1			○		1					
		老年疾病・治療論	2前	1		○								兼1
		公衆衛生学	2前	1		○								兼1
		急性疾患論	2前	1		○								兼1
		母子疾病・治療論	2前	2		○								兼1
		小計（5科目）	—	6	0	0	—		1	0	0	0	0	兼4 —
専門科目	看護とは何かを理解する ステージ	市民健康論	1前	1			○		3					オムニバス 共同（一部）
		看護学概論	1後	1			○		2					オムニバス 共同（一部）
		看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）	2前	2			○		2					共同
		看護の技基礎コースⅡ（フィジカルアセスメント）	2前	1			○		2					共同
		看護ケア提供論：看護理論と看護過程	2前	1			○		1					
		看護の品格育成論	2前	1			○		2					共同
		看護倫理	2前	1		○			1					
		精神保健看護学概論	2前	1		○			1					
		精神保健看護ケア提供論	2前	2		○			1					
		小計（9科目）	—	11	0	0	—		7	0	0	5	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要															
（保健医療学部看護学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	看護ケア能力を育てる	老年看護学概論	2前	1			○			1					
	老年看護ケア提供論	2前	1			○			1						
	成人看護学概論	2前	1			○			1						
	成人看護ケア提供論	2前	2			○			1	1				オムニバス	
	母性看護学概論	2前	1			○			1						
	母性看護ケア提供論	2前	1			○			1						
	小児看護学概論	2前	1			○			1						
	小児看護ケア提供論	2前	1			○			1						
	小計（8科目）	—	9	0	0	—			4	1	0	0	0	—	
合計（86科目）		—	55	83	8	—			10	2	2	1	0	兼66 —	
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学）							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
1 共通教育科目（計31単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力4単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 2 専門基礎科目（計25単位） （1）人の健康を知るステージ 必修13単位 （2）人の健康問題を考えるステージ 必修12単位 3 専門科目（計71単位以上） （1）看護とは何かを理解するステージ 必修19単位 （2）看護ケア能力を育てるステージ 必修32単位 （3）看護ケア能力を広げるステージ 必修10単位 ※保健師選択者は、更に必修15単位 （4）看護の未来を共創するステージ 必修6単位、選択必修4単位以上 以上、共通教育31単位以上、専門基礎科目25単位、専門科目71単位以上、合計127単位以上 ※保健師選択者は、専門科目86単位以上 合計142単位以上 4 履修科目の登録の上限 48単位(年間)									1 学年の学期区分			2学期			
									1 学期の授業期間			15週			
									1 時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部臨床工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		○			2		1			兼3
		アカデミック・スキルズ	1前	1		○								兼11
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2			○		1	3	1			兼55
		情報処理基礎	1前	2		○					1			兼55
		南加賀の歴史と文化	1後	2		○								兼1
		小計（5科目）	—	8	0	0	—		3	3	2	0	0	兼24 —
	一般科目（人間力）	哲学	1前		2	○								兼1
		心理学	1前		2	○								兼1
		人間の発達と心	1前		2	○								兼1
		日本の伝統芸能	1前		2	○								兼1
		人文地理学	1後		2	○								兼1
		文化人類学	1後		2	○								兼1
		医療と文化	1後		2	○								兼1 集中
		文章表現法	1後		2	○								兼1
		言葉と文化	1後		2	○								兼2 オムニバス
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼8 —
	一般科目（社会力）	日本産業史	1前		2	○								兼4 オムニバス
		自然資源と環境問題	1前		2	○								兼1
		経済学	1前		2	○								兼2 オムニバス
		政治学	1後		2	○								兼2 オムニバス
		社会学	1後		2	○								兼1
		公共政策論	1後		2	○								兼1
		社会福祉論	1後		2	○								兼1
		日本国憲法	1前		2	○								兼1
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼13 —
	一般科目（科学力）	データ科学と社会	1前		2	○								兼3 オムニバス
		情報処理応用A	1後		2	○								兼2
		情報処理応用B	1後		2	○				1				
		クリティカルシンキング	1後		2	○								兼1
		統計学	1前		2	○			1					兼1
		教養としての物理	1前		2	○				1				兼1
		教養としての数学	1後		2	○					1			兼1
		現代科学技術論	1前		2	○								兼5 オムニバス
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		1	2	1	0	0	兼10 —
	一般科目（健康と体力）	健康と体の科学	1前		2	○								兼2 オムニバス
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1		○							兼1
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1		○							兼1
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1		○							兼1
		スポーツ演習（卓球）	1後		1		○							兼1
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1		○							兼1
		小計（6科目）	—	0	7	0	—		0	0	0	0	0	兼3 —

教 育 課 程 等 の 概 要																
(保健医療学部臨床工学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	英語科目	英語Ⅰa	1前	2			○								兼5	
		英語Ⅰb	1前	2			○								兼3	
		英語Ⅱa	1後	2			○								兼3	
		英語Ⅱb	1後	2			○								兼4	
		英語Ⅲ	1後		2		○								兼1	
		英会話Ⅰ	1後		2			○							兼1	
		英会話Ⅱ	1後		2			○							兼1	
		実用英語Ⅰ	1前・後			2	○								兼1	
		実用英語Ⅱ	1前・後			2	○								兼1	
		実用英語Ⅲ	1前・後			2	○								兼1	
		実用英語Ⅳ	1前・後			2	○								兼1	
	小計（11科目）	－	8	6	8	－			0	0	0	0	0	兼11	－	
	その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		中国語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		フランス語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		フランス語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		ロシア語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		ロシア語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	小計（10科目）	－	0	20	0	－								兼5	－	
専門基礎科目	医学的基礎	臨床工学総論	1前	2			○			2	1	1			オムニバス	
		解剖学	1前	2			○			1						
		解剖生理学実習	2前	1					○	1						
		生理学	1前	2			○			1						
		生化学	1前	2			○			1						
		看護学概論	1後	2			○							兼2	オムニバス 共同（一部）	
		医療関係法規	1後	2			○							兼1		
		病理学	1前	2			○			1						
		薬理学	1後	2			○							兼1		
		公衆衛生学	2前	1			○							兼1		
		医学概論	2後	2			○			1						
		感染免疫学	2後	2			○							兼1		
		小計（12科目）	－	22	0	0	－			4	1	1	0	0	兼6	－

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部臨床工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	応用数学	1後	2			○				1				
	電気工学Ⅰ	1後	2			○			1					
	電気工学Ⅱ	2前	2			○			1					
	電気工学演習Ⅰ	1後		1			○		1	1				共同
	電気工学演習Ⅱ	2前		1			○		1	1				共同
	電気工学実習	2後	2					○	2					共同
	電子工学Ⅰ	2前	2			○			1					
	電子工学Ⅱ	2後	2			○			1					
	電子工学演習Ⅰ	2前		1			○		1	1				共同
	電子工学演習Ⅱ	2後		1			○		1	1				共同
	電子工学実習	3前	2					○	1	1				共同
	医用機械工学	2後	2			○				1				
	情報処理工学	1後	2			○				1				
	プログラミング演習	2前	1				○			2	1			共同
	医用信号処理	2後	2			○			1					
	医用通信システム	3前		2		○			1					
	医用工学	3前	2			○				1				
	医用システム工学実習	3後	2					○	2	2	1			共同
	小計（18科目）	—	25	6	0	—			2	3	1	0	0	—
専門科目	生体物性工学	2前	2			○			1					
	生体材料工学	2後	2			○				1				
	生体計測工学	3前	2			○			1					
	臨床画像工学	3後		2		○			1					
	小計（4科目）	—	6	2	0	—			2	1	0	0	0	—
	医用機器学概論	2前	2			○			1					
	医用治療機器学	2後	2			○			1					
	医用治療機器学実習	3前	1					○	1					
	画像診断装置学	3後	2			○			1					
	生体計測装置学	3前	2			○				1				
	生体計測装置学実習	3後	1					○		1				
	小計（6科目）	—	10	0	0	—			2	1	0	0	0	—
	呼吸機能代行装置学	2前	2			○			1					
	呼吸機能代行装置学実習	2後	1					○	1					
	循環機能代行装置学	2後	2			○					1			
	循環機能代行装置学実習	3前	1					○			1			
	代謝機能代行装置学	2後	2			○								兼1
	代謝機能代行装置学実習	3前	1					○						兼1
	臨床医学Ⅰ（呼吸器、循環器）	3前	2			○			1		1			オムニバス
	臨床医学Ⅱ（代謝、血液）	3後	2			○					1			兼1 オムニバス
	臨床医学Ⅲ（神経系、内分泌系）	3後		2		○			2					オムニバス
	小計（9科目）	—	13	2	0	—			3	0	1	0	0	兼1 —

教 育 課 程 等 の 概 要															
（保健医療学部臨床工学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	医用安全管理学	医用機器安全管理学	3前	2			○			1		1			共同
		医用機器安全管理学実習	3後	1					○	1		1			共同
		小計（2科目）	—	3	0	0	—			1	0	1	0	0	—
	総合実践科目	チーム医療論	4前		2		○			2					共同
		グローバル感染対策	4前		1		○								兼1
		看護技術の科学的検証	4前		1		○								兼2 共同
		地域の健康課題と多職種連携	4前		1		○								兼1
		地域包括ケア	4後		1		○								兼1
		臨床実習	4前	4					○	2	3	2			兼1
		卒業研究Ⅰ	4前	2				○		7	3	2			
		卒業研究Ⅱ	4後	2				○		7	3	2			
	小計（8科目）	—	8	6	0	—			7	3	2	0	0	兼5	
	合計（116科目）		—	103	99	8	—			7	3	2	0	0	兼65
学位又は称号		学士（臨床工学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
1 共通教育科目（計31単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力4単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 2 専門科目（計93単位以上） （1）医学的基礎 必修22単位 （2）理工学的基礎 必修25単位 （3）医用生体工学 必修6単位 （4）医用機器学 必修10単位 （5）生体機能代行技術学 必修13単位 （6）医用安全管理学 必修3単位 （7）総合実践科目 必修8単位 選択科目2単位以上 （8）（1）～（8）で履修した科目以外から4単位以上 以上、共通教育31単位以上、専門科目93単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 48単位（年間）									1学年の学期区分			2学期			
									1学期の授業期間			15週			
									1時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部臨床工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	医学的基礎													
	解剖生理学実習	2前	1					○	1					
	医学概論	2後	2			○			1					
	小計 (2科目)	—	3	0	0	—			1	0	0	0	0	—
専門基礎科目	理工学的基礎													
	電気工学実習	2後	2					○	2					共同
	電子工学Ⅱ	2後	2			○			1					
	電子工学演習Ⅱ	2後		1			○		1	1				共同
	電子工学実習	3前	2					○	1	1				共同
	医用機械工学	2後	2			○				1				
	医用信号処理	2後	2			○			1					
	医用通信システム	3前		2		○			1					
	医用工学	3前	2			○				1				
	医用システム工学実習	3後	2					○	2	2	1			共同
	小計 (9科目)	—	14	3	0	—			2	2	1	0	0	—
専門科目	医用生体工学													
	生体材料工学	2後	2			○				1				
	生体計測工学	3前	2			○			1					
	臨床画像工学	3後		2		○			1					
	小計 (3科目)	—	4	2	0	—			2	1	0	0	0	—
	医用機器学													
	医用治療機器学	2後	2			○			1					
	医用治療機器学実習	3前	1					○	1					
	画像診断装置学	3後	2			○			1					
	生体計測装置学	3前	2			○				1				
	生体計測装置学実習	3後	1					○		1				
	小計 (5科目)	—	8	0	0	—			2	1	0	0	0	—
	生体機能代行技術学													
	呼吸機能代行装置学実習	2後	1					○	1					
	循環機能代行装置学	2後	2			○					1			
	循環機能代行装置学実習	3前	1					○			1			
	代謝機能代行装置学	2後	2			○								兼1
	代謝機能代行装置学実習	3前	1					○						兼1
	臨床医学Ⅰ（呼吸器、循環器）	3前	2			○			1		1			オムニバス
	臨床医学Ⅱ（代謝、血液）	3後	2			○					1			兼1 オムニバス
	臨床医学Ⅲ（神経系、内分泌系）	3後		2		○			2					オムニバス
	小計 (8科目)	—	11	2	0	—			3	0	1	0	0	兼1 —
医用安全管理学														
	医用機器安全管理学	3前	2			○			1		1			共同
	医用機器安全管理学実習	3後	1					○	1		1			共同
	小計 (2科目)	—	3	0	0	—			1	0	1	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要															
（保健医療学部臨床工学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 総合実践科目	チーム医療論	4前		2		○			2						共同
	グローバル感染対策	4前		1		○									兼1
	看護技術の科学的検証	4前		1		○									兼2 共同
	地域の健康課題と多職種連携	4前		1		○									兼1
	地域包括ケア	4後		1		○									兼1
	臨床実習	4前	4					○	2	3	2				兼1
	卒業研究Ⅰ	4前	2				○		7	3	2				
	卒業研究Ⅱ	4後	2				○		7	3	2				
	小計（8科目）	—	8	6	0	—			7	3	2	0	0	兼5	—
合計（37科目）		—	51	13	0	—			7	3	2	0	0	兼5	
学位又は称号		学士（臨床工学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1 共通教育科目（計31単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力4単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 2 専門科目（計93単位以上） （1）医学的基礎 必修22単位 （2）理工学的基礎 必修25単位 （3）医用生体工学 必修6単位 （4）医用機器学 必修10単位 （5）生体機能代行技術学 必修13単位 （6）医用安全管理学 必修3単位 （7）総合実践科目 必修8単位 選択科目2単位以上 （8）（1）～（8）で履修した科目以外から4単位以上 以上、共通教育31単位以上、専門科目93単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 48単位（年間）								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学部臨床工学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		○			2		1			兼3
		アカデミック・スキルズ	1前	1		○								兼11
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2			○		1	3	1			兼5
		情報処理基礎	1前	2		○					1			兼5
		南加賀の歴史と文化	1後	2		○								兼1
		小計（5科目）	—	8	0	—			3	3	2	0	0	兼24
	一般科目（人間力）	哲学	1前	2		○								兼1
		心理学	1前	2		○								兼1
		人間の発達と心	1前	2		○								兼1
		日本の伝統芸能	1前	2		○								兼1
		人文地理学	1後	2		○								兼1
		文化人類学	1後	2		○								兼1
		医療と文化	1後	2		○								兼1 集中
		文章表現法	1後	2		○								兼1
		言葉と文化	1後	2		○								兼2 オムニバス
		小計（9科目）	—	0	18	—			0	0	0	0	0	兼8
	一般科目（社会力）	日本産業史	1前	2		○								兼4 オムニバス
		自然資源と環境問題	1前	2		○								兼1
		経済学	1前	2		○								兼2 オムニバス
		政治学	1後	2		○								兼2 オムニバス
		社会学	1後	2		○								兼1
		公共政策論	1後	2		○								兼1
		社会福祉論	1後	2		○								兼1
		日本国憲法	1前	2		○								兼1
		小計（8科目）	—	0	16	—			0	0	0	0	0	兼13
	一般科目（科学力）	データ科学と社会	1前	2		○								兼3 オムニバス
		情報処理応用A	1後	2		○								兼2
		情報処理応用B	1後	2		○				1				
		クリティカルシンキング	1後	2		○								兼1
		統計学	1前	2		○			1					兼1
		教養としての物理	1前	2		○				1				兼1
		教養としての数学	1後	2		○					1			兼1
		現代科学技術論	1前	2		○								兼5 オムニバス
		小計（8科目）	—	0	16	—			1	2	1	0	0	兼10
	一般科目（健康と体力）	健康と体の科学	1前	2		○								兼2 オムニバス
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後	1			○							兼1
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前	1			○							兼1
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後	1			○							兼1
		スポーツ演習（卓球）	1後	1			○							兼1
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後	1			○							兼1
		小計（6科目）	—	0	7	—			0	0	0	0	0	兼3

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部臨床工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通教育科目	英語Ⅰa	1前	2			○								兼5
	英語Ⅰb	1前	2			○								兼3
	英語Ⅱa	1後	2			○								兼3
	英語Ⅱb	1後	2			○								兼4
	英語Ⅲ	1後		2		○								兼1
	英会話Ⅰ	1後		2			○							兼1
	英会話Ⅱ	1後		2			○							兼1
	実用英語Ⅰ	1前・後			2	○								兼1
	実用英語Ⅱ	1前・後			2	○								兼1
	実用英語Ⅲ	1前・後			2	○								兼1
	実用英語Ⅳ	1前・後			2	○								兼1
	小計（11科目）	—	8	6	8	—			0	0	0	0	0	兼10 —
	中国語Ⅰ	1前		2		○								兼1
	中国語Ⅱ	1後		2		○								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		2		○								兼1
	フランス語Ⅱ	1後		2		○								兼1
	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼1
	ロシア語Ⅰ	1前		2		○								兼1
	ロシア語Ⅱ	1後		2		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1前		2		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼1
	小計（10科目）	—	0	20	0	—								兼5 —
専門基礎科目	臨床工学総論	1前	2			○			2	1	1			オムニバス
	解剖学	1前	2			○			1					
	生理学	1前	2			○			1					
	生化学	1前	2			○			1					
	看護学概論	1後	2			○								兼2 オムニバス 共同（一部）
	医療関係法規	1後	2			○								兼1
	病理学	1前	2			○			1					
	薬理学	1後	2			○								兼1
	公衆衛生学	2前	1			○								兼1
	感染免疫学	2後	2			○								兼1
	小計（10科目）	—	19	0	0	—			4	1	1	0	0	兼6 —
専門基礎科目	応用数学	1後	2			○				1				
	電気工学Ⅰ	1後	2			○			1					
	電気工学Ⅱ	2前	2			○			1					
	電気工学演習Ⅰ	1後		1			○		1	1				共同
	電気工学演習Ⅱ	2前		1			○		1	1				共同
	電子工学Ⅰ	2前	2			○			1					
	電子工学演習Ⅰ	2前		1			○		1	1				共同
	情報処理工学	1後	2			○				1				
	プログラミング演習	2前	1				○			2	1			共同
	小計（9科目）	—	11	3	0	—			2	3	1	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学部臨床工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 科 目	医用生体工学	2前	2			○			1					
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	—
	医用機器学	2前	2			○			1					
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	—
	生体機能代行技術学	2前	2			○			1					
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	—
	合計（79科目）	—	52	86	8	—			7	3	2	0	0	兼61
	学位又は称号	学士（臨床工学）	学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
1 共通教育科目（計31単位以上） （1）導入科目 必修8単位 （2）一般科目 人間力6単位以上、社会力4単位以上、科学力4単位以上、健康と体力1単位以上 （3）英語科目 必修8単位 2 専門科目（計93単位以上） （1）医学的基礎 必修22単位 （2）理工学的基礎 必修25単位 （3）医用生体工学 必修6単位 （4）医用機器学 必修10単位 （5）生体機能代行技術学 必修13単位 （6）医用安全管理学 必修3単位 （7）総合実践科目 必修8単位 選択科目2単位以上 （8）（1）～（8）で履修した科目以外から4単位以上 以上、共通教育31単位以上、専門科目93単位以上、合計124単位以上 3 履修科目の登録の上限 48単位（年間）								1学年の学期区分				2学期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際文化交流学部国際文化交流学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅲ	1前	1			○			2	1				
	アカデミック・スキルズ	1前	1			○								兼11
	テーマ別基礎ゼミ	1後	2				○		8	8		1		
	情報処理基礎	1前	2			○								兼6
	南加賀の歴史と文化	1後	2			○			1					
	小計（5科目）	—	8	0	0	—			8	8	0	1	0	兼16 ー
	哲学	1前		2		○								兼1
	心理学	1前		2		○				1				
	人間の発達と心	1前		2		○				1				
	日本の伝統芸能	1前		2		○			1					
	人文地理学	1後		2		○								兼1
	文化人類学	1後		2		○			1					
	医療と文化	1後		2		○								兼1 集中
	文章表現法	1後		2		○			1					
	言葉と文化	1後		2		○			2					オムニバス
	小計（9科目）	—	0	18	0	—			4	1	0	0	0	兼3 ー
	日本産業史	1前		2		○								兼4 オムニバス
	自然資源と環境問題	1前		2		○			1					
	経済学	1前		2		○			1	1				オムニバス
	政治学	1後		2		○				2				オムニバス
	社会学	1後		2		○								兼1
	公共政策論	1後		2		○								兼1
	社会福祉論	1後		2		○								兼1
	日本国憲法	1前		2		○								兼1
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			2	3	0	0	0	兼8 ー
	データ科学と社会	1前		2		○								兼3 オムニバス
	情報処理応用A	1後		2		○								兼2
	情報処理応用B	1後		2		○								兼1
	クリティカルシンキング	1後		2		○								兼1
	統計学	1前		2		○								兼2
	教養としての物理	1前		2		○								兼2
	教養としての数学	1後		2		○								兼2
	現代科学技術論	1前		2		○								兼5 オムニバス
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼14 ー
	健康と体の科学	1前		2		○								兼2 オムニバス
	スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1			○							兼1
	スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1			○							兼1
	スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1			○							兼1
	スポーツ演習（卓球）	1後		1			○							兼1
	スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1			○							兼1
	小計（6科目）	—	0	7	0	—			0	0	0	0	0	兼3 ー

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際文化交流学部国際文化交流学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	英語科目	英語Ⅰa	1前	2			○				2			1		兼2
		英語Ⅰb	1前	2			○			1						兼2
		英語Ⅱa	1後	2			○			1	1			1		
		英語Ⅱb	1後	2			○			1	1					兼2
		英語Ⅲ	1後	2			○									兼1
		実用英語Ⅰ	1前・後			2	○									兼1
		実用英語Ⅱ	1前・後			2	○									兼1
		実用英語Ⅲ	1前・後			2	○									兼1
		実用英語Ⅳ	1前・後			2	○									兼1
		小計（9科目）	—	10	0	8	—			2	2	0	1	0	兼6	—
	その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2		○			1						
		中国語Ⅱ	1後		2		○			1						
		フランス語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		フランス語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○									兼1
		ロシア語Ⅰ	1前		2		○				1					
		ロシア語Ⅱ	1後		2		○				1					
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○			1						
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○			1						
		小計（10科目）	—	0	20	0	—			2	1	0	0	0	兼2	—
専門基礎科目	国際交流論	1前	2			○			1	3					オムニバス 共同（一部） ※演習	
	観光学概論	2前		2		○			1	1					オムニバス	
	地域政策概論	2前		2		○			2						オムニバス	
	グローバルヒストリー	2前		2		○				1					兼1 オムニバス 共同（一部）	
	アジア社会論	2前		2		○				3					オムニバス 共同（一部）	
	日本文化論	2前		2		○			1							
	言語学概論	2前		2		○			3						オムニバス	
	異文化コミュニケーション論	2前	2			○				2					オムニバス 共同（一部）	
	小計（8科目）	—	4	12	0	—			7	8	0	0	0	兼1	—	
外国語科目	基礎外国語科目	English comprehensionⅠ	2前	2				○		1						兼1
		English expressionⅠ	2前	2				○					1			兼1
		Tourism EnglishⅠ	2後		2			○			1					
		English comprehensionⅡa	2前		2			○			1					
		English comprehensionⅡb	2後		2			○			1					
		English expressionⅡa	2後		2			○								兼1
		English expressionⅡb	2後		2			○								兼1
		中国語Ⅰa	1前	2				○		1						
		中国語Ⅰb	1前	2				○		1						
		中国語Ⅱa	1後	2				○		1						
		中国語Ⅱb	1後	2				○		1						
		中国語Ⅲa	2前		2			○		1						
		中国語Ⅲb	2前		2			○		1						
		中国語Ⅳa	2後		2			○		1						
		中国語Ⅳb	2後		2			○		1						
		小計（15科目）	—	12	18	0	—			4	3	0	1	0	兼2	—

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際文化交流学部国際文化交流学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	Tourism English II	3・4前		2			○							兼1	
	English comprehension III	3・4前		2			○		1						
	English expression III	3・4前		2			○					1			
	English presentation I	3・4後		2			○							兼1	
	English presentation II	3・4後		2			○		1						
	中国語理解 I	3・4前		2			○		1						
	中国語理解 II	3・4後		2			○		1						
	中国語表現法	3・4前		2			○		1						
	中国語会話	3・4前		2			○		1						
	ビジネス中国語	3・4後		2			○		1						
	小計 (10科目)	—	0	20	0	—			3	0	0	1	0	兼2	—
専門科目	サスティナブルツーリズム論	2後		2		○			2	1					オムニバス
	観光産業概論	2後		2		○			1						
	世界遺産を学ぶ	2後		2		○			1						
	地域再生マネジメント論	2後		2		○			1						
	観光社会学	2後		2		○								兼1	集中
	観光資源論	3・4前		2		○			1						
	マーケティング調査論	3・4前		2		○								兼1	集中
	インバウンド観光論	3・4前		2		○								兼1	集中
	ホスピタリティマネジメント	3・4前		2		○				1				兼1	オムニバス 集中
	観光人材育成論	3・4後		2		○				1					隔年
	バリアフリーツーリズム論	3・4後		2		○				1					隔年
	グリーンツーリズム論	3・4後		2		○			1						
	観光人類学	3・4後		2		○			1						隔年
	観光地理学	3・4後		2		○			1						隔年
	多文化共生社会論	3・4後		2		○			1	1					オムニバス 共同 (一部)
	地域ブランディング論	3・4前		2		○			1						隔年
	地域産業論	3・4後		2		○			1						隔年
	フードシステム論	3・4前		2		○			1						
	農村地域振興論	3・4後		2		○			1						隔年
	財政学	3・4前		2		○			1						隔年
	社会調査法	3・4後		2		○				1					
	地理情報学概説	3・4前		2		○								兼1	
	観光学演習 A	3前		2			○		1						
	観光学演習 B	3前		2			○			1					
	観光学演習 C	3前		2			○		1						
	地域創生演習	3前		2			○		1						
	多文化共生社会演習	3前		2			○			1					
	課題研究 A	3後		2			○		3	1					共同
	小計 (28科目)	—	0	56	0	—			4	2	0	0	0	兼5	—

教 育 課 程 等 の 概 要														
（国際文化交流学部国際文化交流学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	国際政治論	2後		2		○				2				オムニバス 共同（一部）
	国際貿易論	2後		2		○				1				
	中国語圏社会文化論	2後		2		○				1				
	アジア現代史概論	2後		2		○								兼1
	東南アジア地域社会論	3・4前		2		○				1				
	NGO論	3・4後		2		○				1				
	国際協力論	3・4前		2		○				1				
	イスラーム社会論	3・4前		2		○				1				
	中東政治論	3・4後		2		○				1				
	資源エネルギー・環境論	3・4前		2		○				1				
	新興国経済論	3・4後		2		○				1				
	グローバル論	3・4前		2		○				1				
	サブカルチャー論	3・4後		2		○				1				
	メディア情報論	3・4前		2		○				1				
	現代メディア史	3・4後		2		○				1				
	国際政治論演習A	3前		2			○			1				
	国際政治論演習B	3前		2			○			1				
	国際経済論演習	3前		2			○			1				
	国際社会論演習	3前		2			○			1				
	課題研究B	3後		2			○			4				共同
	小計（20科目）	—	0	40	0	—			0	4	0	0	0	兼1 —
	英語圏言語文化論	2後		2		○			1					
	中国言語文化論	2後		2		○			1					
	英語圏文芸論	2後		2		○				1				
	英語研究A	3・4前		2		○			1					隔年
	英語研究B	3・4後		2		○			1					隔年
	中国語研究A	3・4後		2		○			1					
	中国語研究B	3・4前		2		○			1					
	社会言語学	3・4前		2		○			1					
	日本語の歴史	3・4前		2		○			1					
	語用論	3・4前		2		○						1		
	日英対照言語表現論	3・4後		2		○						1		
	比較文学論	3・4後		2		○			1					兼3 オムニバス
	日本古典読解	3・4前		2		○			1					
	相互理解の心理学	3・4後		2		○				1				
	言語学演習	3後		2			○		1					
	社会言語学演習	3前		2			○		1					
	日本語学演習	3前		2			○		1					
	英語学演習	3前		2			○					1		
	中国語学演習	3後		2			○		1					
	日本文化論演習	3後		2			○		1					
	小計（20科目）	—	0	40	0	—			5	2	0	1	0	兼3 —

教 育 課 程 等 の 概 要

（国際文化交文学部国際文化交文学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	卒業論文	4通	8				○		8	7		1		
	インターンシップⅠ	3前		2				○	3	2				
	インターンシップⅡ	3前・後		2				○	3	2				
	異文化体験実習	2・3前 2・3後		4				○	3	2		1		※講義
	海外語学研修	2・3前 2・3後		4		○			4	1		1		
	地域実習	3・4通		2				○	5	2				
	小計（6科目）	—	8	14	0	—			9	8	0	1	0	—
合計（162科目）		—	42	277	8	—			9	8	0	1	0	兼52 —

6

授 業 科 目 の 概 要			
(生産システム科学部生産システム科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	導入科目		
	キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	「生産システム科学部」設立の理念、本学部で学ぶ意味、将来のキャリアパスについて考える機会を与える。また、選挙権を有する社会人としての自覚を促し、その中で必要となる基礎的知識とスキル、自己管理能力、他との協調性を身につけ、人間力養成を図ることが目標である。授業においては、「生産システム科学部」における教育研究を概観し、本学部で何を学び、何を研究すべきかについて議論する。南加賀の地において活躍する企業人を非常勤講師として迎え、現代社会を一個人として生きて行く上で必須となる健康論、環境論、人権論、地域概論、企業倫理、キャリア形成についても学ぶ。	
	アカデミック・スキルズ	「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。	
	テーマ別基礎ゼミ	1年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を受け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。1クラス当たりの平均受講者数は15名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。	
	情報処理基礎	コンピュータの利用分野に適したシステム構成を理解するとともに、ソフトウェアやネットワークの活用法を習得する。授業においては、コンピュータの5大装置の役割と関連知識を学び、パーソナルコンピュータのカスタマイズができる程度の知識と技術を養う。また、アプリケーションソフトウェアの活用法とデータ形式、ネットワークの適切な活用とデータ圧縮・解凍技術、暗号化を含めた情報セキュリティなどについても習得し、理解したことを発表する場を設けて、理解度の向上を図る。	
	南加賀の歴史と文化	南加賀地域の歴史や文化を学びの主対象として、その分野に関する基礎知識・専門能力を十分に得られたという自負や、それらを学ぶことの意義を自覚し、他者に向かって説明できる自信を身につけることを目標とする。具体的には『平家物語』等を題材として、源平合戦当時の仏御前、実盛、義経・弁慶等の物語の概要や地域の伝承、小松に引退した加賀藩3代藩主前田利常が基礎を築いた伝統文化の諸相について講義する。	
一般 科目 (人間力)	哲学	哲学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標とする。本講義では、哲学者たちが考えた問題を、自分の頭で考えることによって、哲学的に考えることについて理解する。また、現代の具体的な事例を取り上げながら、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養うことができるようにする。	
	心理学	本講義では、心とは何か、心理学では心をどのように扱い研究しているのかを理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。本講義は講義と簡易な心理学実験、ディスカッションによって構成される。心理学の諸理論を解説した上で、実社会や日常生活への応用について考察を深める。本講義では、感覚と知覚、学習と記憶、推論と意思決定、感情と動機づけ、社会的認知、発達、カウンセリングの代表的技法、発達障がいについて扱い、多様な心理過程の総合的理解を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （人間 力）		
	人間の発達と心	本講義では、受胎から死に至るまでの生涯発達のプロセスにおける人間の心の特徴と変化について理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。授業は講義、グループワーク、ディスカッションによって構成される。グループワークでは自己と他者の発達について省察する機会を提供する。発達を規定する要因、発達段階毎の特徴、認知機能と身体機能の発達について具体例を交えて解説する。また、発達における不適応状態について検討し、可能な支援についての考察を深める。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能を代表する能楽・歌舞伎について、南加賀を舞台とする義経・弁慶北国落ちの物語を題材とする能「安宅」、舞「富樫」「笈さがし」、歌舞伎「勅進帳」を読みながら、それぞれの作品を比較し、作品ごとのまた劇ジャンルとしての特徴を理解できることを目標とする。さらに小松における子供歌舞伎の伝統や加賀藩主たちの「安宅」好み、明治の演劇改良や金沢における鳴和の滝・一本松などの地域伝承へと視野を広げてゆく。	
	人文地理学	本講義は、様々な事例を通じて、人文地理学がどのような学問であるのか、様々な人間活動を「地域」という側面から捉えることの意義を理解することを目的とする。人文地理学の基本的な考え方、概念を踏まえ、人文地理学を構成する様々な分野について、具体的な事例を踏まえながら地域の人文現象を捉える際の人文地理学の視点や研究の特徴を理解する。	
	文化人類学	文化を言語・技術・社会・価値の4つの側面から考えながら、世界の多様な文化を相対化し、自らの価値観が絶対的なものではないということを認識させ、異文化にアプローチしていく様々な視点を提示する。授業においては、文化人類学の基本的な考え方、研究方法を理解させ、その上で、言語と文化との関係、狩猟採集、牧畜、農耕という生業の技術と文化のあり方、家族や親族から広がる社会と文化の関係、宗教やその信仰と文化の関わりについて扱い、自文化を相対化しながら、身の回りの社会を捉え直してゆく。	
	医療と文化	本講義では、遺伝子診断、生殖医療、糖尿病、多発性嚢胞性腎臓病など、健康と病気をめぐり現代医療が抱える課題を、科学や医学的観点ではなく、文化という観点から人類学的に理解するための基礎を学ぶ。それによって、現代医療を支える制度や科学的知識を相対化し、患者にとっての病気の意味や経験にも目を向けることができる視点を持つことを目的とする。医療従事者を目指すものだけでなく、様々な物の見方や価値観の多様性を理解することへの学問的関心がある者の受講が推奨される。	
	文章表現法	日本語の文章を読み書きする能力は生きる力の基本であり、学生生活においても職業人となっても必要な能力である。その能力を鍛えて、学生が文章を理解し表現することの喜びや達成感、あるいは苦悩の原因を言葉でとらえて開放感が得られるような授業をめざす。毎回様々な文章を例示して、その要約作業を行わせ、それを他の学生の要約作業の結果と比較することで、文章を理解しその理解を文章で表現することが生きる力の基本となることを実践的に自覚させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （人 間 力）	（概要）我々が普段なにげなく使用している言葉の実態とその文化的背景について、日本語、中国語の身近な例を挙げながら講義する。 （オムニバス方式／全15回） （32 VANCE, Timothy John／8回） 前半（パンズ担当）では、日本語の連濁（濁るか濁らないか）、nga/ga（“が”の発音）など身近な音声の例を取り上げ、どのような規則があるか、また性差、年齢差、方言差など使用実態の違いについて紹介する。 （30 岩田 礼／7回） 後半（岩田担当）では、外来語の受容形態の違いにみられるような日本と中国の文化的差異から説き起こし、実は両者の間に共通性もあることを日本と中国の方言を例に挙げて紹介する。	オムニバス方式
	一般 科目 （社 会 力）	（概要）科学技術に焦点を絞り、日本の技術産業が、世界の歴史との関わりの中でどのように発展してきたかについて概観する。授業においては、世界における歴史的動きと科学技術の発達の中に、日本の科学技術の発展を位置づけ、互いがどのように影響し合いながら、今日の技術情報社会が出現したかについて述べる。映像教材などを多用し、小松という一地方都市が果たした役割についても再認識させる。 （オムニバス方式／全15回） ③ 山田 良穂／4回） 日本産業の発達を概観した後、工業材料の発達に注目し、金属材料、樹脂材料の工業材料としての役割について講義する。 ② 山田 外史／3回） 日本産業の中での電気工学、電子工学の分野における様々なイノベーションについて講義する。 ⑧ 岩田 佳雄／4回） 日本産業の発達の中での、機械工学の果たした役割について講義する。 ⑩ 富澤 淳／4回） 日本産業の発達の中で果たした、鉄鋼産業の歴史と役割について講義する。	オムニバス方式
	自然資源と環境問題	原生的自然とは異なる農林業を通じて形成される自然生態系等、自然資源の特徴を農山村の地域区分ごとに概説し、中山間地域における農林業の衰退が耕作放棄や作業放棄を拡大することにより、限界集落の広がり、野生鳥獣害、生態系の悪化等の環境問題を引き起こしていること、中山間地域の自然資源が観光資源や交流資源として注目されていること等について講義する。	
	経済学	（概要）経済学的手法・思考方法を学ぶことで、現代社会における経済の仕組みを理解し、現実の諸問題を考える際に必要な基礎知識を習得することを目的とする。前半と後半で、それぞれミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を取り上げて講義する。 （オムニバス方式／全15回） （33 盛田 清秀／8回） 経済主体の行動、完全競争及び不完全競争市場、経済厚生などについて講義する。 （39 一ノ渡 忠之／7回） マクロ経済の基礎知識、物価と失業、金融市場と財政の仕組みなどについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目（社会力）		
	政治学	（概要）政治学の基礎知識や概念、方法論について学ぶとともに、時事問題を題材に、現実政治の生活に及ぼす影響について理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （42 木場 紗綾／8回） 政治学の考え方や方法論、政治を分析するための理論的枠組みを講義する。政治の基本的な構造を理解すると共に、政治体制の変動や政権交代、社会運動、住民運動がなぜ起こるのかを議論し、報道や資料にあらわれない背景を理解する概念を身につけてもらう。 （43 千葉 悠志／7回） 権威主義を含むさまざまな政治体制の基礎を講義したうえで、市民社会、メディア、国際政治など、政治社会と関連する諸アクターと政治とのダイナミズムを分析する。報道記事、書籍、各種刊行物などの材料を収集して自分の問題意識を明らかにし、考えをまとめる作業を通して、論点を整理する能力を身につける。	オムニバス方式
	社会学	現代日本社会における、社会と個人の関係とその有り様を現代社会の動向と社会構造に位置付けて理解し、社会分析の基礎的知識を養うことを目的とする。具体的には、産業化、情報化、グローバル化といった社会の変化の様相、地域社会や組織や集団やネットワークの現代的様相について概観する。その際、社会の深層の変化の動向として個人化とその一形態である私事化と全体化のダイナミズムに着目しつつ、これらの状況下における人々の社会意識、社会関係、人々の行為の有り様を考察する。	
	公共政策論	現在、政治、経済、社会における様々な問題を解決する上で、公共政策の重要性が高まっている。本講義では、公共政策とは何か、なぜそれが我々にとって重要なのかを理解した上で、現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現する上で、存在する困難や問題を考察するために必要な視点について受講者が獲得することを目指す。	
	社会福祉論	社会福祉の理論や歴史、現状と課題について学び、現代社会における福祉制度の意義やその理念について理解する。授業では、人権や社会福祉の概念と範囲について触れ、世界とわが国における福祉制度やその理念の変遷について学習する。また、貧困などの現代社会における諸課題についても触れ、これからの社会保障制度に求められる点についても考えを深める。さらに、各国の福祉政策についても取り上げ、国際比較を行う。	
	日本国憲法	この講義では、日本国憲法が私たちに対して何を保障し、かつ要求しているのか、社会生活全般にいかに関わっているのかを知ること、憲法の重要性を自覚することを目的とする。授業においては、憲法の大まかなイメージをつかんだのち、憲法の制定過程と基本原理、平和主義、精神的自由権、経済的自由権と社会権などについて、わかりやすく解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （科学力）	実社会とデータ科学との関わりを学び、統計手法によるデータマイニングの基礎を事例を元に修得することを目標とする。授業においては、基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった基礎を理解し、事例により更なる理解を追求する。 （オムニバス方式／全15回） 〔5〕木村 春彦／9回 基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった統計手法によるデータマイニング手法を解説する。 〔9〕新田 雅道／3回 EXCELを用いて基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析などの応用事例を講義する。 〔11〕上田 芳弘／3回 EXCELを用いて数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法などの応用事例を講義する。 （※平成32年度までは、〔9〕新田雅道が担当する）	オムニバス方式
	データ科学と社会		
	情報処理応用A	モバイル端末の基本的な仕組みを理解するとともに、個人情報を守るための知識と技術を学ぶ。具体的には、個人情報保護の観点、およびリアルタイムトラッキングの観点から、IOTに必要なセンサ、クライアントサーバーシステム、アプリケーションシステムの概要について学ぶ。	
	情報処理応用B	情報技術は社会の様々な場面で活用されている。本講義では、主として医療分野における情報技術の意義とその活用の実態、将来展望を概観し、この分野で活躍することになる学生の情報技術に対する理解を深める。具体的には、医療データの特性、情報技術の基礎と医療への応用、医療データの収集・処理・活用の在り方、医療データの集中管理と分散管理の在り方、医療情報システムの具体例、プライバシー保護・個人情報保護のためのルールや倫理観、セキュリティ技術などについて学ぶ。	
	クリティカルシンキング	本講義では、様々な思考の技術、とくに推論に関する批判的思考法を理解し、それを自覚的に使いこなせるスキルを身につけることを目的とする。「思考の技術」の核心には形式論理学があるが、それをそのままの形で日常的に使うことはあまりなく、クリティカル・シンキング、クリティカル・リーズニングのようなまとめ方をした方が効率的である。したがって、論理学の応用という意味においても、具体的な事例や文章作成を通して、論理的技術の力の習得を目指す。	
	統計学	調査や実験、観察により収集したデータから法則性を導き出すための手法としての統計学について、その基礎的な理論と方法を確率論との関連に重点を置いて習得することを目標とする。本講義では、データの標準的な分布、分布の特徴表現、サンプルデータから元のデータ集団の分布解析、ある推定の確率的価値を検定する方法、複数の原因から生じる結果について、各原因の可能性を確率的に推定する方法などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目（科学力）	（概要）現代科学技術の源泉に遡りながら、機械、電気、情報などの要素技術の歴史的発展を概観する。授業においては、古代のエジプト、ギリシャ、中国で開花した科学技術についての考え方とそれらの特色について総括し、欧州に勃興したルネサンスを経て、科学技術が飛躍的に発展する様子を述べる。18世紀に始まる英国の産業革命とフランス革命の嵐の中で近代数学と物理学が次第に形成されることを学ぶ。さらに第二次大戦後の情報科学の発展にも触れる。 （オムニバス方式／全15回） ① 木村 繁男／3回 科学技術の発達の中で熱力学の果たした役割について述べ、特に熱力学の第二法則の現代的意味について講義する。 ④ 安達 正明／3回 科学技術の発達の中で物理学が果たした役割について述べ、現代における物理学と技術の関係について講義する。 ① 川端 信義／3回 技術史の中で流体力学の果たした役割と、現代における流体力学、流体工学の先端領域について講義する。 ⑦ 田村 博志／3回 技術の発達の中で数学の果たした役割と、現代における数学と技術との関係について講義する。 ⑪ 上田 芳弘／3回 戦後急速な勢いで発達した情報技術の歴史について述べ、今後到来する高度情報化社会について講義する。 （※平成32年度までは、⑤ 木村春彦が担当する）	オムニバス方式
	一般 科目（健康と体力）	（概要）健康的な生活を送るために必要となる知識を身に付け、それらを日々の生活の中で実践していくことを目指す。たばこ、飲酒、睡眠などの生活習慣に関するものや、心の健康について取り上げる。 （オムニバス形式／15回） 21 中島 素子／8回 健康維持や労働の再生産の視点から適切な睡眠・休養の確保の重要性について学ぶとともに、飲酒や喫煙による健康への影響についても学習する。また、禁煙を進めるための運動についても取り上げる。 50 榎原 千秋／7回 地域に暮らす人びとを対象にした心身共に健康な生活を送るための活動を踏まえ、ストレスマネジメントやセルフケア、病や障がいについて学び、生涯を通じて豊かに生きるための考え方を学ぶ。	オムニバス形式
	スポーツ演習 （バレーボール）	バレーボールに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バレーボールを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各技術を身につけることを目指す。また、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （健康 と体力）	スポーツ演習 （硬式テニス）	硬式テニスに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、硬式テニスを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、硬式テニスの基本技術を習得し、ルールを遵守しながら審判およびプレーヤーとしてゲームが行えるようにする。また、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につける。さらに、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。
		スポーツ演習 （フットサル）	フットサルに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、フットサルを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、受講者がフットサルの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得し、国際ルールに則ったフットサルを行えるようになることを目的とする。ボールの蹴り方や止め方、ボールコントロール、連携プレーなどの技術を身につけ、身につけた技術の実践機会として、試合を行いフットサルを楽しく行えるようになることを目指す。
		スポーツ演習 （卓球）	卓球に関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、卓球を通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。競技スポーツとしての卓球は、動体視力と反射能力、高い瞬発力や持久力を必要とし、技術面、精神面ともに総合的な実力が要求される。本授業では、基礎動作の反復練習とミニゲームを通じ、卓球の特性と魅力に触れ、基礎的技術や戦略を用いて卓球を楽しむことができるようにする。
		スポーツ演習 （バドミントン）	バドミントンに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バドミントンを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、ラケットの握り方や各種ストロークなどの基本を身につけるとともに、戦術についてもゲームを通して実践的に学ぶ。また、ダブルスではパートナーとの連携での自己の役割を理解し、ゲームで生かせる能力を育成する。スポーツに関する理論や安全管理を学び、安全に留意しながらバドミントンを楽しむ。
英語 科目		英語Ⅰa	英語で書かれた情報を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やしながら、基本的なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、科学、社会・文化、時事など様々なジャンルの英文を読み、メインアイデアとそれを支える具体的事例を理解できるよう、パラグラフの構成と目的を意識した読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。
		英語Ⅰb	英語で話された情報を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やしながら、基本的なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、会話、アナウンス、ニュースなど様々な形式の素材を聴き、イントネーションや音の変化といった発音上の知識についても学びながら、全体の大意を把握する聴き方や細部の情報まで捉える聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでの会話を中心にリスニングの内容に関する演習を行い、語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。
		英語Ⅱa	英語Ⅰaで培ったリーディングスキルを発展させ、目的に合う速さで英語を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、難易度の高い一般語彙を増やしながら、より高度なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、記事、Eメール、論説文など様々な形式の英文を読み、論理展開を意識しつつ、必要な情報を素早く読み取るスキニングなど多様な読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で場面に応じた適切な英語表現を使えるように練習する。

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	英語 II b	英語 I bで培ったリスニングスキルを発展させ、やや長めの英語を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、場面特有の表現方法を学びながら、より高度なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、インタビューや講演など様々な形式の素材を聴き、発話された明示的な情報だけでなく、非明示的に伝達される内容も理解できるように、話し手の意図を意識した聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでリスニングの内容について会話やディスカッションを行い、適切な英語表現を用いて自分の考えなどを述べる練習をする。	
	英語 III	英語 I・IIで培われた英語四技能（リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング）をさらに発展させ、国際試験（主にTOEIC）受験を射程に入れて、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。授業では、社会性の高い文章を読むことができる語彙の習得や、長文を読み要点を把握することに重点を置く。また、長文の要約や自分の意見を英語で書くことができるよう練習し、英語で自分の考えを論理的に伝える能力を養成する。	
	英会話 I	本講義では、リスニングおよびスピーキングを中心とした英語力を身につけ、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。英会話 I では、日常会話などの基本的なレベルの会話力を習得させる。二人一組やグループでの会話などを通じ、英語に慣れるようにする。最終的には、英語で会話するときに、自分の地域や文化などについて、説明や意見を述べるができるようになることを目指す。	
	英会話 II	本講義では、英会話 I での学習内容をさらに発展させ、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるようにする。リスニングでは、映画・ビデオ・ニュース番組などの教材を用いて普通のスピードの英語に慣れるようにする。最終的には、英語によるスピーチやディスカッションができるようになることを目指す。	
	実用英語 I	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英文法・英文読解の学習の基礎を理解し、簡単な英文を最低限聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で600点を超える程度とする。	
	実用英語 II	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。簡単な英文を読んで理解することができ、ゆっくりと読まれた英文を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で660点を超える程度とする。	
	実用英語 III	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。ある程度の長さの英文を読んで理解することができ、通常の速さの英会話を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で720点を超える程度とする。	
	実用英語 IV	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英字新聞や洋書を読解でき、ネイティブスピーカーの英会話を聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で800点を超える程度とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	中国語Ⅰ	授業を通じて、学生が中国語の声母、韻母、声調の基本を把握し、正確にピンインローマ字を書き、漢字を読み、簡単な中国語対話と少量の教室用語が聞き取れるようにする。また中国語学習と関連する言語文化的要素を理解させる。授業は学生を中心とし、教員が主導することで学生の中国語コミュニケーション能力を涵養することを目的とする。言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、学生の中国語学習に対する興味と意欲をかきたてることで、その後も中国語学習を継続するための基礎を作る。	
	中国語Ⅱ	授業を通じて、学生が中国語を正確に発音し、会話相手の意図を正確に聞き取り、簡単な日常会話を行い、平易な短文を閲読する能力を身に着けるようにする。また簡単で実用的な文やフレーズが書けるようにする。授業では学生を中心とし、教員が主導するという原則を維持し、言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、中国語学習と関連する文化的要素を教授する。教員の話は簡潔にし、練習を多くすることで、学生の中国語コミュニケーションレベルを高めるよう努める。	
	フランス語Ⅰ	フランス語によるコミュニケーションのために必要な、聴く、読む、話す、書くの4分野にわたる能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、フランス語の発音、初等文法、基本的な会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、簡単な日常会話や平易な読み書きができるようになることを目指す。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに引き続き、コミュニケーションに必要なフランス語運用能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、より発展したフランス語の発音、文法、会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、日常会話や読み書きができるようになることを目指す。	
	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパの主要言語の一つであるドイツ語の基礎を学ぶ。本講義では、ドイツ語を発音でき、文法の基礎を理解し、初歩的な表現力を身につけることを目標とする。アルファベットからはじめ、発音、挨拶表現や簡単な会話を反復練習する。ドイツ語によるコミュニケーション能力の獲得、ドイツ語圏の社会、文化に関する知識を得ることも講義の目標とする。	
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の初歩を学ぶ。ドイツ語Ⅱでは、ドイツ語Ⅰの復習からはじめ、さらに初等文法の修得を中心に、会話も含めた講義とする。実際のドイツ語によるコミュニケーション能力を獲得、ドイツ語圏の社会、文化などに触れ、理解を深めることも講義の目標とする。	
	ロシア語Ⅰ	ロシア語を学んだことのない学生を対象とする。今まで英語で使ってきたラテン文字とは違うロシア文字（キリル文字）の発音や書き方から始め、ロシア文字で書かれた単語を読めるようになったらロシア語独自のイントネーションや簡単な挨拶の表現などを学んでいく。さらに、ロシア語を読み、書き、話し、聞くうえで必要な文法事項を学んでいく。	
	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰに引き続き、ごく簡単な文章を読みながら、初等文法を学習していく。この講義で取りあげる範囲は、名詞単数および代名詞の格変化、動詞の時制、運動の動詞、形容詞の短語尾形、無人称文までである。この学期の到達目標としては、少し複雑な文章を辞書を用いて独力で読めるようにすること、簡単な自己紹介ができるようにすることである。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	その他 外国 語 科目		
	スペイン語Ⅰ	テキストの構成に沿って、文字と発音を結びつけることを徹底しておこない、アクセントの位置を習得し、音読できるようにしてから、会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、主格人称代名詞、名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、形容詞、規則動詞AR型、同ER型、同IR型、ser動詞、estar動詞などの不規則動詞、所有形容詞、否定文と疑問文などについて学習する。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。	
	スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰの既習事項を復習しながら、引き続き会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、語幹母音変化動詞、指示詞、間接目的格人称代名詞、gustar構文、感嘆文、1人称単数のみが不規則な動詞、不定詞、直接目的格人称代名詞、命令文、天候、日付、時刻の表現、再帰動詞などについて学習する。ここまでで現在時制での基本的な文法事項をマスターする。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。	
専門 基礎 科目	応用数学Ⅰ	微分積分学は諸科学にとって不可欠の道具である。ここでは、高校での微分積分学を発展させる形で1変数関数を扱い、さらに2変数関数の微分積分法について基礎的事項を習得することを目標とする。授業においては、1変数関数に対する平均値の定理、テイラー展開、および置換積分、部分積分を用いた有理関数、三角関数の分数式の積分法について学ぶ。また、2変数関数に対する偏微分、全微分、テイラー展開、陰関数の定理、及び、重積分における逐次積分法や積分変数の変換について学ぶ。	
	工業数学	常微分方程式の基礎を学び、工学の学習に現れる簡単な微分方程式を解けるようになることを目標とする。授業においては、常微分方程式の解の存在と一意性の定理に関する基本的事項を学んだ後、変数分離形方程式、同次型方程式、1階線形微分方程式、ベルヌーイの微分方程式、完全微分方程式、2階線形斉次方程式の基本解、非斉次方程式と特殊解、連立微分方程式などの明示的な解が求まる場合の、その具体的解法とそれらの応用について学ぶ。	
	応用物理学	工学を理解する上で不可欠な、力と運動やそのエネルギーについて、また、電気と磁気の基本について習得することが目標である。本授業では、ニュートンの運動法則、仕事、エネルギー、角運動量やその保存則等の概念と力学問題への微分積分の応用、電場の表現、重ねあわせの原理、ガウスの法則、誘電体と電場のエネルギー、電流と磁場について学ぶ。	
	工業力学	複数の外力下での剛体の運動や衝突の問題を慣性モーメントを含む運動方程式で取り扱えるようになることが目標である。剛体の重心、剛体の並進運動や回転運動、運動量の時間微分と外力、角運動量の時間微分とモーメント、コマの運動などを取り上げ、重力や摩擦力、張力、回転力など複数の外力が働く場合の剛体の運動を学ぶ。さらに、衝撃力と力積・角力積、撃心についても学ぶ。	
	プログラミングⅠ	C言語による基本的なプログラミング技法と知識を習得し、ソフトウェアの開発手順を理解するとともに、代表的なアルゴリズムを用いて論理的思考を養う。授業においては、C言語の変数定義、標準入出力、制御構文、配列、文字列、ポインタ、構造体、関数定義・呼び出しなどを、基本的なプログラミング技法を使って習得する。コンパイラとリンカの役割を理解し、各種テスト技法を用いたデバッグ法を習得する。また、キュー、スタック、木構造、リスト構造などについて、プログラミングをしながら理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	材料力学及び演習	機械構造物に加わる外力に対し、材料内部に生じる応力やひずみ、変形などを理解し、理論計算ができることが目標である。授業においては、材料力学の基礎概念、応力とひずみの定義、フックの法則、材料の機械的性質について理解する。また、SFDおよびBMDを理解し、断面二次モーメント、引張・圧縮、曲げ、ねじり、たわみ等について理解する。さらに、主応力、許容応力、安全率と実用的問題に対する強度設計の基礎について学習する。なお、毎時間演習問題を解き理解を深める。毎時間、講義の後に演習時間を設け、講義内容に関連する演習問題を各自で解いた後にグループ内で解法について討論を行う。その後、グループによる解答方法の発表を行い、最後に総括を行う。	講義 24時間 演習 12時間
	工業熱力学及び演習	熱力学の第一法則、第二法則について述べ、種々の熱的現象がこれらの原理により、どのように解釈され、解析されるかについて理解する。授業においては、熱力学の第一法則、第二法則を閉鎖系について述べ、それらの原理が開放系についてどう適用されるかを示す。この過程で、理想気体、エンタルピー、エントロピー、相変化と蒸気、実用熱機関サイクルについて教授する。なお、毎時間演習問題を解き理解を深める。毎時間、講義の後に演習時間を設け、講義内容に関連する演習問題を各自で解いた後にグループ内で解法について討論を行う。その後、グループによる解答方法の発表を行い、最後に総括を行う。	講義 24時間 演習 12時間
	流れ学及び演習	流体の諸現象について力学的に理解し、その工学的応用について学ぶ。具体的には、流体の物性、圧力と静水力学、Control Volumeによる各物理量の保存則の記述、理想流体とベルヌーイの式、ベルヌーイの式の工学問題への応用、運動量の式および角運動量の式とその応用、粘性流体と層流と乱流、拡張したベルヌーイの式、管摩擦の評価、物体周りの流れと抗力係数の諸事項について学ぶ。なお、演習や小テストを通して数多くの問題を解き、理解を深める。毎時間、講義の後に演習時間を設け、講義内容に関連する演習問題を各自で解いた後にグループ内で解法について討論を行う。その後、グループによる解答方法の発表を行い、最後に総括を行う。	講義 24時間 演習 12時間
	電気回路及び演習	電気・電子工学の基礎である直流回路、交流回路ならびに過渡現象の特性や解析方法の基礎理論を習得することが目標である。授業においては、直流回路の基礎（キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理、鳳-テブナンの定理）、交流の基礎（周波数、位相などの解析法、ならびに過渡現象の解析）について学ぶ。なお、毎時間演習問題を解き理解を深める。毎時間、講義の後に演習時間を設け、講義内容に関連する演習問題を各自で解いた後にグループ内で解法について討論を行う。その後、グループによる解答方法の発表を行い、最後に総括を行う。	講義 24時間 演習 12時間
	振動工学及び演習	1自由度系及び2自由度系の振動特性を理解し、機械の制振・防振対策に応用する能力を育成することを目標とする。授業においては、1自由度系の自由振動の運動方程式と固有振動数について説明し、自由振動を理解する。1自由度系の強制振動の運動方程式を学び、種々の強制振動について説明する。同様に2自由度系の自由振動と強制振動を説明する。毎回演習問題を解き理解を深める。毎時間、講義の後に演習時間を設け、講義内容に関連する演習問題を各自で解いた後にグループ内で解法について討論を行う。その後、グループによる解答方法の発表を行い、最後に総括を行う。	講義 24時間 演習 12時間

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 共 通 科 目	数値解析	コンピュータシミュレーションにより実用的な近似解を求めるために必要な基本的計算方法について理解することが目標である。授業においては、モデリングと誤差、非線形方程式の解法（2等分法、ニュートン法）、連立一次方程式の解法（ガウスの消去法、ガウス・ザイデル法）、常微分方程式の解法（オイラー法、ルンゲ・クッタ法）、補間法（ラグランジュ補間、ニュートン補間）、最小2乗近似、数値積分（台形公式、シンプソンの公式）について学ぶ。また、MATLABを使って実際に数値解析できるようにする。	
	技術英語 I	物理学、数学で現れる英語表現について学ぶ。具体的には、物理学や数学の教科書を例にとり、日常会話や雑誌等ではあまり使われない表現や読み方について学ぶ。物理学では力学、熱学、電磁気学に現れる独特の読み方や表現法を、数学では数式、初等関数についての読み方、表現法について学ぶ。	
	技術者倫理	（概要）社会の中での技術や法、技術者の位置づけ、技術者の倫理観を学習し、技術者倫理に基づく行動がとれることが目標である。授業においては、技術と法、技術と倫理について学ぶ。具体的には、技術と社会・環境との関係、技術者の専門職としての倫理と責任、倫理的判断能力と問題解決能力、技術者に求められる態度と共有すべき価値技術の社会的責任などを学習する。また、事故事例を通して、社会の中での技術や法を学び、技術者倫理に基づいた技術者が取るべき考え方、行動について理解をする。 （オムニバス方式／全15回） ⑧ 岩田 佳雄／7回 事故事例を通して、社会の中での技術や法を学び、技術者倫理に基づいた技術者が取るべき考え方、行動についてする。 ⑩ 富澤 淳／8回 技術と法、技術と倫理について学び、技術と社会・環境との関係、技術者の専門職としての倫理と責任、倫理的判断能力と問題解決能力、技術者に求められる態度と共有すべき価値技術の社会的責任などを講義する。	オムニバス方式
	機械設計製図 I	機械製図法を理解するとともに、実際の機械図面が描け、コンピュータを用いた製図(CAD)の基礎的習得を行うことが目標である。授業においては、図法幾何学と投影法、図面の表し方、図面管理、図形の表し方、寸法記入法、表面性状の図示方法、寸法公差と幾何公差の表示法を学ぶ。また、CADの基本操作方法と主要な機器部品の図示法を理解する。また、Vブロック、パイス、フランジ型軸継ぎ手などの機械図面を実際に描き、機械設計製図法を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(生産システム科学部生産システム科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 科目	生産工学	機械加工を中心に、多様な加工方法や加工原理を理解し、生産性、加工コストなども考慮して的確な生産方法を選択出来るようにすることが目標である。授業においては、“ものづくり”の最も基本となる機械加工について、切削加工、研削加工、放電加工、溶断・溶接の原理と特徴について学ぶ。また、NC加工の概要も学ぶ。これらの加工法における加工抵抗、加工温度、仕上げ面性状など加工性能について理解をする。なお、鋳造加工、塑性加工については、機械加工学で詳細に学習するため、ここでは取り扱わない。	
	ロボット機構学	(概要) ロボットの機構学、運動学、動力学を基本として、ロボットで使われている各種制御法におけるロボットの運動特性を理解することが目標である。ロボット工学の概要、機構学で用いるリンク系の記号標記、リンク系の自由度、運動学における3次元幾何学、座標系と座標変換（並進・回転）、順運動学、逆運動学、ヤコビ行列、動力学と運動方程式、ロボットにおけるフィードバック制御の基礎、位置制御、力制御、ハイブリッド制御について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) ⑧ 岩田 佳雄／7回 機構の運動学や振動現象を中心に講義する。 ⑮ 正津 正利／8回 主にロボットにおけるフィードバック制御の基礎、位置制御、力制御、ハイブリッド制御について講義する。	オムニバス方式
	技術英語Ⅱ	機械工学、電気電子工学、情報工学の分野で現れる英語表現について学ぶ。具体的には、本学科の専門教育領域である機械工学、電気電子工学、情報工学の分野の英語の教科書を例にとり、それらの中で現れる特徴的な単語や表現法について学ぶ。	
	機械設計製図Ⅱ	機械設計製図Ⅰに引き続き、さらに機械や機械要素を設計するための素養を身につけ、これらを図面として表すための能力を身につけることが目標である。本授業では、手巻きウインチの設計・製図を通して、基礎的な機械要素や機構などの仕組み、動力の伝達、妥当な強度計算法に則った設計書や設計仕様の作成を行う。また、各種便覧やJIS規格から当該設計に必要な資料やデータを自ら探し出し、JISに基づく製図法に則った設計図、計画図、部品図などを各自制作し、高度な機械設計製図法を修得する。	
	機械工作実習	工作機械の操作を通して、基礎的な機械加工法や安全作業について学び、機械技術者として必要な技能を修得することが目標である。ビデオ学習によって基本的な工作機械の操作方法を理解した後、実際に旋盤、フライス盤、ボール盤、溶接などの各種工作機械の操作や加工方法を学習する。各自のミニハンマーの部品をこれらの工作機械などを用いて製作を行う。また、加工したミニハンマーの組立作業と寸法測定を行い、寸法公差やはめあい、幾何公差などについても修得する。	共同
	機械電気工学実験Ⅰ	機械電気系の実験を通じて現象を科学的に分析する能力と実験報告書を作成する基礎的な能力を身につけることが目標である。ガイダンス（1回）、1. 鋼の引張試験（2回）、2. 円管内の流体摩擦（2回）、3. 強制対流熱伝達（2回）、4. 切削動力の測定と切り屑観察（2回）、5. 炭素鋼の熱処理と顕微鏡観察（2回）、6. 電圧、電流、電力の測定（2回）、7. 多機能センサを用いたデータ解析（2回）。これらの実験を通して、卒業研究で必要となる基礎知識や実験操作を修得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 科目	生産技術	製造業において重要な経済性・人的資源・情報・安全・社会環境などを理解し、これらとリスク管理や技術倫理を組み合わせた総合的な製造技術と管理について学習する。また、適宜各自に事前学習の課題を出し、講義の中での発表を実施する。具体的には、世界的な産業構造の変化と製造業の現状の課題と将来の技術開発動向を説明するとともに、生産技術、製造形態、生産・原価・在庫管理、品質・安全、技術開発・知財に係わる基本的な考え方と管理について学ぶ。さらに、鉄鋼業と自動車産業での具体例を教授する。	
	課題探求プロジェクト	生産システム科学のための課題発見、課題探求や問題解決能力を身につけることが目標である。具体的には、学生は4～5人のグループに分かれ、これまでに授業で習得した機械、電気・電子、情報工学の基礎知識を活用し、指導教員の指導の下で、自ら提案する特定の課題に取り組み、設計プロセス全体の方法論、あるいは実施計画、装置・ソフトウェアの作製、実験・計算、整理などの方法論について総合的に体験し、習熟する。指導教員は、工業生産に関連する技術問題にとどまらず、IoTのより広範な活用、農林産業、流通産業、地域環境問題などに学生の目を向けさせ、学生の新たな問題発見能力を養う。プロジェクト終了時には得られた成果をまとめてプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。	
	技術英語演習Ⅰ	工学分野での英語によるコミュニケーションスキルの向上を目指す。授業においては、国際会議へ出席、留学先での英語による工学に関する授業を想定して、各種の視聴覚教材やyoutube等の映像と音声を利用して、主に英語で話される工学分野の話題を理解する訓練を行う。	
	機械電気工学実験Ⅱ	機械電気系の実験を通じて現象を科学的に分析する能力と実験報告書を作成する高度な能力を身につけることが目標である。ガイダンス（1回）、1. 先端に質量を持つ片持りの振動実験（2回）、2. 3Dモデルと3Dプリンターの作成（2回）、3. CAEシステムによる構造解析（2回）、4. マニピュレータのPID制御（2回）、5. 電子工作の基礎とモーター制御（2回）、6. オペアンプで制御するトランジスタ回路（2回）、7. カメラ画像の画像処理（2回）。卒業研究に必要な応用的スキルを修得する。	共同
	学外技術体験実習A	短期のインターンシップにより、製造業、農林業の生産現場を体験し、大学で学んだ専門的知識や技術が普段の業務にどのように生かされているかについて直接見聞する。具体的には、主に石川県を中心にした大手、中堅企業に、学生を1週間派遣し、それらの業務に携わりながら、学習した機械工学、電気電子工学、情報工学の知識や技術がどのように生かされているかを業務を通して体験する。	
	学外技術体験実習B	長期のインターンシップにより、製造業、農林業の生産現場を体験し、大学で学んだ専門的知識や技術が、現場での課題解決にどのように生かすことができるかについて直接体験する。具体的には、主に石川県を中心にした大手、中堅企業に、学生を2週間派遣し、それらの業務に関連する簡単な課題を見つけ、学習した機械工学、電気電子工学、情報工学の知識や技術が、課題解決にどのように生かせるかについて学ぶ。	
	課題研究ゼミナール	英語の学術文献を理解できるように語学力を高め、プレゼンテーションと資料作成のための能力を身につけることが目標である。具体的には、指導教員の指導の下に、選定した生産システム科学に関する英語の学術文献等を読解し、その内容を理解して正しく紹介する能力、卒業研究に必要な基礎知識を習得する。使用した学術文献等の内容をまとめてプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。なお、学生は数名ずつに分かれて各研究室に配属される。	
	技術英語演習Ⅱ	工学分野での英語によるコミュニケーションスキルの向上を目指す。授業においては、国際会議での研究発表を想定して、英語による発表の訓練を行う。学生は自分が行っている卒業研究について、その時点での研究成果の中間まとめを行い、それを英語により発表することにより、自らの研究課題を英語により表現する能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 科目	卒業研究	指導教員のもとで生産システム科学に関する研究を行い、卒業論文を作成し、研究発表、討論ができるようになることが目標である。具体的には、指導教員のもとで研究テーマを決め、自身で実験を計画する。実験により得られた結果は科学的に判断し、研究を進めていく。また、ゼミや研究会などで定期的の実験や研究の進捗状況を報告および議論を行う。最終的には、研究結果や研究成果を卒業論文にまとめ、卒業研究発表会や各種学会等で研究発表や討論を行い、文献調査、課題発見・設定、分析、知識の応用、論理的思考、論文作成、発表、討論などの研究を遂行するために必要な能力を修得する。	
専門 科目	応用数学Ⅱ	応用上の多くの問題において、線形方程式が現れる。また、非線形問題においても線形構造は基本的役割を演じる。この線形構造を一般的に扱う線形代数の基礎的手法を習得することが目標である。授業においては、行列とその演算、連立一次方程式の行列を用いた解法、行列式、余因子行列とクラメル公式などの具体的計算法を学んだ後、ベクトル空間、線形写像、内積と直交性、固有値と固有ベクトル、対称行列の直交行列による対角化について学ぶ。	
	複素解析	工学系の学生にとって必須の基本的な教養である複素解析の基礎と応用について理解することを目指す。特に正則関数の諸性質の把握と、留数積分法の習得が重要である。授業においては、複素数と複素平面、複素級数、複素関数、微分可能性とコーシー・リーマン方程式、複素積分、コーシーの積分定理、コーシーの積分表示、留数と留数定理とその応用、整級数、複素関数に関するテイラーの定理とテイラー展開、ローランの定理とローラン展開について学ぶ。	
	化学入門	機械工学や電気電子工学に関連した化学的現象について理解できるようになることを目的とする。授業においては、無機化学、有機化学について概観し、燃料電池の開発やスケール付着などの金属材料表面劣化に関連した電気化学の基礎、高分子材料開発等の先端技術に関する化学の基礎について学ぶ。	
	統計・確率論	統計学を応用し、システムの信頼性や寿命予測の基礎理論を習得することが目標である。授業においては、統計学の基礎として、母数の不偏推定法、最小二乗法などについて学ぶ。また、確率とベイズの定理についても学ぶ。例として生産工場における不良品発生確率などの計算や、統計学の応用例として信頼性工学を取り扱い、機械部品やシステムの信頼度や故障率の概念、平均寿命の推定法（点推定、区間推定）について説明し、システムの保全やアベイラビリティについても学ぶ。	
	エレクトロニクス概論	生産システムに欠かせない計測や制御のためのデジタル回路設計の基礎を修得することが目標である。授業では、デジタル回路の基本である2進数や16進数、論理代数について学ぶ。また、実用的な設計を行えるようにデジタルICの種類（TTL、CMOSなど）と入出力レベルについて理解するとともに、演算回路や順序回路などについて学び、基本的なデジタル回路に関する知識を身につける。さらに、DA変換およびAD変換の原理についても学び、計測や制御への活用方法を理解する。	
	プログラミングⅡ	プログラミング言語を体系的に学び、業務システムにおけるプログラミング言語を正しく選定可能となることが目標である。授業においては、プログラミングIにおいて、C言語におけるプログラミングが可能となっていることから、組み込み用、小規模開発、大規模開発における言語選択について、課題を交えて行う。大規模開発においては、チーム編成を行い、一つの課題に対して、どのような解決を行うか、チーム毎に打ち合わせをし、実際にコードを組んでソリューションの提示を行うことで、実践的なプログラミングの方法論について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	機械加工学	機器製品は種々の材質と形状の多数の部品からを構成される。これらの部品を作製するための材料加工法とその原理を習得することが目標である。授業では、機器の設計・製作における加工の意義と重要性を学ぶ。また、加工法の種類とその原理・特徴について、主に金属材料に関する鋳造加工、塑性加工、接合加工および除去加工（切削加工、研削加工、研磨加工）の基礎およびプラスチック材料の射出成形、複合材料の成形法について学ぶ。	
	電気制御学	電気制御に必要なデバイスやユニットの概要と使用方法を習得することが目標である。授業では、アクチュエータ等の速度・位置制御を目指し、マイクロコントローラ（AVR）の概要、汎用マイコンボード（Arduino）の使用法、CPLDとFPGAの概要と応用例、PLCによるシーケンス制御の基礎と使用方法、PWM制御とPID制御の実装およびシミュレーションについて学ぶ。	
	機械材料学	機器製品の設計やそれを構成する部品に適した材料の選択、材料の加工、さらに工業材料の性能の改良と機能の開発のために必要となる各種材料の微視的組織と機械的特性とについて習得することが目標である。授業では、二元合金の平衡状態図と微細組織、熱処理の意味と生成組織と機械的特性との関係を学ぶ。また、転位論の基礎を基に塑性変形の原理と材料の強化の原理や、主な鉄鋼、非鉄金属、高分子およびセラミック材料の基本的特性と工業材料としての利用について学ぶ。	
	機械要素設計	機械要素の機能と機械に必要な動力や力について学び、機械要素の強度や安全率などを考慮した機械設計を行えることが目標である。授業においては、機械要素の種類と機能、ねじ、軸、軸受、ばね、歯車、ねじ送り機構、リンク機構、動的設計などについて学習することにより、機械装置に必要な動力や力を算定し、各機械要素部品に作用する力を許容応力以下に抑制しつつ、要求される機能および性能を発揮する機械装置等の機械設計をすることができる能力を身に付ける。	
	エネルギー資源と開発	主に再生可能エネルギーの開発に関連する熱力学的原理と最近の技術開発について理解を深める。具体的には、熱力学の法則および伝熱工学について概観して、太陽光発電、太陽熱エネルギー利用、風力発電、水力発電、地熱発電、温泉発電、地中熱利用、海洋温度差発電について、その原理と関連技術開発について教授する。	
	アルゴリズム論	効率の良いアルゴリズムの構築を目的とする。そのため、種々の優れたアルゴリズムの考え方や、効率を解析するための方法論を解説し、修得させることを目標とする。まず、アルゴリズムとは何か、アルゴリズムの時間計算量、アルゴリズムの正当性と停止性、再帰アルゴリズム、分割統治法の時間計算量を理解する。次にソーティング手法の最小値選択法、バブルソート、挿入法、ヒープソート、クイックソートと探索手法の逐次探索、2分探索、ハッシュ法の時間計算量を学習し、ソーティングの下限計算量を理解する。	
	応用電磁気学	電気電子工学の基礎である電磁気学の基礎理論を習得することが目標である。授業では、ベクトル解析と物理的意味、ガウスの法則からの電界・電位、誘電体、静電容量、およびアンペアの法則、ファラデーの電磁誘導の法則からの磁界・磁束、自己・相互インダクタンス、電磁誘導、磁界のエネルギーを理解する。さらに、電界・磁界系を連携するマクスウェル方程式による電波伝搬について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	環境適合技術論	環境負荷が少なく持続的発展が可能な社会を築くために、これまでの開発・実用化されてきた生産プロセス（エコプロセス）や製品（エコプロダクト、エコマテリアル）などについて学習し、今後の技術開発の方向性について理解を深める。具体的には、ライフサイクルアセスメント（LCA）、マテリアルフロー分析（MFA）を学び、鉄鋼業における生産プロセスや高機能製品（エコマテリアル）の開発事例、自動車産業におけるCO2排出量規制と軽量化技術、エコモビリティ（HV, PHV, EV, FCV）の開発状況などを教授する。	
	制御工学	メカトロニクス技術の根幹となる自動制御の基礎知識と制御対象の数学的表現方法について習得し、フィードバック制御系を設計するための基礎知識を習得することが目標である。授業では、制御工学の基礎、動的システムとブロック線図、状態方程式、ラプラス変換、伝達関数、電気回路の数式モデル、機械システムの数式モデル、DCモータの数式モデル、システムの応答、ステップ応答、周波数応答、ボード線図、ナイキスト線図、システムの安定性、フィードバック制御系について学ぶ。	
	電子回路	電子回路を構成する各種半導体素子ならびにIC化された増幅器（演算増幅器）の基本特性の理解の下で、これらの素子により構成される各種帰還回路の回路設計、特性解析を習得することが目標である。授業においては、半導体素子ならびに集積演算増幅器で構成された小信号を対象とした線形増幅回路、非線形増幅回路、能動フィルタ、アナログ・ディジタル変換回路、発振回路、ならびに大信号を出力する電力増幅回路の特性解析、回路設計について学ぶ。	
	情報科学概論	生産システム科学部の学生として、是非知っておきたいコンピュータ科学、OR（オペレーションズ・リサーチ）、そして最近の情報処理までを簡単に紹介し、最新の情報科学の概論を取得することを目標とする。先ず、情報科学とは何かについて学び、その後、コミュニケーション論、コンピュータとロボット、論理回路、情報理論、OR、ソフトコンピューティング、知覚情報処理、情報セキュリティについて概略を理解する。	
	データベース論	関係データベースを中心にデータベース論の修得を目標とする。データベースとは、紛らわしいことに2つの場合がある。データの集合であるデータベースをさす場合と、そのデータベースを編集したり管理したりするデータベース管理システムをさす場合である。本講義では、先ずデータベースとは何かについて学ぶ。そして、データベースにおけるデータモデル、関係データベースの基礎、関係データベース言語のSQL、関係データベースの設計理論、データベース管理システムについて理解する。	
	資源有効利用学	循環型社会を構築する上では、いわゆる3R（リデュース、リユース、リサイクル）を進めることが重要である。本講義では、3Rの技術の取り組みや環境配慮設計について学び、循環型社会への現状の課題を明らかにする。また、各人がそれぞれのテーマについて調査し、それらを共有化する。授業においては、製造工程での廃産物の削減（鉄鋼における圧延、自動車のプレス工程など）、リサイクル技術（自動車、家電、レアメタル、鉄鋼スラグなど）、製品の軽量化・省資源化（自動車用鋼板など）、製品の長寿命化などについて教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（生産システム科学部生産システム科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	人工知能	人工知能の基本的な処理方法の修得を目標とする。先ず人工知能の定義、知識工学、認知科学、従来の処理手続き、人工知能の処理手続き、人工知能の用途、人工知能の背景について理解する。次に人工知能での問題の解き方として、状態空間表現、問題分割表現を学び、グラフ上での探索問題に変換する。そして、探索法として縦型探索法、横型探索法、最良優先探索法、A*アルゴリズム、山登り法を理解し、ミニマックス法とアルファ・ベータ法を学習する。最後に0PS5というプロダクションシステムの文法を理解する。	
	電気機器工学	電気-磁気-機械エネルギー変換の基礎理論と電気機器（静止器、回転機）の動作原理と特性について習得することが目標である。授業では、電気-磁気-機械系のエネルギー変換の基礎から、静止器（インダクタ、変圧器）、直流・交流モータ、ならびにパワーエレクトロニクス（整流回路、チョップ回路、インバータ回路）について学ぶ。	
	画像認識論	基本的な一般物体認識技術と3次元形状認識技術の習得を目標とする。先ず、画像処理の基礎理論として画像の構成要素と基本的な画像処理手法である画像のグレースケール化やガウスフィルタを理解する。次に画像局所特徴量であるSIFT特徴量を理解する。そして、機械学習の一種であるニューラルネットワークを理解し、これらの技術を活用した一般物体認識を理解する。応用として、局所特徴量の対応点探索技術を理解し、これらの技術を活用したステレオマッチング法による3次元形状認識を理解する。	
	データマイニング	データマイニングの基礎的な手法を取得することを目標とする。データマイニングとはデータをマイニング（採掘）して宝物である情報・知識・知見・仮説・課題などを見つける手法のことである。先ず、データマイニングの歴史を学ぶことにより、目的を明らかにする。次に代表的なデータマイニング手法であるマーケットバスケット分析、記憶ベース推論、クラスタ分析、リンク分析、決定木、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムを理解する。それから実践編として、Excelを用いた多くの実行例を紹介する。	
	地球環境と環境流体	地球環境問題の複雑性を理解するためには地球科学、生物学、物理学、化学などの広い学問分野の諸知識が必要となる。ここでは、その中で気圏、水圏における物質循環とエネルギーの流れ、及びそれらの拡散過程を基軸に、その輸送プロセスを担う環境流体の運動の重要性について学び、併せて地球環境問題への国際的取り組みについても紹介する。	
	センサと通信	計測や制御に使用されるセンサやそのデータ転送方法の原理や使用方法について習得することが目標である。授業では、センサの原理と物理量計測センサ（熱、ひずみ、位置、速度、磁界、電界、電力など）、ならびに有線通信（パラレル通信、シリアル通信）、ワイヤレス通信（Bluetooth、ZigBeeなど）、ユビキタスネットワークの仕組みについて学ぶ。	
	インテリジェント生産システム	データマイニングや機械学習を用いた知的生産システムの構築方法の修得を目標とする。授業計画として、前半は知的生産システムで用いるデータマイニングや機械学習について学び、後半はそれらをどのように産業利用するかについて学び、全体としてインテリジェント生産システムを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	導 入 科 目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	保健医療学部での勉学と卒業後の進路を結びつけながら考える授業とし、将来、人々の健康と福祉に貢献することの責任と誇りを自覚し、学習意欲と知的好奇心を喚起する。医療従事者としての広い視野を身につけるため、看護学科及び臨床工学科の教員が、それぞれ専門とする分野を授業のテーマとして、学部学科における教育内容を概観しながらキャリアデザインについて講義を行う。また、医療現場で求められる協調性や社会人として求められる自己管理能力についても考える機会とする。
		アカデミック・スキルズ	「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。
		テーマ別基礎ゼミ	1年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。1クラス当たりの平均受講者数は15名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。
		情報処理基礎	コンピュータの利用分野に適したシステム構成を理解するとともに、ソフトウェアやネットワークの活用法を習得する。授業においては、コンピュータの5大装置の役割と関連知識を学び、パーソナルコンピュータのカスタマイズができる程度の知識と技術を養う。また、アプリケーションソフトウェアの活用法とデータ形式、ネットワークの適切な活用とデータ圧縮・解凍技術、暗号化を含めた情報セキュリティなどについても習得し、理解したことを発表する場を設けて、理解度の向上を図る。
		南加賀の歴史と文化	南加賀地域の歴史や文化を学びの主対象として、その分野に関する基礎知識・専門能力を十分に得られたという自負や、それらを学ぶことの意義を自覚し、他者に向かって説明できる自信を身につけることを目標とする。具体的には『平家物語』等を題材として、源平合戦当時の仏御前、実盛、義経・弁慶等の物語の概要や地域の伝承、小松に引退した加賀藩3代藩主前田利常が基礎を築いた伝統文化の諸相について講義する。
	力一 般 科 目 （人 間	哲学	哲学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標とする。本講義では、哲学者たちが考えた問題を、自分の頭で考えることによって、哲学的に考えることについて理解する。また、現代の具体的な事例を取り上げながら、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養うことができるようにする。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目（人間力）		
	心理学	本講義では、心とは何か、心理学では心をどのように扱い研究しているのかを理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。本講義は講義と簡易な心理学実験、ディスカッションによって構成される。心理学の諸理論を解説した上で、実社会や日常生活への応用について考察を深める。本講義では、感覚と知覚、学習と記憶、推論と意思決定、感情と動機づけ、社会的認知、発達、カウンセリングの代表的技法、発達障がいについて扱い、多様な心理過程の総合的理解を目指す。	
	人間の発達と心	本講義では、受胎から死に至るまでの生涯発達のプロセスにおける人間の心の特徴と変化について理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。授業は講義、グループワーク、ディスカッションによって構成される。グループワークでは自己と他者の発達について省察する機会を提供する。発達を規定する要因、発達段階毎の特徴、認知機能と身体機能の発達について具体例を交えて解説する。また、発達における不適応状態について検討し、可能な支援についての考察を深める。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能を代表する能楽・歌舞伎について、南加賀を舞台とする義経・弁慶北国落ちの物語を題材とする能「安宅」、舞「富樫」「笈さがし」、歌舞伎「勧進帳」を読みながら、それぞれの作品を比較し、作品ごとのまた劇ジャンルとしての特徴を理解できることを目標とする。さらに小松における子供歌舞伎の伝統や加賀藩主たちの「安宅」好み、明治の演劇改良や金沢における鳴和の滝・一本松などの地域伝承へと視野を広げてゆく。	
	人文地理学	本講義は、様々な事例を通じて、人文地理学がどのような学問であるのか、様々な人間活動を「地域」という側面から捉えることの意義を理解することを目的とする。人文地理学の基本的な考え方、概念を踏まえ、人文地理学を構成する様々な分野について、具体的な事例を踏まえながら地域の人文現象を捉える際の人文地理学の視点や研究の特徴を理解する。	
	文化人類学	文化を言語・技術・社会・価値の4つの側面から考えながら、世界の多様な文化を相対化し、自らの価値観が絶対的なものではないということを認識させ、異文化にアプローチしていく様々な視点を提示する。授業においては、文化人類学の基本的な考え方、研究方法を理解させ、その上で、言語と文化との関係、狩猟採集、牧畜、農耕という生業の技術と文化のあり方、家族や親族から広がる社会と文化の関係、宗教やその信仰と文化の関わりについて扱い、自文化を相対化しながら、身の回りの社会を捉え直してゆく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一 般 科 目 (人 間 力)	医療と文化	本講義では、遺伝子診断、生殖医療、糖尿病、多元的医療など、健康と病気をめぐり現代医療が抱える課題を、科学や医学的観点ではなく、文化という観点から人類学的に理解するための基礎を学ぶ。それによって、現代医療を支える制度や科学的知識を相対化し、患者にとっての病気の意味や経験にも目を向けることができる視点を持つことを目的とする。医療従事者を目指すものだけでなく、様々な物の見方や価値観の多様性を理解することへの学問的関心がある者の受講が推奨される。	
		文章表現法	日本語の文章を読み書きする能力は生きる力の基本であり、学生生活においても職業人となっても必要な能力である。その能力を鍛えて、学生が文章を理解し表現することの喜びや達成感、あるいは苦悩の原因を言葉でとらえて開放感が得られるような授業をめざす。毎回様々な文章を例示して、その要約作業を行わせ、それを他の学生の要約作業の結果と比較することで、文章を理解しその理解を文章で表現することが生きる力の基本となることを実践的に自覚させる。	
		言葉と文化	(概要)我々が普段なにげなく使用している言葉の実態とその文化的背景について、日本語、中国語の身近な例を挙げながら講義する。 (オムニバス方式／全15回) (52 VANCE, Timothy John／8回) 前半(パンズ担当)では、日本語の連濁(濁るか濁らないか)、nga/ga(“が”の発音)など身近な音声の例を取り上げ、どのような規則があるか、また性差、年齢差、方言差など使用実態の違いについて紹介する。 (50 岩田 礼／7回) 後半(岩田担当)では、外来語の受容形態の違いにみられるような日本と中国の文化的差異から説き起こし、実は両者の間に共通性もあることを日本と中国の方言を例に挙げて紹介する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一 般 科 目 (社会力)	日本産業史	(概要) 科学技術に焦点を絞り、日本の技術産業が、世界の歴史との関わりの中でどのように発展してきたかについて概観する。授業においては、世界における歴史的動きと科学技術の発達の中に、日本の科学技術の発展を位置づけ、互いがどのように影響し合いながら、今日の技術情報社会が出現したかについて述べる。映像教材などを多用し、小松という一地方都市が果たした役割についても再認識させる。 (オムニバス方式／全15回) (27 山田 良穂／4回) 日本産業の発達を概観した後、工業材料の発達に注目し、金属材料、樹脂材料の工業材料としての役割について講義する。 (26 山田 外史／3回) 日本産業の中での電気工学、電子工学の分野における様々なイノベーションについて講義する。 (32 岩田 佳雄／4回) 日本産業の発達の中での、機械工学の果たした役割について講義する。 (34 富澤 淳／4回) 日本産業の発達の中で果たした、鉄鋼産業の歴史と役割について講義する。	オムニバス方式
		自然資源と環境問題	原始的な自然とは異なる農林業を通じて形成される自然生態系等、自然資源の特徴を農山村の地域区分ごとに概説し、中山間地域における農林業の衰退が耕作放棄や作業放棄を拡大することにより、限界集落の広がり、野生鳥獣害、生態系の悪化等の環境問題を引き起こしていること、中山間地域の自然資源が観光資源や交流資源として注目されていること等について講義する。	
		経済学	(概要) 経済学の手法・思考方法を学ぶことで、現代社会における経済の仕組みを理解し、現実の諸問題を考える際に必要な基礎知識を習得することを目的とする。前半と後半で、それぞれミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を取り上げて講義する。 (オムニバス方式／全15回) (53 盛田 清秀／8回) 経済主体の行動、完全競争及び不完全競争市場、経済厚生などについて講義する。 (59 一ノ渡 忠之／7回) マクロ経済の基礎知識、物価と失業、金融市場と財政の仕組みなどについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （社会力）	（概要）政治学の基礎知識や概念、方法論について学ぶとともに、時事問題を題材に、現実政治の生活に及ぼす影響について理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （62 木場 紗綾／8回） 政治学の考え方や方法論、政治を分析するための理論的枠組みを講義する。政治の基本的な構造を理解すると共に、政治体制の変動や政権交代、社会運動、住民運動がなぜ起こるのかを議論し、報道や資料にあらわれない背景を理解する概念を身につけてもらう。 （63 千葉 悠志／7回） 権威主義を含むさまざまな政治体制の基礎を講義したうえで、市民社会、メディア、国際政治など、政治社会と関連する諸アクターと政治とのダイナミズムを分析する。報道記事、書籍、各種刊行物などの材料を収集して自分の問題意識を明らかにし、考えをまとめる作業を通して、論点を整理する能力を身につける。	オムニバス方式
	社会学	現代日本社会における、社会と個人の関係とその有り様を現代社会の動向と社会構造に位置付けて理解し、社会分析の基礎的知識を養うことを目的とする。具体的には、産業化、情報化、グローバル化といった社会の変化の様相、地域社会や組織や集団やネットワークの現代的様相について概観する。その際、社会の深層の変化の動向として個人化とその一形態である私事化と全体化のダイナミズムに着目しつつ、これらの状況下における人々の社会意識、社会関係、人々の行為の有り様を考察する。	
	公共政策論	現在、政治、経済、社会における様々な問題を解決する上で、公共政策の重要性が高まっている。本講義では、公共政策とは何か、なぜそれが我々にとって重要なのかを理解した上で、現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現する上で、存在する困難や問題を考察するために必要な視点について受講者が獲得することを目指す。	
	社会福祉論	社会福祉の理論や歴史、現状と課題について学び、現代社会における福祉制度の意義やその理念について理解する。授業では、人権や社会福祉の概念と範囲について触れ、世界とわが国における福祉制度やその理念の変遷について学習する。また、貧困などの現代社会における諸課題についても触れ、これからの社会保障制度に求められる点についても考えを深める。さらに、各国の福祉政策についても取り上げ、国際比較を行う。	
	日本国憲法	この講義では、日本国憲法が私たちに対して何を保障し、かつ要求しているのか、社会生活全般にいかに関わっているのかを知ること、憲法の重要性を自覚することを目的とする。授業においては、憲法の大まかなイメージをつかんだのち、憲法の制定過程と基本原理、平和主義、精神的自由権、経済的自由権と社会権などについて、わかりやすく解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （科学力）	実社会とデータ科学との関わりを学び、統計手法によるデータマイニングの基礎を事例を元に修得することを目標とする。授業においては、基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった基礎を理解し、事例により更なる理解を追求する。 （オムニバス方式／全15回） （29 木村 春彦／9回） 基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった統計手法によるデータマイニング手法を解説する。 （33 新田 雅道／3回） EXCELを用いて基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析などの応用事例を講義する。 （35 上田 芳弘／3回） EXCELを用いて数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法などの応用事例を講義する。 （※平成32年度までは、33 新田雅道が担当する）	オムニバス方式
	データ科学と社会		
	情報処理応用A	モバイル端末の基本的な仕組みを理解するとともに、個人情報を守るための知識と技術を学ぶ。具体的には、個人情報保護の観点、およびリアルタイムトラッキングの観点から、IOTに必要なセンサ、クライアントサーバーシステム、アプリケーションシステムの概要について学ぶ。	
	情報処理応用B	情報技術は社会の様々な場面で活用されている。本講義では、主として医療分野における情報技術の意義とその活用の実態、将来展望を概観し、この分野で活躍することになる学生の情報技術に対する理解を深める。具体的には、医療データの特性、情報技術の基礎と医療への応用、医療データの収集・処理・活用の在り方、医療データの集中管理と分散管理の在り方、医療情報システムの具体例、プライバシー保護・個人情報保護のためのルールや倫理観、セキュリティ技術などについて学ぶ。	
	クリティカルシンキング	本講義では、様々な思考の技術、とくに推論に関する批判的思考法を理解し、それを自覚的に使いこなせるスキルを身につけることを目的とする。「思考の技術」の核心には形式論理学があるが、それをそのままの形で日常的に使うことはあまりなく、クリティカル・シンキング、クリティカル・リーズニングのようなまとめ方をした方が効率的である。したがって、論理学の応用という意味においても、具体的な事例や文章作成を通して、論理的技術の力の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一 般 科 目 (科学力)	統計学	調査や実験、観察により収集したデータから法則性を導き出すための手法としての統計学について、その基礎的な理論と方法を確率論との関連に重点を置いて習得することを目指す。本講義では、データの標準的な分布、分布の特徴表現、サンプルデータから元のデータ集団の分布解析、ある推定の確率的価値を検定する方法、複数の原因から生じる結果について、各原因の可能性を確率的に推定する方法などについて学ぶ。	
		教養としての物理	日常生活やそれを支えている科学技術に欠かせない基本的な物理の現象に関して、その原理や考え方、応用方法を習得することが目的である。授業においては、物体に働く力とつりあい、物体の運動とエネルギー、熱力学の法則とエネルギー、波の性質と音や光の伝わり方、電気と磁気、電圧と電流、原子と原子核などについて学ぶ。	
		教養としての数学	数学の歴史を、その考え方や考察の対象、表現の方法などの変遷を振り返りながら、数学の楽しさや基本的手法を学ぶ。日常生活やそれを支えている科学技術に欠かせない原理を記述するために数学が必要不可欠のものであることを理解する。授業においては、科学技術の進歩に果たした数学の役割を概観する。また、本学における専門教育の基礎となる数学について、指数関数と対数関数、三角関数、行列とベクトル、複素数、微分・積分などを体系的に学ぶ。	
		現代科学技術論	(概要) 現代科学技術の源泉に遡りながら、機械、電気、情報などの要素技術の歴史的発展を概観する。授業においては、古代のエジプト、ギリシャ、中国で開花した科学技術についての考え方とそれらの特色について総括し、欧州に勃興したルネサンスを経て、科学技術が飛躍的に発展する様子を述べる。18世紀に始まる英国の産業革命とフランス革命の嵐の中で近代数学と物理学が次第に形成されることを学ぶ。さらに第二次大戦後の情報科学の発展にも触れる。 (オムニバス方式／全15回) (25 木村 繁男／3回) 科学技術の発達の中で熱力学の果たした役割について述べ、特に熱力学の第二法則の現代的意味について講義する。 (28 安達 正明／3回) 科学技術の発達の中で物理学が果たした役割について述べ、現代における物理学と技術の関係について講義する。 (30 川端 信義／3回) 技術史の中で流体力学の果たした役割と、現代における流体力学、流体工学の先端領域について講義する。 (31 田村 博志／3回) 技術の発達の中で数学の果たした役割と、現代における数学と技術との関係について講義する。 (35 上田 芳弘／3回) 戦後急速な勢いで発達した情報技術の歴史について述べ、今後到来する高度情報化社会について講義する。 (※平成32年度までは、29 木村春彦が担当する)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （健康と 体力）	（概要）健康的な生活を送るために必要となる知識を身に付け、それらを日々の生活の中で実践していくことを目指す。たばこ、飲酒、睡眠などの生活習慣に関するものや、心の健康について取り上げる。 （オムニバス方式／15回） ③ 中島 素子／8回） 健康維持や労働の再生産の視点から適切な睡眠・休養の確保の重要性について学ぶとともに、飲酒や喫煙による健康への影響についても学習する。また、禁煙をめぐる様々な取り組みについても取り上げる。 （68 榊原 千秋／7回） 地域に暮らす人びとを対象にした心身共に健康な生活を送るための活動を踏まえ、ストレスマネジメントやセルフケア、病や障がいについて学び、生涯を通じて豊かに生きるための考え方を学ぶ。	オムニバス方式
	スポーツ演習 （バレーボール）	バレーボールに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バレーボールを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各技術を身につけることを目指す。また、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。	
	スポーツ演習 （硬式テニス）	硬式テニスに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、硬式テニスを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、硬式テニスの基本技術を習得し、ルールを遵守しながら審判およびプレーヤーとしてゲームが行えるようにする。また、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につける。さらに、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。	
	スポーツ演習 （フットサル）	フットサルに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、フットサルを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、受講者がフットサルの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得し、国際ルールに則ったフットサルを行えるようになることを目的とする。ボールの蹴り方や止め方、ボールコントロール、連係プレーなどの技術を身につけ、身につけた技術の実践機会として、試合を行いフットサルを楽しく行えるようになることを目指す。	
	スポーツ演習 （卓球）	卓球に関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、卓球を通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。競技スポーツとしての卓球は、動体視力と反射能力、高い瞬発力や持久力を必要とし、技術面、精神面ともに総合的な実力が要求される。本授業では、基礎動作の反復練習とミニゲームを通じて、卓球の特性と魅力に触れ、基礎的技術や戦略を用いて卓球を楽しむことができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	力一般 科目 （健康と体	スポーツ演習 （バドミントン）	バドミントンに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バドミントンを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、ラケットの握り方や各種ストロークなどの基本を身につけるとともに、戦術についてもゲームを通して実践的に学ぶ。また、ダブルスではパートナーとの連携での自己の役割を理解し、ゲームで生かせる能力を育成する。スポーツに関する理論や安全管理を学び、安全に留意しながらバドミントンを楽しむ。
	英語 科目	英語Ⅰa	英語で書かれた情報を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やしながら、基本的なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、科学、社会・文化、時事など様々なジャンルの英文を読み、メインアイディアとそれを支える具体的事例を理解できるよう、パラグラフの構成と目的を意識した読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。
		英語Ⅰb	英語で話された情報を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やしながら、基本的なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、会話、アナウンス、ニュースなど様々な形式の素材を聴き、イントネーションや音の変化といった発音上の知識についても学びながら、全体の大意を把握する聴き方や細部の情報まで捉える聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでの会話を中心にリスニングの内容に関する演習を行い、語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。
		英語Ⅱa	英語Ⅰaで培ったリーディングスキルを発展させ、目的に合う速さで英語を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、難易度の高い一般語彙を増やしながら、より高度なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、記事、Eメール、論説文など様々な形式の英文を読み、論理展開を意識しつつ、必要な情報を素早く読み取るスキニングなど多様な読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で場面に応じた適切な英語表現を使えるように練習する。
		英語Ⅱb	英語Ⅰbで培ったリスニングスキルを発展させ、やや長めの英語を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、場面特有の表現方法を学びながら、より高度なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、インタビューや講演など様々な形式の素材を聴き、発話された明示的な情報だけでなく、非明示的に伝達される内容も理解できるよう、話し手の意図を意識した聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでリスニングの内容について会話やディスカッションを行い、適切な英語表現を用いて自分の考えなどを述べる練習をする。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	英語Ⅲ	英語Ⅰ・Ⅱで培われた英語四技能（リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング）をさらに発展させ、国際試験（主にTOEIC）受験を射程に入れて、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。授業では、社会性の高い文章を読むことができる語彙の習得や、長文を読み要点を把握することに重点を置く。また、長文の要約や自分の意見を英語で書くことができるよう練習し、英語で自分の考えを論理的に伝える能力を養成する。	
	英会話Ⅰ	本講義では、リスニングおよびスピーキングを中心とした英語力を身につけ、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。英会話Ⅰでは、日常会話などの基本的なレベルの会話力を習得させる。二人一組やグループでの会話などを通じ、英語に慣れるようにする。最終的には、英語で会話するときに、自分の地域や文化などについて、説明や意見を述べるができるようになることを目指す。	
	英会話Ⅱ	本講義では、英会話Ⅰでの学習内容をさらに発展させ、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるようにする。リスニングでは、映画・ビデオ・ニュース番組などの教材を用いて普通のスピードの英語に慣れるようにする。最終的には、英語によるスピーチやディスカッションができるようになることを目指す。	
	実用英語Ⅰ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英文法・英文読解の学習の基礎を理解し、簡単な英文を最低限聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で600点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅱ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。簡単な英文を読んで理解することができ、ゆっくりと読まれた英文を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で660点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅲ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。ある程度の長さの英文を読んで理解することができ、通常の速さの英会話を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で720点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅳ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英字新聞や洋書を読解でき、ネイティブスピーカーの英会話を聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で800点を超える程度とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	その他外国語科目		
	中国語Ⅰ	授業を通じて、学生が中国語の声母、韻母、声調の基本を把握し、正確にピンインローマ字を書き、漢字を読み、簡単な中国語対話と少量の教室用語が聞き取れるようにする。また中国語学習と関連する言語文化的要素を理解させる。授業は学生を中心とし、教員が主導することで学生の中国語コミュニケーション能力を涵養することを目的とする。言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、学生の中国語学習に対する興味と意欲をかきたてることで、その後も中国語学習を継続するための基礎を作る。	
	中国語Ⅱ	授業を通じて、学生が中国語を正確に発音し、会話相手の意図を正確に聞き取り、簡単な日常会話を行い、平易な短文を閲読する能力を身に着けるようにする。また簡単に実用的な文やフレーズが書けるようにする。授業では学生を中心とし、教員が主導するという原則を維持し、言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、中国語学習と関連する文化的要素を教授する。教員の話は簡潔にし、練習を多くすることで、学生の中国語コミュニケーションレベルを高めるよう努める。	
	フランス語Ⅰ	フランス語によるコミュニケーションのために必要な、聴く、読む、話す、書くの4分野にわたる能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、フランス語の発音、初等文法、基本的な会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、簡単な日常会話や平易な読み書きができるようになることを目指す。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに引き続き、コミュニケーションに必要なフランス語運用能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、より発展したフランス語の発音、文法、会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、日常会話や読み書きができるようになることを目指す。	
	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパの主要言語の一つであるドイツ語の基礎を学ぶ。本講義では、ドイツ語を発音でき、文法の基礎を理解し、初歩的な表現力を身につけることを目標とする。アルファベットからはじめ、発音、挨拶表現や簡単な会話を反復練習する。ドイツ語によるコミュニケーション能力の獲得、ドイツ語圏の社会、文化に関する知識を得ることも講義の目標とする。	
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の初歩を学ぶ。ドイツ語Ⅱでは、ドイツ語Ⅰの復習からはじめ、さらに初等文法の修得を中心に、会話も含めた講義とする。実際のドイツ語によるコミュニケーション能力を獲得、ドイツ語圏の社会、文化などに触れ、理解を深めることも講義の目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	その他外国語科目	ロシア語 I	ロシア語を学んだことのない学生を対象とする。今まで英語で使用してきたラテン文字とは違うロシア文字（キリル文字）の発音や書き方から始め、ロシア文字で書かれた単語を読めるようになったらロシア語独自のイントネーションや簡単な挨拶の表現などを学んでいく。さらに、ロシア語を読み、書き、話し、聞くうえで必要な文法事項を学んでいく。
		ロシア語 II	ロシア語 I に引き続き、ごく簡単な文章を読みながら、初等文法を学習していく。この講義で取りあげる範囲は、名詞単数および代名詞の格変化、動詞の時制、運動の動詞、形容詞の短語尾形、無人称文までである。この学期の到達目標としては、少し複雑な文章を辞書を用いて独力で読めるようにすること、簡単な自己紹介ができるようにすることである。
		スペイン語 I	テキストの構成に沿って、文字と発音を結びつけることを徹底しておこない、アクセントの位置を習得し、音読できるようにしてから、会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、主格人称代名詞、名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、形容詞、規則動詞AR型、同ER型、同IR型、ser動詞、estar動詞などの不規則動詞、所有形容詞、否定文と疑問文などについて学習する。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。
		スペイン語 II	スペイン語 I の既習事項を復習しながら、引き続き会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、語幹母音変化動詞、指示詞、間接目的格人称代名詞、gustar構文、感嘆文、1人称単数のみが不規則な動詞、不定詞、直接目的格人称代名詞、命令文、天候、日付、時刻の表現、再帰動詞などについて学習する。ここまですべて現在時制での基本的な文法事項をマスターする。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。
専門 基礎 科目	人の身体と心を知るステージ	解剖学	人体の構造を理解する解剖学は、医学・医療を志す者にとって最も基本的な学問である。まず細胞の構造と、細胞が集まって形成する4種類の組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）の構造について学ぶ。次に、組織が組み合わさって形成する各器官の肉眼及び顕微鏡レベルの構造について、10種類の器官系（骨格系、筋系、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系）の順に沿って系統的に学ぶ。
		生理学	人体の機能を理解する学問が生理学である。まず細胞について、細胞膜、小器官や核の機能を学ぶ。4種類の組織のうち、筋組織については、各種の筋細胞の収縮機構を、また神経組織については、神経細胞の静止膜電位と活動電位、興奮の伝導と化学伝達のしくみを学ぶ。続いて、解剖学における器官系の順に沿って、骨格系、筋系、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の器官の機能について学ぶ。特に心血管機能、呼吸機能、腎機能に重点を置く。
		病理学	病気のしくみ（原因と形成機序、全身及び器官・組織・細胞の病態における形態と機能の変化）を理解する学問が病理学であり、医学における基礎と臨床を橋渡しするものである。本授業では病理学総論の内容を中心に学ぶ。細胞レベルの傷害、再生と死、個体レベルの先天異常、代謝栄養障害、循環障害、炎症と免疫、感染症と環境因子、腫瘍及び老化に基づく病態について学び、各器官系における主要な疾患について概説する。個体の死について、病理解剖についての解説も行う。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	人の 身体 と心 を知 るス テー ジ	（概要）心と脳・身体の関係、心の健康、心の健康問題（精神疾患）について学ぶ。それとともに心の健康を維持・増進するためのストレスマネジメントに関する知識を得た後、実際の方法論を修得する。 （オムニバス方式／全15回） ① 北岡 和代／8回 心の健康、心の健康問題（精神疾患）、ストレスに関する知識等を教授する。 ④ 鋤柄 増根／7回 実際の方法論（自律訓練法、Anger Management、認知療法、Assertive Communication、等）について教授する。	オムニバス方式
	感染免疫学	感染症の定義ならびに、感染症発症の原因微生物とそれらによる感染症発症の機序、さらには感染制御の中心的役割である感染免疫応答の基本概念を学習する。また、免疫応答の機能を担う免疫細胞、抗体、補体、化学伝達物質（サイトカインなど）の性状ならびに、それらによって惹起される自然ならびに獲得免疫応答のメカニズムについて講義する。さらに、免疫応答によってもたらされる生体反応（感染防御機構、癌に対する免疫応答、移植と拒絶反応、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）についてその免疫学的な成因を概説する。	
	栄養・生化学	（概要）生体の生命活動や健康に関与する事柄を生化学・栄養学的な視点から講義する。授業においては、生体内で生ずる種々の反応やその反応系に異常を来たして生じた疾患について代謝栄養学的に説明するとともに、食事・栄養に関する基本的な知識についても理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （83 千葉 賢三／8回） 生命活動を行うための物質代謝・代謝調節の仕組みを教授する。 （82 水野 洋子／7回） 食事・栄養に関する正しい知識を教授する。	オムニバス方式
	薬理学	総論で薬理学の定義をはじめ、薬理学によって解明された情報伝達機構、神経に作用する薬物、循環・呼吸・代謝・消化器に作用する薬、水・電解質と利尿薬、血液や造血に作用する薬物、ホルモン剤・内分泌疾患治療薬、代謝・栄養疾患治療薬、泌尿・生殖器作用薬、感覚器・皮膚の治療薬、病原微生物に対する薬剤、抗悪性腫瘍薬、抗アレルギー・免疫抑制剤について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	人の健康問題を考えるステージ		
	認知症ケア論	人間の老いや認知障害を成長発達の統一的連続として理解し、人生の最期までその人らしい生活を支える概念を学ぶ。老年期を生きる人々の特徴を身体的、精神的、社会的な側面から学ぶ。理解を深めるために、疑似体験を取り入れる。その後、医学的な知識とともに、それらによって個人が受ける身体的、精神的、社会的な側面への影響と家族や社会への影響を考察する。以上を踏まえ、日本および地域で行われている施策やサービス等を理解しながら、認知障害や認知症を抱える高齢者に対する望ましいケアの在り方を考察する。	
	老年疾病・治療論	高齢者の健康の維持や増進、疾病からの回復を支える看護に求められる老年医学の知識を学ぶ。授業では、老年期に罹患リスクの高い特徴的な疾病とその治療方法について学び、疾病から起こりうる客観的な障害について、身体的、精神的、社会的な観点から理解を深める。また、主観的な障害（illness）についても学び、望ましい看護ケア提供の在り方を考察する。	
	公衆衛生学	公衆衛生序論では公衆衛生と医療の歴史、公衆衛生活動、生命・保健医療福祉の倫理、生活と健康・慢性疾患の原因や環境を学ぶ。保健統計では健康水準・指標、人工統計、疫学、疾病予防と疫学管理、主な疾病の予防では感染症・循環器疾患・糖尿病・高血圧・通風・癌・アレルギー予防、環境保健では科学的・生物学的・大気汚染・水質汚染、生活環境、地域保健と保健行政、母子・学校・産業・精神・老人福祉の各保険、国際医療保険、保健医療の制度と法規を学ぶ。	
	急性疾患論	急性疾患を理解する上で必要な病理学的な病気の成り立ちと疾患の基礎知識を修得し、疾患の病態生理、臨床症状、診断、検査、治療の基本を理解する。さらに、疾病に対する発症予防や健康管理、回復促進法について具体的事例を通じて学習する。主には、外科的治療を要する脳卒中、急性心筋梗塞、がん（消化器がん、肺がん、乳がん）、骨折等の疾患を中心として理解を深め、成人看護学の理解へのレディネスを高める。また、救急救命にとって必要な知識や技術を教授する。	
	母子疾病・治療論	女性生殖器系の疾病・障害や、小児固有の疾病・障害を理解する上で必要な病理学的な病気の成り立ちと疾患の基礎知識を修得する。授業では、女性生殖器系の疾患の病態生理、臨床症状、診断、検査、治療の基本を学習するとともに、疾病に対する発症予防や健康管理、回復促進法、妊娠・分娩期の主な異常とそれらの予防や医療処置について取り上げる。また、事例学習を通して、産褥期にある母子に対する看護展開の実際を学ぶ。さらに、小児固有の疾患の病態生理、臨床症状、診断、検査、治療の基本を学ぶとともに、疾病に対する発症予防や健康管理、回復促進法についても具体的事例を通じて学習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人の健康問題を考えるステージ	生活習慣病論	わが国の疾病構造は、感染症などの急性疾患から慢性疾患へと大きく変化し、慢性疾患の中でも、糖尿病、高血圧などの生活習慣病はわが国の健康長寿の大きな阻害要因となっている。本授業では、慢性疾患、特に生活習慣病について、臨床的な知識の修得を目標として、疾患概念と病態、要因、症状、診断と治療等について学ぶ。また、発症予防や治療における患者自らによるセルフケアの理論と看護の役割について考察する。	
		保健医療福祉法制度論	社会福祉の各理論とそれらを踏まえた日本の考え方と実践されている法制度やサービスに関する基礎的な知識を得る。その後、日本における保健・医療・福祉の法体系と理念および諸施策・制度の仕組みについて、総体的かつ具体的に学ぶ。それらの学びを通して、抜本的改革の時期を迎えている社会福祉と医療制度の基本的な枠組みのパラダイムシフト（医療・保健・福祉の縦の関係から横の連携・包括）について理解する。	
		疫学・保健統計学	保健・看護活動の対象集団における健康問題を量的に収集し、分析できるよう、統計学の主要概念、基礎理論、解析方法等について学ぶ。授業では、保健活動に関連する統計指標の見方、考え方、活用方法について、事例を取り上げながら説明を行う。また、統計処理の理解を深めるために、社会で広く用いられている基礎的手法についての実践も行う。さらに、インターネットを用いた検索システムや病院における情報システムについても学ぶ。	
専門科目	看護とは何かを理解するステージ	市民健康論	(概要) 市民の健康に係る実態と将来像について学び、また、看護の役割の理解および学修意欲を高めることを目的として、本学が所在する小松市での事例も活用しながら説明を行う。 (オムニバス方式・共同（一部）／全15回) ③ 中島 素子／3回) 市民の健康実態と市役所、保健所、子育て支援センター等が実施している諸活動について説明を行う。また、現在の法制度やサービスの概略と、地域包括ケアシステムの動向について理解を深める。 ⑤ 内田 美保／5回) 公立病院の構造と役割、医療保険、チーム医療、外来患者・入院患者等について学び、公立病院における看護師の役割と将来像、看護管理の仕組みを理解する。 ⑧ 徳田 真由美／3回) 地域包括支援センター、訪問看護ステーション、老人保健施設等が行う活動について学ぶ。 ③ 中島 素子・⑤ 内田 美保・⑧ 徳田 真由美／4回) (共同) 市民の健康に係る諸課題を取り上げ、その解決に向けた取り組みについてグループをつくり討論を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護とは何かを理解する ステージ	（概要）看護学の発展の歴史の変遷（法制度含む）、基本概念である「人間」「健康」「生活」「看護の専門性」について学ぶ。また、看護の在り方（看護理論含む）の学習を通して、看護の目的（目的論）、対象の捉え方（対象論）、看護実践（方法論）について学ぶ。それらの学修を通して、看護の本質を捉え、看護実践に必要な基礎的知識と思考過程を理解し、看護事例を通して学修した方法論を理解する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） ⑦ 松井 優子／6回） 看護の基本概念、看護の在り方、目的論と対象論 ⑤ 内田 美保／4回） 看護の歴史、方法論 ⑤ 内田 美保・⑦ 松井 優子／5回）（共同） 演習を行う。演習では、学生を数グループに分け、各グループに各看護理論家の理論について発表させる。また、対象の捉え方の理解を深めるために、看護事例を通して、学生に考察させ、グループ発表させる。	オムニバス方式・共同（一部）
	基礎看護実習Ⅰ	医療施設としての病院の構造と機能を理解するために、各部門を見学する。その中で、看護師を含め、医療専門職者の役割と責任について学習する。また、入院療養中のサービス利用者の生活の場および診療の場としての病棟・病床を理解し、可能な限り快適な療養環境を調整するための技術を学ぶと共に、看護専門職を目指す者としての学習の動機づけとする。	共同
	看護の技基礎コースⅠ （療養上の世話）	基礎看護技術の中核でもある、安全・安楽・自立の意味と行為を考察すると共に、コミュニケーション技法を修得する。また、人間の基本的ニーズを考察し、日常生活を支援する技術を修得する（環境調整、食事、排泄）。さらに、ヘルスアセスメントに関する基礎知識、基礎技術を修得し、看護の視点で健康についてアセスメントする能力を修得する。	共同
	看護の技基礎コースⅡ （フィジカルアセスメント）	人間の基本的ニーズを考察し、日常生活を支援する技術を修得する（清潔、衣生活、活動・移動、休息、安楽をもたらす技術）。また、日常生活行動と心身のメカニズムとの関連を理解したうえで、対象者の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントの考え方、方法およびプロセスを学ぶ。	共同
	看護の技基礎コースⅢ （診療の補助）	治療過程にあるサービス利用者を身体的、精神的、社会的側面から理解し、サービス利用者が安全で安楽に診療を受けられるよう診療の補助に関する看護技術（診療と看護、与薬と看護、無菌操作技術、等）、および生命活動を支える技術を修得する。また、危篤・死亡時の看護（危篤時の看護、死亡時の看護）について学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看護とは何かを理解するステージ	看護ケア提供論： 看護理論と看護過程	人間の基本的ニーズを充足するための看護過程の展開の考え方（看護理論）と方法論（情報収集・アセスメント・看護計画の立案・評価）を理解する。看護の対象者の健康上の問題や障害をもつ人々の生活上のニーズや諸問題を明らかにし、その解決に向けた的確な援助を提供するための問題解決のプロセスを学ぶ。
		看護の品格育成論	社会の中で、集団生活を営むために必要な基本ルールやマナーを理解し、円滑な人間関係を保つための基本的態度を身につける。特に、サービス利用者としての看護の対象者に対して、品格をもった態度で臨む考え方を理解する。本授業では、大学生活および将来の職業生活への適応がスムーズに行えるようにサポートすることをねらいとする。
		看護倫理	今後遭遇しうる倫理的問題（インフォームド・コンセント、移植・生殖・遺伝子医療、医療過誤、安楽死、等）に正しく対処できるようになるために、医療倫理に関する基本的知識と問題解決技法を修得する。また、実践現場においては、看護の対象者自身の価値観、家族の価値観、対象者にかかわる医療職者等の価値観が交錯し、様々な形で倫理的葛藤が生じる。そのような事例をとりあげ、自由闊達な討論を通して一人ひとりが自己の価値観をみつめ、倫理的実践とは何かを具体的に考えていく。
		基礎看護実習Ⅱ	病棟における看護チームの構成員と役割及び他職種との協働を理解する。入院療養中のサービス利用者を受け持ち、情報をもとに利用者を全人的に捉え、個人のニーズに対応した看護過程を展開し、日常生活を支援することを学ぶ。看護過程の展開に必要なコミュニケーション技法、日常生活援助技術を、実践を通して学ぶ。
		精神保健看護学概論	人々の精神の健康（心の健康）を保持・増進してより良い人間関係をつくるために果たすべき看護の役割について学び、必要な知識と技術を修得する。また、ノーマライゼーションの理念を理解し、精神に障がいを持つ人々の地域生活をサポートするために果たすべき看護の役割について学び、必要な看護ケアの方法を修得する。併せて、自己表現能力を高める。精神保健看護の基盤となるカウンセリング・マインド、援助関係の構築、治療的アプローチ、治療的環境、多職種間連携、精神障害者福祉等について概説する。

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看 護 と は 何 か を 理 解 す る ス テ ー ジ	精神保健看護ケア提供論	地域で生活する、あるいは病院で療養する精神に障がいを持つ人々に対する保健医療福祉領域における看護の役割について理解を深め、個々の精神に障がいを持つ人に応じた看護ケアを提供できる能力を養う。併せて、精神に障がいを持つ人が看護ケアを受け入れるために最も重要となる人間関係構築能力を高める。また、精神的健康問題に関する基礎知識を得、精神的健康問題を持つ対象への看護過程の展開方法、および精神看護の基本的技術について学ぶ。	
		精神保健看護演習	精神保健上の問題をかかえる個人を全体論的に把握し、サービス利用者のリカバリーと地域生活を支えるさまざまな施設の活動と目的、および法制度上の位置づけ（根拠）について理解した上で、必要な基本的な知識と技術を獲得させるために、グループ演習や課題学習、等を通して学修させる。ここでは、精神保健上の問題をかかえる当事者、ハンセン病当事者（藤田三四郎さん）を特別講師として招き、学生とやり取りをしてもらうことにより、学生の当事者への理解を深め、共感力を高める。	
		精神保健看護実習Ⅰ	看護ケアを提供する対象者に対して、人権や権利を尊重した倫理的な態度で、また、病気や障害に由来する対象者への否定的なイメージや偏見をもたずに、対象者を全人的に理解するために必要なコミュニケーション能力を高めることを目的とする。ここでは、病気と共存しながら地域で生活している精神に障害をもっている人々を対象として、そのコミュニケーションを実施する。さらに、精神に障害をもちながら生活する人々の心身の痛みに共感できる感性を育てる。	共同
		精神保健看護実習Ⅱ	精神に障がいを持ちながら療養する人々にアプローチし、当事者が抱く生活のしづらさを理解する(対象理解)。そして精神障がいリハビリテーションを進めるため、あるいは個々人のリカバリーを目指して、サポートできる看護ケア実践力を修得する(精神保健看護実践能力)。さらに精神障がい者やその家族、コミュニティ、医師やメディカルスタッフと協働するための人間関係を築く能力を育む。	共同
	看 護 ケ ア 能 力 を 育 て る ス テ ー ジ	老年看護学概論	高齢者の特性とその生活について、加齢に伴う心身の変化が日常生活に及ぼす影響を理解し、健康的側面と社会環境の側面から全人的に理解する視点を学ぶ。さらに老年期を生きるその人に関心を寄せ、高齢者のもてる力を洞察し、人生を完結する老年期をよりよく生きることを支える看護を実践するための基礎的能力を養う。	
		老年看護ケア提供論	加齢現象を基盤にした高齢者に特徴的で起こりやすい健康障害や生活機能障害について理解するとともに、高齢者のもてる力やＱＯＬの維持・向上にむけて日常生活を整えるために必要なアセスメントの視点や看護援助技術を修得する。部分的・断片的な情報の意味を考えて、それらに関連づけ、対象者その人を包含的に位置づけ、その人にとって望ましい生き方を見つけ看護ケアを提供できる力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看 護 ケ ア 能 力 を 育 て る ス テ ー ジ	老年看護演習	高齢者の身体観察・問診およびバイタルサイン測定を行い、自らの課題を発見しながら高齢者のヘルスアセスメント能力を養う。また、医療依存度の高い高齢者に対する看護ケアの提供に必要な基本的な知識・技術について学習する。老年看護実習にむけて、認知症の病態や診断・治療、認知症の人の体験世界や看護援助を学びながら、地域の認知症高齢者および家族介護者と交流する機会やロールプレイングを通して、認知症高齢者とその家族の理解や認知症ケアのスキルアップを図る。さらに、認知症をもつ高齢者の事例を用いて、患者情報の解釈・分析から看護援助の必要性を見出し、事例に応じた個別性のある看護援助を計画立案するための実践的な思考プロセスを修得する。	共同
		老年看護実習Ⅰ	老人介護保険施設あるいは地域包括ケア病床において、認知症高齢者を受け持ち、看護過程を通して認知症高齢者の特性および全体像（身体的、心理的、社会的）を理解し、その人なりの自律的な生活を支援するために必要な知識と技術を修得する。また、人生の先輩として尊厳ある生き方をサポートできるような看護技術を実践の場で鍛える姿勢をもち、自己の倫理観・老年観を養う。	共同
		老年看護実習Ⅱ	介護老人福祉施設で生活する高齢者と家族、ならびにデイサービスやショートステイ等を利用しながら居宅での生活を維持している高齢者と家族の特性をとらえ、必要な看護援助を理解する。さらに既習の知識や実習体験を統合して地域包括ケアシステムに関する理解を深め、高齢者の生活を支えるために家族や多職種と連携・協働する際の看護の役割について学ぶ。	共同
		成人看護学概論	成人期の特徴と健康問題を概説する中で、生活者としての成人の特徴、および生活と健康問題の関係についての理解を深める。また、健康段階に応じた看護の特徴の概説を通して、多様な視点からの対象のとらえ方を学ぶとともに、生活者としての成人を理解する視点、および各健康段階における対象の特性を、理論を交えながら学ぶ。同時に、生涯を見据えた看護、継続看護の視点から、成人看護の課題と看護の役割について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護 ケア 能力を 育てる ステー ジ	（概要）日本人の死因の大きな割合を占めるがんと動脈硬化性疾患、その危険因子である生活習慣病と合併症疾患を取り上げ、疾患の関連性を強調しながら、看護に必要な基本的知識を示すことで、病態理解から看護へ論理的に思考できるように授業を展開する。本講義では特に、外科的治療が必要ながんおよび動脈硬化性疾患を罹患した成人における、退院後の生活を視野に入れた周手術期看護、急性期看護の基本的特徴を教授しながら、成人における看護の基本的考え方の習得を目指す。 （オムニバス方式／全15回） ⑩ 山崎 松美／7回 初回授業（成人の生活と健康障害、慢性病とは）、がんを罹患した患者の特徴と理解、手術治療とは、がん患者の看護、クリティカルケア、救急看護、まとめ授業を担当する。 ⑫ 佐藤 大介／8回 手術治療を受ける患者の理解と看護の基本（術前・術中・術後）、消化器がん、肺がん、乳がんを罹患した成人の看護（周手術期～退院支援）の授業を担当する。	オムニバス方式
	成人看護ケア提供論		
	成人看護演習	生涯にわたり疾病や生活のコントロールが必要な健康障害を持つ成人と家族の、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、経過や段階に応じた看護の基本と、最適健康およびQOLを尊重した看護の考え方および患者教育の基本的考え方を学ぶ。看護過程の展開および慢性病患者に必要な看護技術、機能障害持つ患者に必要な看護技術、急性期に必要な看護技術の演習を通して、系統的な看護思考および看護実践に向けた基本的能力を養う。	共同
	成人看護実習Ⅰ （急性）	手術を受ける患者を対象に、疾病および手術が患者の心理・社会生活に及ぼす影響、および手術侵襲が生体に及ぼす影響を理解するとともに、回復を促す基本的な看護実践能力を養う。また、クリティカルな状況にある患者の看護体験を通して、適切かつ根拠に基づいた観察およびアセスメント能力を養うとともに、生命危機状況にある患者と家族の心理社会的特徴をふまえた、クリティカルケアのあり方について探求し続ける態度を養う。	共同
	成人看護実習Ⅱ （慢性）	慢性的な健康障害を持ち、生涯にわたり疾病や生活のコントロールが必要な入院患者とその家族を対象に、看護過程を展開しながら、慢性病患者の捉え方と、援助的人間関係構築に向けた看護者の姿勢について指導する。さらに、対象者と家族が、退院後も積極的かつ意欲的に療養行動に取り組むことができるための援助方法について、臨床指導者や教員と共に考えながら実践し、セルフマネジメント支援型の患者教育の理解を促す。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看 護 ケ ア 能 力 を 育 て る ス テ ー ジ	成人看護実習Ⅲ (回復・維持)	慢性的な健康障害を持ち、疾患や生活をコントロールしながら社会生活を営んでいる外来通院患者を対象に、限られた時間の中で、適切な人間関係を構築しながら、看護に必要な情報収集を行うことで、慢性病患者の理解を深めるとともに、継続看護の重要性の理解を促す。また、機能障害を持ちセルフケア能力の再獲得が必要な入院患者・家族を対象に、機能回復と退院後の生活を見据えたセルフケア支援を実践することで、機能障害を持った患者の理解を促すとともに、機能回復を促す看護援助方法を修得させる。さらに、成人看護実習の全経験を通して ①慢性的な健康障害を持つ個人が、生涯にわたり積極的かつ意欲的に療養生活に取り組む支援としての看護のあり方と課題、医療チームの役割と連携・協働のあり方について考察する ②急性期の看護が、機能回復や退院後の疾病管理・生活管理に及ぼす影響を考察し、急性期看護の役割と責任について再考する。	共同
		母性看護学概論	母性看護学の概念と対象を理解するために必要な知識と支援のあり方を考察できる能力を養う。1)ライフステージ各期における性と生殖に関する健康課題、ジェンダーと関連する健康課題、次世代を産み育てる女性の健康の維持・増進、疾病予防に関する看護活動の役割と機能、将来展望を理解する。2)母性看護の対象やそれを支える関係法規、母性保護や健康支援の現状を通して、母性看護の役割や課題についてひろく理解する。	
		母性看護ケア提供論	周産期の健康特性(身体的、心理的、社会的)を踏まえ、ウェルネスな視点で看護上の課題を見出すための知識と、正常・正常からの逸脱・異常を判断するための知識、その看護実践をすすめるための方法を学習する。また周産期は新たな家族構成員の増加により家族関係が変容する時期であり、円滑に対処できるような看護支援についても探求する。さらに周産期にある母子とその家族を取り巻く社会の現状から母性看護の課題や役割を学習する。	
		母性看護演習	周産期にある母子および家族の身体的、心理的、社会的特徴と看護課題・看護問題を理解し、看護ケアに必要な看護実践能力を学ぶ。さらに地域で生活する母子とその家族が安全・安心して妊娠・出産・育児のできる環境づくりや、社会的支援のあり方について考察する。紙上事例をとおして看護過程の展開能力、演習による母性看護の基本的看護技術の実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護 ケア 能力を 育てる ステー ジ	母性看護実習	周産期にある女性と子ども（胎児・新生児）およびその家族を対象とした看護過程を通して、身体的、心理的、社会的健康の増進方法と看護ケア能力を習得する。また自治体の男女共同参画支援施設において地域の男女共同参画の現状や課題を学び、生涯を通じた女性の健康と看護に求められている支援について考察する。
		小児看護学概論	小児期の発達段階の区分は、出生前期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期にわけられる。小児は成長・発達段階にあり、成長・発達を促進する環境調整や生活習慣を理解しなければならない。乳幼児期の成長・発達は生涯にわたる健康の基盤であり、家庭の中で行われる養育が極めて重要である。また学童期～思春期では、子どもの社会性が目覚しく発達するが、心理社会的な問題が起こりやすい時期でもある。小児期の成長・発達の進み方を理解するとともに、ワークショップ形式も取り入れ成長・発達の評価を具体的に学ぶ。
		小児看護ケア提供論	小児の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントの方法・プロセスを学ぶとともに、小児救急におけるトリアージを判定し、小児救急救命処置の知識と技術を修得する。また、慢性疾患をもつ小児に対する健康回復への援助とともに、在宅・学校生活における自己管理方法に対する指導を修得するとともに、免疫防御機能が低下した小児に対する清潔隔離・不潔隔離の理論と方法を修得する。
		小児看護演習	小児看護に必要な知識・技術の獲得を目指し、「自ら学べる学習環境」を提供する。シミュレーション教育を取り入れ、1) タスクトレーニング、2) アルゴリズム・ベースド・トレーニング、3) シチュエーション・ベースド・トレーニングを提供する。1) では、調乳・離乳食・経口与薬を実施する。2) では、フィジカルアセスメント・トリアージ・小児救急蘇生法を実施する。3) では、高機能小児シミュレータを用いて、五感を駆使して陥没呼吸・多呼吸・心拍を観察し、下痢・発熱・脱水を系統的に観察する。
		小児看護実習Ⅰ	健康な乳幼児における1日の生活と世話を観察し、運動機能、知的機能、情緒・社会的機能の発達を理解するとともに、発達促進のための働きかけを見学する。また、発達段階に応じた遊びを理解し、「ぼんやり」「傍観」「1人遊び」「並行遊び」「連合遊び」「協同遊び」の実際を学ぶ。乳幼児期は「感情の分化」がおり、乳児期にみられる愛着形成・分離不安、幼児期にみられる自律性・自発性は、非常にダイナミックである。子どもの活動を行動観察法によって記述し、概念的な理解から具体的な理解に発展させる。
			共同

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看 護 ケ ア 能 力 を 育 て る ス テ ー ジ	小児看護実習Ⅱ	健康障害を持つ子どもとその家族を対象に看護を展開し、子ども個々の発達に適した看護ケア提供の在り方を学習する。また、育成期家族の発達と健康を促進するために、子どもを産み育てる時期にある親子の健康保持、健康問題からの回復に対する看護援助を実施する能力を養う。看護チームの一員として看護を展開したり、手術室や外来など部署を超えて継続した看護を学習することにより、医療の行われる場の理解を深めるとともに、子どもと家族が持つ健康問題を全体論的に把握し、保健、医療、福祉、その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。また、健康問題をもつ小児の成長発達をふまえた長期的な視点を持ち看護を実施、考察する。	共同
	看 護 ケ ア 能 力 を 拡 げ る ス テ ー ジ	在宅看護学概論	在宅療養者と家族の生活を理解し、在宅看護の目的や支援方法を考える。また、在宅ケアにおける関連機関や職種との連携・協働方法とチームにおける看護職の役割を理解する。外来・訪問・病棟・入所施設・通所施設等、様々な生活の場における看護を理解し、生活の継続性を支える視点から法制度や訪問看護サービス等を捉える。在宅療養者の全体像を多面的に把握し、「その人らしさ」を支える方法を理解する。生活環境を整え、生活範囲の拡大とQOLの向上を目指す在宅看護を展開するための基礎的な知識を修得する。	
		在宅看護ケア提供論	在宅療養者を生活者として長い時間軸で捉え、自宅・病棟・外来等、様々な療養の場で在宅看護を展開していく必要があることを理解する。在宅療養者の多面的な背景や全体像を捉え、「その人らしさ」を支える方法を理解する。様々なライフステージの療養者は、疾病を抱えていても住み慣れた生活の場所で療養し、自分らしい生活を送ることを望んでいる。そのため、療養者及び家族を中心とした、「療養者・家族の思いや望み」を考え、治療、看護ケアを提供するために必要な知識や技術を修得する。また、身の回りにある物品を用いて清潔の援助を行う創意工夫を考えるほか、様々な福祉用具についても学び、その目的や意義、機能を明らかにする。	
		在宅看護演習	家庭や施設を基盤に多職種・多機関と連携しながら看護ケアを展開している訪問看護師の活動について、実習プログラムにそって系統的に学習する。多様な事例（認知症、終末期、医療依存度の高い療養者など）を対象として、生活の場で行われる療養の特徴、家族へのアセスメント方法等を学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看 護 ケ ア 能 力 を 拡 げ る ス テ ー ジ	在宅看護実習	実際に地域で療養する人とその家族を対象に、訪問看護師とともに看護活動をする。関連機関・職種と連携・協働しながら、家庭や施設において看護援助をしている訪問看護師の活動、訪問看護ステーションの運営・管理について学ぶ。様々な在宅サービス提供機関における看護職の機能・役割についても学ぶ。それらを通して、在宅生活を維持するための現状と課題を捉える能力を養う。その上で、保健・医療・福祉の総合的な視点からのサービス提供体制や支援のあり方を検討し、必要となる看護やサービスを提供するための能力を養う。	共同
		看護統合実習	看護を統合する能力を得るために、地域の病院でインターンシップを行う。それを通して、医療・保健・福祉チームにおける看護職の責任と役割を認識し、実習指導者等の協力の下でパートナーシップ・ナーシング・システムを活用しながら複数課題にも対応して看護ケア提供が実践できる能力の修得をめざす。また、病院の機能と役割を地域の中に位置づける意識を高めるために、連携して行っている諸活動（地域医療連携室）について学び、地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護福祉施設、等との連携やコーディネーションに関する理解を深める。	
		公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学の歴史・定義・概念を理解し、健康に影響する生活環境と社会的要因，健康課題解決のための資源について修得する。多様な広がりをもつ公衆衛生看護活動の行われる活動の場（行政・学校・産業）を理解し、対象としての個人・家族・地域集団の特性および公衆衛生看護活動の方法について概略を修得する。	
		健康教育論	（概要）保健行動、保健行動の変容、健康教育に関する理論を学び、個人や集団の健康問題に立脚した健康教育の実践について学習する。特に、児童、生徒、労働者と比較的健康レベルの高い人々を対象とした健康教育のアセスメント・企画・準備・実施・評価までの一連の健康教育を展開する過程における基本的技術を修得する。 （オムニバス方式／全8回） ⑬ 中島 素子／6回） 理論、方法論、健康教育企画書の作成および全体のまとめを担当する。 ⑭ 池田 美智子／2回） 健康教育の事例を担当する。	オムニバス方式
		公衆衛生看護方法論Ⅰ （対象別）	公衆衛生看護の対象である個人や家族、集団を対象とした援助方法を理解し、母子保健・成人保健・精神保健・高齢者対策等・難病保健・感染対策について、対象を理解し解決する能力と健康増進のための保健指導の技術・方法を修得する。また保健活動に必要なポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチ方法について修得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看護 ケア 能力を 拡げる ステー ジ	公衆衛生看護方法論Ⅱ (公衆衛生看護技術)	公衆衛生看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、特定集団、地域集団を対象に、公衆衛生看護の実践で用いる基本的な技術(保健指導、家庭訪問、乳幼児健診、健康相談・健康診査)を修得し、演習へつなげていく。	
		公衆衛生看護方法論Ⅲ (学校・産業・災害)	(概要) 学校保健・産業保健および災害看護の意義、法規・制度、役割、動向などを修得する。公衆衛生看護の場としての専門性を理解すると共に、それぞれの場と行政保健との連携、今後の課題についても理解する。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (① 日下 純子／7回) 学校保健については、児童生徒の健康問題の特徴や児童生徒の心身の健康を支援する養護教諭の役割や機能・業務を修得する。 (③ 中島 素子／7回) 産業保健については、産業保健師の職務と産業看護活動を理解し、労働者の健康課題を知り、労働三管理を修得する。災害保健については、災害サイクルに合わせ求められる保健サービスを修得する。 (③ 中島 素子・① 日下 純子／1回) (共同) まとめを行う。授業の内容を振り返り、学校・産業・災害の中における保健師としての役割について考えを深める。	オムニバス方式・共同(一部)
		公衆衛生看護方法論Ⅳ (地域看護診断)	公衆衛生看護活動を行うために必要となる、地域診断の意義と目的を理解する。地域住民の健康上の課題とその背景を明らかにし、その解決方法を見出すプロセスと技術を理解する。特に地域の人々の生活や健康状態を統計資料やその他の関連資料から把握し、地域の健康課題を抽出する方法を学ぶ。さらに健康課題の解決・達成のために行われる各種の保健事業について理解を深め、公衆衛生看護実習の実践につなげる。	共同
		公衆衛生看護方法論Ⅴ (健康診査・家庭訪問・健康教育)	公衆衛生看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、特定集団、地域集団を対象に、公衆衛生看護活動で用いる基本的な技術(保健指導、家庭訪問、乳幼児健診、健康相談・健康診査・健康教育)を修得し、実践へつなげていく。	共同
		公衆衛生看護管理論	地域で生活している人々の健康と生活をより良い状態に維持・向上するために、地域の人々や他職種と協働して公衆衛生看護活動を効果的かつ円滑に遂行するの基本的な管理機能を習得する。また地域のニーズや特性に合わせ、地域ケアをマネジメントしていく活動であることを修得する。この公衆衛生看護活動において、個別支援から集団の支援へ広げ、施策化することを理解し、自治体の保健計画の策定、施策・予算化のしくみを学び、さらに公衆衛生看護活動における災害発生時の危機管理についても修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容
専門 科目	看護 ケア 能力を 広げる ステー ジ	疫学・保健統計学演習	「疫学・保健統計学」において獲得した知識と技術を前提に、本演習により、保健師に求められる疫学・保健統計に関する知識と技術をさらに満たすことを目的としている。保健看護活動の対象集団における健康問題を量的に収集し分析できる能力を獲得するために、統計学の基礎について理解し、演習を通して統計処理の基礎的手法を身につける。また、インターネットを駆使した検索システムや地域や病院における情報システムの理解を深める。また、地域看護診断に活用できる情報リテラシーの技術を身につける。
		公衆衛生看護実習	行政では市町村や都道府県および国などの公的な責任に基づいて実施されている公衆衛生看護活動への参加を通して、地域の人々の健康と生活への理解を深め、保健所や保健センターの機能と役割を学び、他職種との協働について学ぶ。 事業所では労働者の生活、健康状態、健康に関する考え方や行動を把握し、健康課題を理解する。また、産業保健師の活動展開方法の学び、労働衛生、労働の3管理等の実際について理解する。 学校では児童生徒の健康問題の特徴や心身の健康を支援する養護教諭の役割や機能・業務の実際を学ぶ。また、臨地実習をとおして倫理規範を守る態度、専門職として望ましい態度等を学ぶ。
看護 の未 来を 共創 する ステー ジ	看護 の熟 練の 技	安全・安楽なポジショニングの技	安楽に体位を整えることの原理と原則と、利用者にとっても医療者にとっても安全・安楽なアドバンスなポジショニングの技を伝授する。具体的には、キネステティック法（人の自然な動きと回旋を利用した人にやさしい体位変換法の技）や、スモールチェンジ法（摩擦とずれを最少する新発想の体位変換法の技）、体位変換枕の使い方（体位変換枕を効果的に活用し、利用者に安楽を提供する技）を学習する。
		排便ケア	人の生活の営みや気持ち・考えを深く理解し、生活の質を高める看護援助方法を追究していくことを目指す。排便ケアについて、「排便とは」「対象の尊厳の保持と生活の質を高める排便ケアとは」について考えながら、排便の看護援助方法（排便日誌を用いたアセスメント、排便リズム再獲得のための食・活動・排便機能再獲得の生活援助、薬剤の調整や処置、リストマネジメント等）について多面的に教授する。さらに、演習で実技を行いながら、看護援助方法について工夫を考える。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護の未来を共創するステージ	看護の熟練の技	
	看護リーダー	科目担当者の臨床現場における長い管理者（看護副部長）経験を活かし、看護管理者の役割やあるべき姿に関して、学生と共に討議し、看護マネジメントに必要な具体的な対応力（他部署との交渉力・調整力、組織の中において果たす役割実践力、望ましいリーダーシップ力）を獲得する。これにより、組織の中で働く意味やスタッフとして求められる役割も考察できる力を養う。 1. アサーティブな交渉力：ロールプレイ 2. ヒエラルキーにおける役割を学ぶ：グループ演習 3. リーダーシップタイプ分析：演習	
	食と看護	健康の維持増進、疾病の治療のための食・栄養の知識と実践、栄養教育は不可欠であり看護においても必要な知識である。ライフステージ各期の健康教育、臨床の健康教育や栄養指導の場面で行われる食と栄養の知識と基本的技能を、栄養指導演習で理解する。また地域や施設等で行われている食や栄養改善の取組、地域の特性を大切にしたい実践を理解する。	
	タッチケア・スキル	直接相手に触れるケア技術の修得を目指し、タクティールケアやフットマッサージ・ハンドマッサージについて学ぶ。 1. タクティールケア：スウェーデンにおいて開発された手法で、手掌で相手の背部や手足部を柔らかく包み込むように、皮膚を撫でるようにゆっくり一定の法則で触れるケア。ケアを受ける人だけでなく、施術する人にもリラクセーション効果が確認されている「癒し・癒されるケア」を体験する。 2. フットマッサージ・ハンドマッサージ：リフレクソロジーとアロマセラピーを取り入れたマッサージ。マッサージ効果を高めるアロマオイル（精油）についても学習する。	
	ノンテクニカル・スキル	状況認識、意思決定、コミュニケーションなどの臨床実践に欠かせないノンテクニカル・スキルを模擬患者に対するロールプレイを通して学習する。さらに、臨床看護師とのグループディスカッションを通して実践に活用できる意思決定のプロセスを学習する。 1. リスクマネジメント場面演習 2. インフォームド・コンセント場面演習	
	MMPI心理検査と看護ケア	MMPI（Minnesota Multiphasic Personality Inventory：ミネソタ多面人格目録）は、世界中で最も利用されている性格テストの一つであり、精神科医療だけでなく、広い分野に応用されている心理検査である。しかし、このテストは項目数が多く、分析が非常に複雑であり、日本ではこれを実施・分析できる心理士は少ない。また、MMPIを理解し、これを受ける患者への事前・事後のケアができる看護師は極めて稀である。そのため、日本版MMPIの作成と研究に長年携わってきた教員が看護学生に必要な知識等を直接伝授し、患者にケア提供ができる看護師をめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護の未来を共創するステージ	看護未来創出	
	グローバル感染対策	グローバル化する感染症の脅威に立ち向かうために、現在問題となっている新興・再興感染症について学ぶ。感染対策は社会にとって重要な課題の一つであり、医療施設においては最も取り組まなければならない課題である。そこで、病院内での感染症のアウトブレイクを紹介し、その疫学的調査をふまえ、学生自身で対策を考える機会とする。また、国内のみならずアジア、世界に広がった薬剤耐性菌の蔓延、さらには数年前の重傷急性呼吸器症候群(SARS)、そして新型インフルエンザといった新興・再興感染症を知り、これからの社会における対策の重要性を認識する。	
	看護技術の科学的検証	日常生活援助技術をはじめとする看護技術を科学的に分析し、その効果の検証によって、より利用者に貢献できる看護技術を考察する。臨床工学科との連携により、工学機器を用いた看護技術の客観的評価の視点と手法を学ぶ。具体的には、少数グループに分かれて臨床で行われている看護技術を選択し、その安全性や効果をサーモグラフィや超音波診断装置、生体モニタリング機器などを用いて科学的に評価し、今後の看護技術発展の可能性を含めて発表する。	共同
	地域の健康課題と多職種連携	小松市および石川県の地域において活動を行い、対象地域の健康課題を明らかにし地域の特性を生かした健康活動と必要な専門職連携を見出していく。医療関連施設の設置状況やそこに至るまでの移動上の課題、フィールドワークによる地域ごとの健康課題の調査等を通して、地域で求められる新たな看護職の役割を見出し、求められる専門職連携について考察する。	
	統合医療	がん患者にとって補完代替医療は、医学的治療によって完治が見込めない場合、効果が不確実な治療法であっても様々な理由から希望や期待を抱きつつ、特定の補完代替医療を受けることが多いと言われている。一方で自分に合った補完代替医療と出会い、より快適な生活を維持しているがん患者も存在する。そこで西洋医学中心の医療において、補完代替医療の考え方や利用方法を学び、西洋医学と補完代替医療を統合した新しい医療(統合医療)と、そこで必要となる看護を創出していく能力を養うことを目的とする。	
	地域包括ケア	実習で看護を経験した事例について、小松市を中心とした地域包括ケアの充実を考えることができることを目指す。病院、施設、在宅等に出向いて行った実習で受け持った事例を集め、現状と課題を分析する。可能な限り住み慣れた地域で、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供され、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)のあり方として、病院、入居・入所施設、在宅サービス提供機関等様々な機関における看護職の役割について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護 の 未 来 を 共 創 す る ス テ ー ジ	チーム医療論	他の医療職の役割を把握するとともに、相互協力のもとで多様化する医療ニーズへの対応方法を多角的視野から検討する。急性期医療における生命維持装置の動作・管理などに関する看護師との連携、地域包括ケアシステムにおける在宅透析装置の動作・管理などに関する看護師やリハビリテーション専門職との連携などについて、具体的事例を検討しながら理解を深める。	共同
		看護と異文化理解	グローバル化は都市部だけでなく、地方においても進んでおり、地域を問わず外国人患者にも臆することなく対応できる能力が求められる。本授業では、小松市周辺に多く在住しているブラジル、中国、韓国に加え、アメリカの人々の生活習慣や痛みの訴え方、医療現場での外国人患者の対応の方法について文献等を用いて調査し、結果について発表を行う。	
		研究方法論	看護研究の基礎を学ぶ。研究とは、研究課題、研究背景の検討（文献検索）と研究目的の抽出、研究デザイン、研究方法論（量的研究、質的研究、その他）、データ収集方法、量的質的データ分析、倫理的配慮、図表、研究論文作成、考察、等の必要な一連のプロセスと知識を学ぶ。	
		卒業研究	看護に関する研究を行い、卒業論文を作成し、発表できるようになることが目標である。具体的には、教員のもとで研究テーマを決め、計画を立て、指導を受けながら、研究を進める。ゼミや研究会などで定期的に進捗状況を報告および議論を行い、最終的に研究結果や研究成果を卒業論文にまとめ、卒業研究発表会や各種学会等で研究発表や討論を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	導入 科目		
	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	保健医療学部での勉学と卒業後の進路を結びつけながら考える授業とし、将来、人々の健康と福祉に貢献することの責任と誇りを自覚し、学習意欲と知的好奇心を喚起する。医療従事者としての広い視野を身につけるため、看護学科及び臨床工学科の教員が、それぞれ専門とする分野を授業のテーマとして、学部学科における教育内容を概観しながらキャリアデザインについて講義を行う。また、医療現場で求められる協調性や社会人として求められる自己管理能力についても考える機会とする。	
	アカデミック・スキルズ	「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。	
	テーマ別基礎ゼミ	1年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を受け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。1クラス当たりの平均受講者数は15名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。	
	情報処理基礎	コンピュータの利用分野に適したシステム構成を理解するとともに、ソフトウェアやネットワークの活用法を習得する。授業においては、コンピュータの5大装置の役割と関連知識を学び、パーソナルコンピュータのカスタマイズができる程度の知識と技術を養う。また、アプリケーションソフトウェアの活用法とデータ形式、ネットワークの適切な活用とデータ圧縮・解凍技術、暗号化を含めた情報セキュリティなどについても習得し、理解したことを発表する場を設けて、理解度の向上を図る。	
	南加賀の歴史と文化	南加賀地域の歴史や文化を学びの主対象として、その分野に関する基礎知識・専門能力を十分に得られたという自負や、それらを学ぶことの意義を自覚し、他者に向かって説明できる自信を身につけることを目標とする。具体的には『平家物語』等を題材として、源平合戦当時の仏御前、実盛、義経・弁慶等の物語の概要や地域の伝承、小松に引退した加賀藩3代藩主前田利常が基礎を築いた伝統文化の諸相について講義する。	
一般 科目 （人 間 力）			
	哲学	哲学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標とする。本講義では、哲学者たちが考えた問題を、自分の頭で考えることによって、哲学的に考えることについて理解する。また、現代の具体的な事例を取り上げながら、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養うことができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （人間 力）	心理学	本講義では、心とは何か、心理学では心をどのように扱い研究しているのかを理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。本講義は講義と簡易な心理学実験、ディスカッションによって構成される。心理学の諸理論を解説した上で、実社会や日常生活への応用について考察を深める。本講義では、感覚と知覚、学習と記憶、推論と意思決定、感情と動機づけ、社会的認知、発達、カウンセリングの代表的技法、発達障がいについて扱い、多様な心理過程の総合的理解を目指す。
		人間の発達と心	本講義では、受胎から死に至るまでの生涯発達のプロセスにおける人間の心の特徴と変化について理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。授業は講義、グループワーク、ディスカッションによって構成される。グループワークでは自己と他者の発達について省察する機会を提供する。発達を規定する要因、発達段階毎の特徴、認知機能と身体機能の発達について具体例を交えて解説する。また、発達における不適応状態について検討し、可能な支援についての考察を深める。
		日本の伝統芸能	日本の伝統芸能を代表する能楽・歌舞伎について、南加賀を舞台とする義経・弁慶北国落ちの物語を題材とする能「安宅」、舞「富樫」「笈さがし」、歌舞伎「勸進帳」を読みながら、それぞれの作品を比較し、作品ごとのまた劇ジャンルとしての特徴を理解できることを目標とする。さらに小松における子供歌舞伎の伝統や加賀藩主たちの「安宅」好み、明治の演劇改良や金沢における鳴和の滝・一本松などの地域伝承へと視野を広げてゆく。
		人文地理学	本講義は、様々な事例を通じて、人文地理学がどのような学問であるのか、様々な人間活動を「地域」という側面から捉えることの意義を理解することを目的とする。人文地理学の基本的な考え方、概念を踏まえ、人文地理学を構成する様々な分野について、具体的な事例を踏まえながら地域の人文現象を捉える際の人文地理学の視点や研究の特徴を理解する。
		文化人類学	文化を言語・技術・社会・価値の4つの側面から考えながら、世界の多様な文化を相対化し、自らの価値観が絶対的なものではないということを認識させ、異文化にアプローチしていく様々な視点を提示する。授業においては、文化人類学の基本的な考え方、研究方法を理解させ、その上で、言語と文化との関係、狩猟採集、牧畜、農耕という生業の技術と文化のあり方、家族や親族から広がる社会と文化の関係、宗教やその信仰と文化の関わりについて扱い、自文化を相対化しながら、身の回りの社会を捉え直してゆく。

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 (人間 力)	医療と文化	本講義では、遺伝子診断、生殖医療、糖尿病、多元的医療など、健康と病気をめぐり現代医療が抱える課題を、科学や医学的観点ではなく、文化という観点から人類学的に理解するための基礎を学ぶ。それによって、現代医療を支える制度や科学的知識を相対化し、患者にとっての病気の意味や経験にも目を向けることができる視点を持つことを目的とする。医療従事者を目指すものだけでなく、様々な物の見方や価値観の多様性を理解することへの学問的関心がある者の受講が推奨される。	
		文章表現法	日本語の文章を読み書きする能力は生きる力の基本であり、学生生活においても職業人となっても必要な能力である。その能力を鍛えて、学生が文章を理解し表現することの喜びや達成感、あるいは苦悩の原因を言葉でとらえて開放感が得られるような授業をめざす。毎回様々な文章を例示して、その要約作業を行わせ、それを他の学生の要約作業の結果と比較することで、文章を理解しその理解を文章で表現することが生きる力の基本となることを実践的に自覚させる。	
		言葉と文化	(概要) 我々が普段なにげなく使用している言葉の実態とその文化的背景について、日本語、中国語の身近な例を挙げながら講義する。 (オムニバス方式／全15回) (41 VANCE, Timothy John／8回) 前半 (バンス担当) では、日本語の連濁 (濁るか濁らないか) 、nga/ga(“が” の発音) など身近な音声の例を取り上げ、どのような規則があるか、また性差、年齢差、方言差など使用実態の違いについて紹介する。 (39 岩田 礼／7回) 後半(岩田担当)では、外来語の受容形態の違いにみられるような日本と中国の文化的差異から説き起こし、実は両者の間に共通性もあることを日本と中国の方言を例に挙げて紹介する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （社会力）	（概要）科学技術に焦点を絞り、日本の技術産業が、世界の歴史との関わりの中でどのように発展してきたかについて概観する。授業においては、世界における歴史的動きと科学技術の発達の中に、日本の科学技術の発展を位置づけ、互いがどのように影響し合いながら、今日の技術情報社会が出現したかについて述べる。映像教材などを多用し、小松という一地方都市が果たした役割についても再認識させる。 （オムニバス方式／全15回） （15 山田 良穂／4回） 日本産業の発達を概観した後、工業材料の発達に注目し、金属材料、樹脂材料の工業材料としての役割について講義する。 （14 山田 外史／3回） 日本産業の中での電気工学、電子工学の分野における様々なイノベーションについて講義する。 （20 岩田 佳雄／4回） 日本産業の発達の中での、機械工学の果たした役割について講義する。 （22 富澤 淳／4回） 日本産業の発達の中で果たした、鉄鋼産業の歴史と役割について講義する。	オムニバス方式
	自然資源と環境問題	原始的な自然とは異なる農林業を通じて形成される自然生態系等、自然資源の特徴を農山村の地域区分ごとに概説し、中山間地域における農林業の衰退が耕作放棄や作業放棄を拡大することにより、限界集落の広がり、野生鳥獣害、生態系の悪化等の環境問題を引き起こしていること、中山間地域の自然資源が観光資源や交流資源として注目されていること等について講義する。	
	経済学	（概要）経済学の手法・思考方法を学ぶことで、現代社会における経済の仕組みを理解し、現実の諸問題を考える際に必要な基礎知識を習得することを目的とする。前半と後半で、それぞれミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を取り上げて講義する。 （オムニバス方式／全15回） （42 盛田 清秀／8回） 経済主体の行動、完全競争及び不完全競争市場、経済厚生などについて講義する。 （48 一ノ渡 忠之／7回） マクロ経済の基礎知識、物価と失業、金融市場と財政の仕組みなどについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （社会力）	（概要）政治学の基礎知識や概念、方法論について学ぶとともに、時事問題を題材に、現実政治の生活に及ぼす影響について理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （51 木場 紗綾／8回） 政治学の考え方や方法論、政治を分析するための理論的枠組みを講義する。政治の基本的な構造を理解すると共に、政治体制の変動や政権交代、社会運動、住民運動がなぜ起こるのかを議論し、報道や資料にあらわれない背景を理解する概念を身につけてもらう。 （52 千葉 悠志／7回） 権威主義を含むさまざまな政治体制の基礎を講義したうえで、市民社会、メディア、国際政治など、政治社会と関連する諸アクターと政治とのダイナミズムを分析する。報道記事、書籍、各種刊行物などの材料を収集して自分の問題意識を明らかにし、考えをまとめる作業を通して、論点を整理する能力を身につける。	オムニバス方式
	政治学		
	社会学	現代日本社会における、社会と個人の関係とその有り様を現代社会の動向と社会構造に位置付けて理解し、社会分析の基礎知識を養うことを目的とする。具体的には、産業化、情報化、グローバル化といった社会の変化の様相、地域社会や組織や集団やネットワークの現代的様相について概観する。その際、社会の深層の変化の動向として個人化とその一形態である私事化と全体化のダイナミズムに着目しつつ、これらの状況下における人々の社会意識、社会関係、人々の行為の有り様を考察する。	
	公共政策論	現在、政治、経済、社会における様々な問題を解決する上で、公共政策の重要性が高まっている。本講義では、公共政策とは何か、なぜそれが我々にとって重要なのかを理解した上で、現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現する上で、存在する困難や問題を考察するために必要な視点について受講者が獲得することを目指す。	
	社会福祉論	社会福祉の理論や歴史、現状と課題について学び、現代社会における福祉制度の意義やその理念について理解する。授業では、人権や社会福祉の概念と範囲について触れ、世界とわが国における福祉制度やその理念の変遷について学習する。また、貧困などの現代社会における諸課題についても触れ、これからの社会保障制度に求められる点についても考えを深める。さらに、各国の福祉政策についても取り上げ、国際比較を行う。	
	日本国憲法	この講義では、日本国憲法が私たちに対して何を保障し、かつ要求しているのか、社会生活全般にいかに関わっているのかを知ること、憲法の重要性を自覚することを目的とする。授業においては、憲法の大まかなイメージをつかんだのち、憲法の制定過程と基本原理、平和主義、精神的自由権、経済的自由権と社会権などについて、わかりやすく解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （科学力）	実社会とデータ科学との関わりを学び、統計手法によるデータマイニングの基礎を事例を元に修得することを目標とする。授業においては、基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった基礎を理解し、事例により更なる理解を追求する。 （オムニバス方式／全15回） （17 木村 春彦／9回） 基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった統計手法によるデータマイニング手法を解説する。 （21 新田 雅道／3回） EXCELを用いて基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析などの応用事例を講義する。 （23 上田 芳弘／3回） EXCELを用いて数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法などの応用事例を講義する。 （※平成32年度までは、21 新田雅道が担当する）	オムニバス方式
	データ科学と社会		
	情報処理応用A	モバイル端末の基本的な仕組みを理解するとともに、個人情報を守るための知識と技術を学ぶ。具体的には、個人情報保護の観点、およびリアルタイムトラッキングの観点から、IoTに必要なセンサ、クライアントサーバーシステム、アプリケーションシステムの概要について学ぶ。	
	情報処理応用B	情報技術は社会の様々な場面で活用されている。本講義では、主として医療分野における情報技術の意義とその活用の実態、将来展望を概観し、この分野で活躍することになる学生の情報技術に対する理解を深める。具体的には、医療データの特性、情報技術の基礎と医療への応用、医療データの収集・処理・活用の在り方、医療データの集中管理と分散管理の在り方、医療情報システムの具体例、プライバシー保護・個人情報保護のためのルールや倫理観、セキュリティ技術などについて学ぶ。	
	クリティカルシンキング	本講義では、様々な思考の技術、とくに推論に関する批判的思考法を理解し、それを自覚的に使いこなせるスキルを身につけることを目的とする。「思考の技術」の核心には形式論理学があるが、それをそのままの形で日常的に使うことはあまりなく、クリティカル・シンキング、クリティカル・リーズニングのようなまとめ方をした方が効率的である。したがって、論理学の応用という意味においても、具体的な事例や文章作成を通して、論理的技術の力の習得を目指す。	
	統計学	調査や実験、観察により収集したデータから法則性を導き出すための手法としての統計学について、その基礎的な理論と方法を確率論との関連に重点を置いて習得することを目指す。本講義では、データの標準的な分布、分布の特徴表現、サンプルデータから元のデータ集団の分布解析、ある推定の確率的価値を検定する方法、複数の原因から生じる結果について、各原因の可能性を確率的に推定する方法などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （科学力）		
	教養としての物理	日常生活やそれを支えている科学技術に欠かせない基本的な物理の現象に関して、その原理や考え方、応用方法を習得することが目的である。授業においては、物体に働く力とつりあい、物体の運動とエネルギー、熱力学の法則とエネルギー、波の性質と音や光の伝わり方、電気と磁気、電圧と電流、原子と原子核などについて学ぶ。	
	教養としての数学	数学の歴史を、その考え方や考察の対象、表現の方法などの変遷を振り返りながら、数学の楽しさや基本的手法を学ぶ。日常生活やそれを支えている科学技術に欠かせない原理を記述するために数学が必要不可欠のものであることを理解する。授業においては、科学技術の進歩に果たした数学の役割を概観する。また、本学における専門教育の基礎となる数学について、指数関数と対数関数、三角関数、行列とベクトル、複素数、微分・積分などを体系的に学ぶ。	
	現代科学技術論	（概要）現代科学技術の源泉に遡りながら、機械、電気、情報などの要素技術の歴史的発展を概観する。授業においては、古代のエジプト、ギリシャ、中国で開花した科学技術についての考え方とそれらの特色について総括し、欧州に勃興したルネサンスを経て、科学技術が飛躍的に発展する様を述べる。18世紀に始まる英国の産業革命とフランス革命の嵐の中で近代数学と物理学が次第に形成されることを学ぶ。さらに第二次大戦後の情報科学の発展にも触れる。 （オムニバス方式／全15回） （13 木村 繁男／3回） 科学技術の発達の中で熱力学の果たした役割について述べ、特に熱力学の第二法則の現代的意味について講義する。 （16 安達 正明／3回） 科学技術の発達の中で物理学が果たした役割について述べ、現代における物理学と技術の関係について講義する。 （18 川端 信義／3回） 技術史の中で流体力学の果たした役割と、現代における流体力学、流体工学の先端領域について講義する。 （19 田村 博志／3回） 技術の発達の中で数学の果たした役割と、現代における数学と技術との関係について講義する。 （23 上田 芳弘／3回） 戦後急速な勢いで発達した情報技術の歴史について述べ、今後到来する高度情報化社会について講義する。 （※平成32年度までは、17 木村春彦が担当する）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （健康 と体力）	（概要）健康的な生活を送るために必要となる知識を身に着け、それらを日々の生活の中で実践していくことを目指す。たばこ、飲酒、睡眠などの生活習慣に関するものや、心の健康について取り上げる。 （オムニバス形式／15回） （28 中島 素子／8回） 健康維持や労働の再生産の視点から適切な睡眠・休養の確保の重要性について学ぶとともに、飲酒や喫煙による健康への影響についても学習する。また、禁煙を進めるための運動についても取り上げる。 （59 榊原 千秋／7回） 地域に暮らす人びとを対象にした心身共に健康な生活を送るための活動を踏まえ、ストレスマネジメントやセルフケア、病や障がいについて学び、生涯を通じて豊かに生きるための考え方を学ぶ。	オムニバス形式
	スポーツ演習 （バレーボール）	バレーボールに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バレーボールを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各技術を身につけることを目指す。また、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。	
	スポーツ演習 （硬式テニス）	硬式テニスに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、硬式テニスを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、硬式テニスの基本技術を習得し、ルールを遵守しながら審判およびプレーヤーとしてゲームが行えるようにする。また、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につける。さらに、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。	
	スポーツ演習 （フットサル）	フットサルに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、フットサルを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、受講者がフットサルの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得し、国際ルールに則ったフットサルを行えるようになることを目的とする。ボールの蹴り方や止め方、ボールコントロール、関係プレーなどの技術を身につけ、身につけた技術の実践機会として、試合を行いフットサルを楽しく行えるようになることを目指す。	
	スポーツ演習 （卓球）	卓球に関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、卓球を通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。競技スポーツとしての卓球は、動体視力と反射能力、高い瞬発力や持久力を必要とし、技術面、精神面ともに総合的な実力が要求される。本授業では、基礎動作の反復練習とミニゲームを通じて、卓球の特性と魅力に触れ、基礎的技術や戦略を用いて卓球を楽しむことができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （健康 と体力）	スポーツ演習 （バドミントン）	バドミントンに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バドミントンを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、ラケットの握り方や各種ストロークなどの基本を身につけるとともに、戦術についてもゲームを通して実践的に学ぶ。また、ダブルスではパートナーとの連携での自己の役割を理解し、ゲームで生かせる能力を育成する。スポーツに関する理論や安全管理を学び、安全に留意しながらバドミントンを楽しむ。
	英語 科目	英語Ⅰa	英語で書かれた情報を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やしながら、基本的なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、科学、社会・文化、時事など様々なジャンルの英文を読み、メインアイデアとそれを支える具体的事例を理解できるよう、パラグラフの構成と目的を意識した読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。
		英語Ⅰb	英語で話された情報を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やしながら、基本的なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、会話、アナウンス、ニュースなど様々な形式の素材を聴き、イントネーションや音の変化といった発音上の知識についても学びながら、全体の大意を把握する聴き方や細部の情報まで捉える聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでの会話を中心にリスニングの内容に関する演習を行い、語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。
		英語Ⅱa	英語Ⅰaで培ったリーディングスキルを発展させ、目的に合う速さで英語を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、難易度の高い一般語彙を増やしながら、より高度なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、記事、Eメール、論説文など様々な形式の英文を読み、論理展開を意識しつつ、必要な情報を素早く読み取るスキミングなど多様な読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で場面に応じた適切な英語表現を使えるように練習する。
		英語Ⅱb	英語Ⅰbで培ったリスニングスキルを発展させ、やや長めの英語を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、場面特有の表現方法を学びながら、より高度なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、インタビューや講演など様々な形式の素材を聴き、発話された明示的な情報だけでなく、非明示的に伝達される内容も理解できるよう、話し手の意図を意識した聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでリスニングの内容について会話やディスカッションを行い、適切な英語表現を用いて自分の考えなどを述べる練習をする。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	英語科目		
	英語Ⅲ	英語Ⅰ・Ⅱで培われた英語四技能（リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング）をさらに発展させ、国際試験（主にTOEIC）受験を射程に入れて、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。授業では、社会性の高い文章を読むことができる語彙の習得や、長文を読み要点を把握することに重点を置く。また、長文の要約や自分の意見を英語で書くことができるよう練習し、英語で自分の考えを論理的に伝える能力を養成する。	
	英会話Ⅰ	本講義では、リスニングおよびスピーキングを中心とした英語力を身につけ、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。英会話Ⅰでは、日常会話などの基本的なレベルの会話力を習得させる。二人一組やグループでの会話などを通じ、英語に慣れるようにする。最終的には、英語で会話するときに、自分の地域や文化などについて、説明や意見を述べるができるようになることを目指す。	
	英会話Ⅱ	本講義では、英会話Ⅰでの学習内容をさらに発展させ、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるようにする。リスニングでは、映画・ビデオ・ニュース番組などの教材を用いて普通のスピードの英語に慣れるようにする。最終的には、英語によるスピーチやディスカッションができるようになることを目指す。	
	実用英語Ⅰ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英文法・英文読解の学習の基礎を理解し、簡単な英文を最低限聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で600点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅱ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。簡単な英文を読んで理解することができ、ゆっくりと読まれた英文を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で660点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅲ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。ある程度の長さの英文を読んで理解することができ、通常の速さの英会話を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で720点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅳ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英字新聞や洋書を読解でき、ネイティブスピーカーの英会話を聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で800点を超える程度とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	中国語Ⅰ	授業を通じて、学生が中国語の声母、韻母、声調の基本を把握し、正確にピンインローマ字を書き、漢字を読み、簡単な中国語対話と少量の教室用語が聞き取れるようにする。また中国語学習と関連する言語文化的要素を理解させる。授業は学生を中心とし、教員が主導することで学生の中国語コミュニケーション能力を涵養することを目的とする。言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、学生の中国語学習に対する興味と意欲をかきたてることで、その後も中国語学習を継続するための基礎を作る。	
	中国語Ⅱ	授業を通じて、学生が中国語を正確に発音し、会話相手の意図を正確に聞き取り、簡単な日常会話を行い、平易な短文を閲読する能力を身に着けるようにする。また簡単で実用的な文やフレーズが書けるようにする。授業では学生を中心とし、教員が主導するという原則を維持し、言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、中国語学習と関連する文化的要素を教授する。教員の話は簡潔にし、練習を多くすることで、学生の中国語コミュニケーションレベルを高めるよう努める。	
	フランス語Ⅰ	フランス語によるコミュニケーションのために必要な、聴く、読む、話す、書くの4分野にわたる能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、フランス語の発音、初等文法、基本的な会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、簡単な日常会話や平易な読み書きができるようになることを目指す。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに引き続き、コミュニケーションに必要なフランス語運用能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、より発展したフランス語の発音、文法、会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、日常会話や読み書きができるようになることを目指す。	
	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパの主要言語の一つであるドイツ語の基礎を学ぶ。本講義では、ドイツ語を発音でき、文法の基礎を理解し、初歩的な表現力を身につけることを目標とする。アルファベットからはじめ、発音、挨拶表現や簡単な会話を反復練習する。ドイツ語によるコミュニケーション能力の獲得、ドイツ語圏の社会、文化に関する知識を得ることも講義の目標とする。	
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の初歩を学ぶ。ドイツ語Ⅱでは、ドイツ語Ⅰの復習からはじめ、さらに初等文法の修得を中心に、会話も含めた講義とする。実際のドイツ語によるコミュニケーション能力を獲得、ドイツ語圏の社会、文化などに触れ、理解を深めることも講義の目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	その他外国語科目		
	ロシア語Ⅰ	ロシア語を学んだことのない学生を対象とする。今まで英語で使用してきたラテン文字とは違うロシア文字（キリル文字）の発音や書き方から始め、ロシア文字で書かれた単語を読めるようになったらロシア語独自のイントネーションや簡単な挨拶の表現などを学んでいく。さらに、ロシア語を読み、書き、話し、聞くうえで必要な文法事項を学んでいく。	
	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰに引き続き、ごく簡単な文章を読みながら、初等文法を学習していく。この講義で取りあげる範囲は、名詞単数および代名詞の格変化、動詞の時制、運動の動詞、形容詞の短語尾形、無人称文までである。この学期の到達目標としては、少し複雑な文章を辞書を用いて独力で読めるようにすること、簡単な自己紹介ができるようにすることである。	
	スペイン語Ⅰ	テキストの構成に沿って、文字と発音を結びつけることを徹底しておこない、アクセントの位置を習得し、音読できるようにしてから、会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、主格人称代名詞、名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、形容詞、規則動詞AR型、同ER型、同IR型、ser動詞、estar動詞などの不規則動詞、所有形容詞、否定文と疑問文などについて学習する。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。	
	スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰの既習事項を復習しながら、引き続き会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、語幹母音変化動詞、指示詞、間接目的格人称代名詞、gustar構文、感嘆文、1人称単数のみが不規則な動詞、不定詞、直接目的格人称代名詞、命令文、天候、日付、時刻の表現、再帰動詞などについて学習する。ここまでの現在時制での基本的な文法事項をマスターする。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	医学的 基礎	臨床工学技士の歴史、医用工学と関わる生体の諸機能、人工臓器・生体材料の現状と問題点、生命維持装置の機能と構造の概略、医療機器に関わる倫理問題、各種診断治療機器の動作原理などの項目について、臨床工学全体について体系的に学習する。 臨床工学技士の歴史、医用工学と関わる生体の諸機能、人工臓器・生体材料の現状と問題点、生命維持装置の機能と構造の概略、医療機器に関わる倫理問題、各種診断治療機器の動作原理などの項目について、臨床工学全体について体系的に学習する。 （オムニバス方式／全15回） ① 真田 茂／3回 画像診断装置・診断の基礎、医用超音波機器の基礎、新しい医療技術。 ③ 深澤 伸慈／3回 臨床工学技士法制定と業務内容、呼吸に関する医療機器、臨床工学技士の関係する院内設備。 ⑦ 坂元 英雄／3回 代謝で使用する医療機器、医療安全の知識、よく使用されるME機器。 ⑥ 野川 雅道／6回 電気や安全に対する基礎知識、循環で使用する医療機器。電子の基礎知識、医療で使われている材料、身体測定機器の基礎知識。	オムニバス方式
	解剖学	人体の構造を理解する解剖学は、医学・医療を志す者にとって最も基本的な学問である。まず細胞の構造と、細胞が集まって形成する4種類の組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）の構造について学ぶ。次に、組織が組み合わさって形成する各器官の肉眼及び顕微鏡レベルの構造について、10種類の器官系（骨格系、筋系、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖系、内分泌系、神経系、感覚器系）の順に沿って系統的に学ぶ。	
専門 基礎 科目	医学的 基礎	1年次に学んだ人体の構造と機能についての知識を確認し、さらに理解を深めるための実習である。肉眼解剖実習として、人体模型の観察とともに、ラットの解剖を行って全身の器官を観察する。組織学実習として、主な器官の組織像について顕微鏡や写真による観察とスケッチを行う。生理学実習として、筋と神経、心血管、血液、呼吸、消化、感覚などの主な機能について、機器や試薬を用いて基礎的な実習を行い、結果をレポートにまとめる。	
	生理学	人体の機能を理解する学問が生理学である。まず細胞について、細胞膜、小器官や核の機能を学ぶ。4種類の組織のうち、筋組織については、各種の筋細胞の収縮機構を、また神経組織については、神経細胞の静止膜電位と活動電位、興奮の伝導と化学伝達のしくみを学ぶ。続いて、解剖学における器官系の順に沿って、骨格系、筋系、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖系、内分泌系、神経系、感覚器系の器官の機能について学ぶ。特に心血管機能、呼吸機能、腎機能に重点を置く。	

授業科目の概要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	医学的基礎	生化学	ヒトをはじめとする生物は、脂質、糖質、又はタンパク質等の生体成分から構成されている。一方で生物は、これらの生体成分を分解し、多様な生命現象に必要なとされるエネルギーを獲得している。生化学では、各種の生体成分の構造、機能、及び代謝の調節を担う化学反応を中心に、臨床化学の理解に必要な知識を習得する。また、生命現象を化学的な視点から理解するために、これらの化学反応のエネルギー代謝又は遺伝子発現といった生命現象の制御における役割を学ぶ。	
		看護学概論	(概要) 看護学の発展の歴史の変遷(法制度含む)、基本概念である「人間」「健康」「生活」「看護の専門性」について学ぶ。また、看護の在り方(看護理論含む)の学習を通して、看護の目的(目的論)、対象の捉え方(対象論)、看護実践(方法論)について学ぶ。それらの学修を通して、看護の本質を捉え、看護実践に必要な基礎的知識と思考過程を理解し、看護事例を通して学修した方法論を理解する。 (オムニバス方式・共同(一部) / 全15回) ⑨ 松井 優子 / 6回) 看護の基本概念、看護の在り方、目的論と対象論 ⑧ 内田 美保 / 4回) 看護の歴史、方法論 ⑧ 内田 美保・⑨ 松井 優子 / 5回) (共同) 学生を数グループに分け、各グループに各看護理論家の理論について発表させる。また、対象の捉え方の理解を深めるために、看護事例を通して、学生に考察させ、グループ発表させる。	オムニバス方式・共同(一部)
		医療関係法規	法の意義・体系、臨床工学技士法では臨床工学技士施行令・臨床工学技士施行規則・臨床工学技士基本業務方針、医療法では医療法施行令・医療法施行規則、薬事法および薬事関連法では毒物及び劇物取締法・大麻及び向精神薬物取締法・大麻取締法・血液製剤に対する法律、医療関連職種では保健師助産師看護師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・視能訓練士・言語聴覚士・救急救命士・あん摩・はり・きゅうに関連する法律、感染予防・患者に関する法律、臓器移植に関する法律、医療関連判例などを学習する。	
専門基礎科目	医学的基礎	病理学	病気のしくみ(原因と形成機序、全身及び器官・組織・細胞の病態における形態と機能の変化)を理解する学問が病理学であり、医学における基礎と臨床を橋渡しするものである。本授業では病理学総論の内容を中心に学ぶ。細胞レベルの傷害、再生と死、個体レベルの先天異常、代謝栄養障害、循環障害、炎症と免疫、感染症と環境因子、腫瘍及び老化に基づく病態について学び、各器官系における主要な疾患について概説する。個体の死について、病理解剖についての解説も行う。	
		薬理学	総論で薬理学の定義をはじめ、薬理学によって解明された情報伝達機構、神経に作用する薬物、循環・呼吸・代謝・消化器に作用する薬、水・電解質と利尿薬、血液や造血に作用する薬物、ホルモン剤・内分泌疾患治療薬、代謝・栄養疾患治療薬、泌尿・生殖器作用薬、感覚器・皮膚の治療薬、病原微生物に対する薬剤、抗悪性腫瘍薬、抗アレルギー・免疫抑制剤について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	医学 的 基礎	公衆衛生学	公衆衛生序論では公衆衛生と医療の歴史、公衆衛生活動、生命・保健医療福祉の倫理、生活と健康・慢性疾患の原因や環境を学ぶ。保健統計では健康水準・指標、人工統計、疫学、疾病予防と疫学管理、主な疾病の予防では感染症・循環器疾患・糖尿病・高血圧・通風・癌・アレルギー予防、環境保健では科学的・生物学的・大気汚染・水質汚染、生活環境、地域保健と保健行政、母子・学校・産業・精神・老人福祉の各保険、国際医療保険、保健医療の制度と法規を学ぶ。	
		医学概論	医学・医療の歴史、医の倫理、診断と治療の基本、医学・医療の各分野の概説、各種の医療従事者の役割とチーム医療、著名な医師・医学研究者の言葉やエピソード、代替医療、医療革新（基礎研究、橋渡し研究、臨床研究、治験とレギュラトリーサイエンス）などについて学ぶ。	
		感染免疫学	感染症の定義ならびに、感染症発症の原因微生物とそれらによる感染症発症の機序、さらには感染制御の中心的役割である感染免疫応答の基本概念を学習する。また、免疫応答の機能を担う免疫細胞、抗体、補体、化学伝達物質（サイトカインなど）の性状ならびに、それらによって惹起される自然ならびに獲得免疫応答のメカニズムについて講義する。さらに、免疫応答によってもたらされる生体反応（感染防御機構、癌に対する免疫応答、移植と拒絶反応、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）についてその免疫学的な成因を概説する。	
	理 工 学 的 基礎	応用数学	臨床工学で必要とされる、生体信号の解析や電気・電子回路の動作解析、周波数特性や時間応答の解析、さらに医療機器をシステムとして表現し、その動作を解析する能力を養成するために、本講義では、その数学的な基礎を学ぶ。具体的には、微分、積分、微分方程式の解法とCR回路の過渡応答解析への応用、ラプラス変換と伝達関数及びシステムの時間応答、信号の周波数特性を解析するフーリエ解析（フーリエ級数展開、フーリエ変換）などについて学ぶ。	
		電気工学Ⅰ	医療機器や生体計測機器では電気回路が多く用いられている。これらの機器の電氣的な動作を理解し、運用できる能力の養成するために、本講義では、電気回路の構成要素や回路構成、動作解析に関する基礎を学ぶ。具体的には、電流と電圧、オームの法則、直流回路とその解析、キルヒホッフの法則（電流則、電圧則）、ブリッジ回路、等価電圧源回路、交流回路とその解析、交流信号の表現と解析、インピーダンス、エネルギーと電力及び実効値などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	理工学的 基礎	電気工学Ⅱ	電気工学Ⅰで学んだことをベースにして、生体計測において重要となる電気回路の過渡応答、雑音の発生とその抑制、さらには電磁波環境について学ぶ。具体的には、キャパシタと抵抗から構成されるC R回路の周波数特性、過渡応答及び時定数とその解析方法、電荷に働く力（クーロンの法則）、電荷と電界、静電誘導、キャパシタ、電流と磁界、電磁誘導、磁界と電流及び力の関係、自己誘導と相互誘導、変圧器、電動機の仕組み、電磁波の種類と性質などについて学ぶ。	
		電気工学演習Ⅰ	医療機器の重要な技術的基盤は電気工学である。臨床工学技士として医療機器を運用、保守・点検するためには、電気工学の知識をしっかりと身につけ、それを応用できる能力が必須となっている。本演習では、このような知識・能力を養うために、講義科目である電気工学Ⅰに関する問題を取り上げて演習を行う。授業の進め方として、アクティブ・ラーニングも取り入れ、問題のグループ討議、結果の発表・ディスカッションを行う。問題の解き方、考え方を他の人に分かりやすく説明することを通して、理解を深め、応用力を身につける。	共同
		電気工学演習Ⅱ	臨床工学技士として医療機器を運用、保守・点検するために必要な電気工学の知識をしっかりと身につけ、それを応用できる能力を養うために、電気工学演習Ⅰに引き続き、講義科目である電気工学Ⅱに関する問題を取り上げて演習を行う。本演習では、電気と磁気、キャパシタとインダクタ、電磁波などが主体となる。授業の進め方として、アクティブ・ラーニングも取り入れ、問題のグループ討議、結果の発表・ディスカッションを行う。問題の解き方、考え方を他の人に分かりやすく説明することを通して、理解を深め、応用力を身につける。	共同
		電気工学実習	医療機器や生体計測機器では、電気回路が広く使われている。本実習では、電気工学Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎をベースにして、電気回路の設計、組み立て、測定などを行い、電気回路に対する理解を深め、同時に測定器の原理を理解し、使用方法を習熟することを目的とする。実習内容は、電流・電圧・抵抗の測定、ブリッジ回路と抵抗の測定、オシロスコープによる電気信号の観測、C R回路の周波数特性と過渡応答の測定、共振回路の周波数特性の測定、フィルタの周波数特性の測定などから構成される。	共同
		電子工学Ⅰ	医療機器や生体計測機器では、トランジスタやダイオードなどを用いたセンサーや増幅回路が重要な役割を果たしている。本講義では、これらの素子や回路の特性や動作を理解し、運用できる能力を身につけることを目的として、電子工学の基礎を学ぶ。具体的には、原子の構成、半導体の構成と動作原理、ダイオードの構成と動作原理、整流回路の構成と解析、波形成形回路の構成と解析、バイポーラトランジスタ、電界効果トランジスタ、基本的な増幅回路の構成と動作解析、演算増幅器（オペアンプ）の理想特性などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	理 工 学 的 基 礎	電子工学Ⅱ	電子工学Ⅰで学んだ内容をベースとして、本講義では、ダイオードやトランジスタをベースにした電子回路、論理回路、半導体センサー等について学ぶ。具体的には、演算増幅器（オペアンプ）を用いた増幅回路と応用回路（加算回路、微分回路、積分回路、差動増幅器）の構成と動作解析、差動増幅回路の基本動作と同相成分除去比（CMRR）の解析、マルチバイブレータの構成と基本動作、半導体センサの基礎と応用、ダイオードやトランジスタによる論理回路の構成と動作などを学ぶ。	
		電子工学演習Ⅰ	医療機器や生体計測機器では、センサーや増幅回路などが広く使用されている。これらは半導体やトランジスタなどの電子部品から構成されているため、臨床工学技士として電子工学の基礎知識を身につけ、応用できる能力が必須となっている。本演習では、このような知識・能力を養うために、講義科目である電子工学Ⅰに関する問題を取り上げて演習を行う。アクティブ・ラーニングも取り入れ、問題のグループ討議、結果の発表・ディスカッションを行う。問題の解き方、考え方を他の人に分かりやすく説明することを通して、理解を深め、応用力を身につける。	共同
		電子工学演習Ⅱ	臨床工学技士として電子工学の基礎知識を身につけ、応用できる能力を養うために、電子工学演習Ⅰに引き続き、講義科目である電子工学Ⅱに関する問題を取り上げて演習を行う。本演習では、演算増幅器を用いた応用回路、論理回路、各種センサー技術が主体となる。アクティブ・ラーニングも取り入れ、問題のグループ討議、結果の発表・ディスカッションを行う。問題の解き方、考え方を他の人に分かりやすく説明することを通して、理解を深め、応用力を身につける。	共同
		電子工学実習	電気工学実習に続いて、電子工学Ⅰ、同Ⅱの講義内容に関する実習を行う。実験を通して講義内容の理解を深めると同時に、ダイオードやトランジスタの実際の特性やそれらの応用回路の特性について理解し、設計・解析能力を養うことを目的とする。実習内容は、ダイオードの整流特性、トランジスタの静特性と増幅特性、演算増幅器と増幅回路、ダイオードによる波形成回路、演算増幅器を用いたフィルタ、半導体センサーと応用回路、論理回路などから構成される。	共同
		医用機械工学	医療機器や生体計測機器の機械的な動作を理解し、運用する能力を身につけることを目的として、本講義では、力学、材料、流体、波動、熱などに関する基礎を学ぶ。具体的には、力学の基礎、剛体に働く力、力と力による運動、運動とエネルギー、固体材料の変形と強度、流体とその流れ、粘性流体の流れ、液滴の形成条件、波の特徴、波の反射、透過と屈折、音波と超音波、熱に関する基本的な物理量、熱力学の基礎、熱と仕事などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	理 工 学 的 基 礎	情報処理工学	本講義では、医療や医療機器で用いられる情報技術を理解し活用できる能力の養成を目的として、情報処理に必要な情報表現と論理演算、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、ネットワークに関する基礎を学ぶ。具体的には、 n 進数の表現と変換及び演算、画像のデジタル表現、論理回路の構成と解析（真理値表、ベン図、ブール代数、加算器）、コンピュータの基本構成と動作原理、入出力装置・補助記憶装置の種類と特徴、プログラミングの基礎、データ通信とネットワーク、情報セキュリティなどを学ぶ。	
		プログラミング演習	医療機器や生体計測機器のデジタル化が進んでいる。本演習では、情報処理の内容を理解し、それを実現するためにプログラミング能力を養成することを目的として、現場で必要とされる言語によるプログラミング技術を習得する。演習内容は、プログラミングの基礎、フローチャート、C言語によるプログラミングの基礎と応用、オブジェクト指向言語によるプログラミングの基礎と応用、Excelの表計算による医療データ処理、MATLABによる信号処理と人工知能のシミュレーションプログラム作成などから構成される。	共同
		医用信号処理	生体計測では雑音に埋もれた微弱な生体信号を精度良く測定し、処理・加工するために多くの信号処理技術が使われている。本講義では、このような技術を習得し、応用できる能力を養成することを目的として、デジタル信号処理の基礎を学ぶ。具体的には、アナログ信号の標準化とスペクトルの変化、離散時間システムの基礎と時間応答及び周波数応答、AD変換器の原理と分解能の解析、雑音低減技術（フィルタ、移動加算平均、同期加算平均など）の原理、信号解析などを学ぶ。	
		医用通信システム	医療機器や生体計測機器では各種の通信技術が重要な働きをしている。本講義では、このような技術を習得し、応用できる能力を養成することを目的として通信システムの基礎を学ぶ。具体的には、アナログ変調方式（振幅変調、周波数変調、位相変調）とデジタル変調方式（ASK、FSK、PSK）の原理とその応用、無線通信技術とその応用、医療用通信システム（テレメータ、PHS）、コンピュータネットワーク、セキュリティ技術、医療情報システムの通信技術などを学ぶ。	
		医用工学	医療機器や生体計測機器をシステムとして捉え、その原理を理解し、運用能力を養うことを目的として、本講義では、システムの表現方法と動作解析、さらにはロボットや人工知能の基礎を学ぶ。具体的には、ブロック図によるシステム表現、ブロック図と伝達関数の関係、伝達関数と時間応答、システムの安定性、自動制御の基礎、各種制御方法、ロボット制御の基礎と医療への応用、生体システムの表現と解析、人工知能の基礎とシステム制御への応用などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	理工学 的 基礎	医用システム工学実習	共同
専門 科目	医 用 生 体 工 学	生体物性工学	生体の電気的特性では電気現象・受動特性・能動的電気特性・磁気、生体の機械的特性では力学・音響・流体力学特性、生体の熱的特性では温度変化の反応・温度調節機構・熱作用、生体と放射線では種類性質・諸量・作用と障害・医療応用、生体の光学特性では性質特性レーザ、生体の運送現象では液体組織および物質移動・肺におけるガス交換・腎臓の物質移動について学ぶ。
		生体材料工学	医用材料に求められる条件、医用材料の種類では非金属無機材料・有機材料・組織再生工学的材料、生体との相互作用では血液接触材料・結合組織および組織接触材料・材料が受ける変化。生体適合性と生体代行装置の生体適合性、安全性評価と安全対策では薬事法と日本工業規格・安全性評価・生物学的評価試験・化学的評価試験・物理的評価試験、医療機器の安全性評価について学ぶ。
		生体計測工学	生体計測は生体・医療・工学を融合した技術であり、総合的な知識が必要とされる。本講義では、主として工学的な側面から生体計測の基礎と生体電気・磁気測定の基礎を学ぶ。具体的には、生体計測の基礎（単位と標準、信号と雑音、雑音の種類、計測誤差）、生体情報の計測（生体計測の特徴、計測装置の基本構成、各種トランスデューサ、ノイズ対策）、心臓循環器計測（心電図の医学的・工学的基礎）、脳・神経系の計測（脳波の計測、大脳誘発電位の計測）などを学ぶ。
		臨床画像工学	生体情報の取得と診断のために、X線画像、コンピュータ断層（CT）画像、磁気共鳴（MR）画像、超音波画像、核医学画像など様々な医用画像検査が用いられる。各種医用画像検査法の原理・特性を理解し、それらの撮影装置、撮影法や読影に必要な画像解剖を習得する。また、これらの医用画像を得るための画像処理・解析法および評価法など臨床工学的な基礎知識と応用技術を習得する。
	医 用 機 器 学	医用機器学概論	生体に適用される計測・監視用機器、治療用機器、生体機能代行装置の役割と構成・原理の概要を学習する。特に本講義では、循環器系、呼吸器系、神経・筋系の計測機器、電磁的治療用機器、熱的治療機器、光学的治療機器、手術用機器及び循環器系、呼吸器系、代謝系の生体機能代行装置、人工臓器などの概要を学習する。更に、医用機器を生体に適用する場合には安全性が強く求められるので消毒・滅菌の概要についても学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	医用機器学	物理や電気・電子工学をベースに治療の基礎原理について学ぶ。電磁気を利用した治療機器ではペースメーカ・除細動器・電気メス・マイクロ波手術装置を始め、光を利用したレーザー手術装置、超音波を利用した超音波吸引・凝固切開装置、温度差による治療を用いた冷凍手術装置・ハイパーサーミアについてその原理や適応を学ぶ。また、治療を目的とした各種ポンプや心臓血管インターベーションについても学習する。	
	医用治療機器学実習	医用治療機器学Ⅰ（講義）で学んだ様々な治療機器の原理や内部構造、またその運用や点検について実習を用いて学ぶ。実習では、単なる操作だけでなく、医用治療機器学を理解しながら運用などを身に付けることを目的とする。	
	画像診断装置学	超音波、X線、磁気共鳴（MRI）、放射性同位元素を利用した画像診断装置について、撮像原理と生体組織との関係、そして、撮像方法の特徴や臨床的な意義などを学ぶ。これらの医用画像を得るための装置管理法、そして画像再構成法や画像管理・評価法など、臨床工学的な基礎知識と応用技術を習得する。	
	生体計測装置学	生体計測の基礎では単位と標準・信号と雑音の種類・計測誤差・生体信号・計測装置の基本構成・ノイズ対策と信号処理、生体電気。磁気計測では心電図・心磁図、脳波・大脳誘発電位・脳磁図・筋電図計測、生体物理化学現象計測では血圧・血流計測・呼吸計測・ガス計測体温計測、画像診断法では超音波画像計測・X線による画像計測・ラジオアイソトープ・核磁気共鳴画像計測、内視鏡の構造、検体検査では自動分析化学検査装置・自動血液検査装置について学ぶ。	
	生体計測装置学実習	一般計測技術に関する基礎的事項を理解した上で、臨床工学の分野で取扱う生体計測装置についてシステムの構成と機能について実習する。 生体計測装置の特性と機能、そして、生体計測技術を次の内容で解説、実習する。1, 粘性流体の計測 2, センサ技術 3, 生体内の電気現象の計測 4, 生体内の圧力の計測 5, 生体液の流量の計測 6, 呼吸気量の測定 7, 生体音の計測とフーリエ解析の実習を行う。	
	生体機能代行技術学	呼吸が障害された場合に行なわれる呼吸療法について学んで行く。総論では、呼吸生理学より呼吸機能検査・血液ガス分析データ理解、呼吸不全の定義・診断・原因・主な疾患、さらに小児の呼吸管理について学ぶ。各論では肺機能測定より酸素療法・吸入加湿療法・高気圧酸素療法・人工呼吸療法・麻酔器・各種呼吸関連モニター・在宅酸素・人工呼吸管理についての各種呼吸療法用器具・機器について疾患とともに必要な知識・手技・技術を総合的に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	生体機能代行技術学		
	呼吸機能代行措置学実習	人工呼吸器より麻酔器・酸素療法・吸入療法・各種モニタ・肺機能測定など呼吸療法で使用する機器についても実習を行っていく。人工呼吸器・麻酔器では構成・回路組み立て・各換気モードの特徴・操作・安全対策・緊急時対策、酸素療法・吸入加湿療法では器具・機器の構成・特徴・管理・使用方法、各種モニタでは構造・操作・結果の意義、肺機能測定では各自計測を行ない結果の意義について考える。 呼吸関連機器の原理・構成、操作手順・安全対策・保守管理を実習で行なう。	
	循環機能代行装置学	臨床工学技士の主要業務のひとつである人工心肺操作は、心臓血管外科手術や循環器領域における生体機能代行装置管理である。人工心肺装置や補助循環装置を適切に操作・管理を行うためには、循環器系や体外循環装置・病態生理などの基礎的知識が必要である。 本科目では、心臓の機能・心疾患の病態生理から人工心肺装置の基本システム、および体外循環の種類、原理、構造についての基礎知識を学ぶ。また、人工心肺装置を操作するうえでの技術と最新の医療現場で必要とされる医学的・化学的な根拠を学び理解を深める。	
	循環機能代行装置学実習	人工心肺装置は、生体の心臓と肺機能を代行し血液循環を維持する生命維持装置である。人工心肺装置を使用して体外循環を行うには、適切な操作とともに保守点検などの安全管理がととても重要である。本科目では、人工心肺装置を操作するうえで重要となる安全管理、原理や特性など、実習を通じてより一層の理解を深めることを目的とする。また、経皮的心肺補助装置（PCPS）や大動脈バルーンポンピング（IABP）法、各種安全装置の理解、緊急トラブル対処方法などを実習で学ぶ。	
	代謝機能代行装置学	腎臓系・尿路経路の解剖生理学、腎臓機能検査では尿検査・血液検査・腎臓機能検査・その他の検査、腎臓疾患と病態生理学、血液透析の原理と構成では原理・ダイアライザの特性・透析膜、透析技術では各装置の機能・特性、安全管理では水質管理・機器保守点検・感染対策・トラブル時の対策、持続的血液浄化療法、腹膜透析、その他吸着法や膜分離法、在宅透析、腎移植、また透析療法をとりまく環境などについても学ぶ。	
	代謝機能代行装置学実習	透析液の基礎と条件また作成と供給方法、副作用と合併症、バスキュラーアクセス特徴・問題点・選択、水処理装置原理と実際、透析液供給装置の機能・構成、各治療モードにおける注意点、安全管理では透析液水質管理の重要性、透析液ラインの管理、機器の保守点検透析中の事故に対する対策などを学習していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	生体機能代行技術学	（概要）臨床工学技士に求められる呼吸器と循環器に関する構造や機能、疾患についての学習を行う。また、ME機器についても授業の中で取り上げる。 （オムニバス方式／全15回） ③ 深澤 伸慈／7回） 呼吸器について、構造と機能、呼吸障害で換気不全を中心に学習を行なう。また疾患では、閉塞性疾患、拘束性疾患、結核、肺がん、急性呼吸窮迫性症候群を中心に系統的に学習を行なう。さらに呼吸管理では吸入・酸素療・人工呼吸器療法などを各疾患ごとに説明する。 ⑦ 坂元 英雄／8回） 循環器について、心臓の構造と機能、心機能障害の学習を行なう。さらに人工心肺装置、大動脈バルーンポンピング、心臓カテーテル・ペーシングなどMEに必要な技術と各疾患について系統的に学習する。	オムニバス方式
	臨床医学Ⅰ （呼吸器、循環器）	（概要）代謝や血液に関する分野について、臨床工学技士に求められる構造や機能、関連する疾患を学習する。また、ME機器についても授業の中で取り上げる。 （オムニバス方式／全15回） ②④ 佐藤 宜伯／8回） 腎臓の構造と機能、腎臓能障害で生理学的な学習を行なう。また各疾患として、糸球体腎炎、糖尿病腎炎、間質性腎炎、慢性腎臓病、尿路結、前立腺肥大を中心としそのメカニズムを学習する。さらに人工透析や治療に必要なME機器の含め学習する。 ⑦ 坂元 英雄／7回） 造血機能と形態より血液組織と働きについての基礎を学習する。また、各疾患として、貧血と止血異常、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などを中心に学習するとともに、各検査項目についても学習する。さらに体外循環・代謝などの生体代行装置での血流に対する注意点なども含め学習する。	オムニバス方式
	臨床医学Ⅱ （代謝、血液）	（概要）臨床工学技士に必要な神経系、内分泌系に関する基礎知識を学習する。神経系と内分泌系は身体の情報伝達機構であるが伝達経路や役割が異なることを踏まえて学習を進める。 （オムニバス方式／全15回） ⑤ 平山 順／9回） 神経系では、細胞の発生と進化より、中枢・末梢神経の仕組み・機能について系統的に学習する。 ② 井関 尚一／6回） 内分泌では内分泌器器官のホルモンやその働き、機能について学習する。	オムニバス
	臨床医学Ⅲ （神経系、内分泌系）		

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部臨床工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	医用安全管理学	医療機器および設備、電気設備の点検方法や事故原因の分析結果などを学ぶ。医療機関で使用されている高度化した医療機器を適切に使用することはもちろんのことであるが、そのために日常の点検、保守管理は極めて重要である。医療機器全般を対象とした安全基準と関係法規、安全管理技術と臨床工学との関連、現状などについて理解する。また医療安全管理責任者の役割、医療機器の安全管理体制のシステム化などについても学ぶ。	共同
	医用機器安全管理学実習	現在の医療現場における様々な医療機器や医療システムなどは、高度な医療技術が駆使され医療を支える大きな役割を果たしている。また、これら高度な機器を使用するにおいては、病院設備等の整備も重要であり、そのため電気設備や医療ガス設備の安全に対する知識・考え方が必要となってくる。本実習ではJIS規格で規定されている安全基準を基に、医療機器および電気設備の点検方法や過去事故事例から、事故原因分析結果などを学ぶ。また、病院施設の見学実習により実践的な電気的安全性に対する知識や医用機器安全管理技術を習得する。	共同
総合 実践 科目	チーム医療論	他の医療職の役割を把握するとともに、相互協力のもとで多様化する医療ニーズへの対応方法を多角的視野から検討する。急性期医療における生命維持装置の動作・管理などに関する看護師との連携、地域包括ケアシステムにおける在宅透析装置の動作・管理などに関する看護師やリハビリテーション専門職との連携などについて、具体的事例を検討しながら理解を深める。	共同
	グローバル感染対策	グローバル化する感染症の脅威に立ち向かうために、現在問題となっている新興・再興感染症について学ぶ。感染対策は社会にとって重要な課題の一つであり、医療施設においては最も取り組まなければならない課題である。そこで、病院内での感染症のアウトブレイクを紹介し、その疫学的調査をふまえ、学生自身で対策を考える機会とする。また、国内のみならずアジア、世界に広がった薬剤耐性菌の蔓延、さらには数年前の重傷急性呼吸器症候群(SARS)、そして新型インフルエンザといった新興・再興感染症を知り、これからの社会における対策の重要性を認識する。	
	看護技術の科学的検証	日常生活援助技術をはじめとする看護技術を科学的に分析し、その効果の検証によって、より利用者に貢献できる看護技術を考察する。臨床工学科との連携により、工学機器を用いた看護技術の客観的評価の視点と手法を学ぶ。具体的には、少数グループに分かれて臨床で行われている看護技術を選択し、その安全性や効果をサーモグラフィや超音波診断装置、生体モニタリング機器などを用いて科学的に評価し、今後の看護技術発展の可能性を含めて発表する。	共同
	地域の健康課題と多職種連携	小松市および石川県の地域において活動を行い、対象地域の健康課題を明らかにし地域の特性を生かした健康活動と必要な専門職連携を見出していく。医療関連施設の設置状況やそこに至るまでの移動上の課題、フィールドワークによる地域ごとの健康課題の調査等を通して、地域で求められる新たな看護職の役割を見出し、求められる専門職連携について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部臨床工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	総 合 実 践 科 目	地域包括ケア	実習で看護を経験した事例について、小松市を中心とした地域包括ケアの充実を考えることができることを目指す。病院、施設、在宅等に出向いて行った実習で受け持った事例を集め、現状と課題を分析する。可能な限り住み慣れた地域で、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供され、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）のあり方として、病院、入居・入所施設、在宅サービス提供機関等様々な機関における看護職の役割について考察する。	
		臨床実習	基礎専門科目、専門科目、学内実習の総まとめであり、実際の臨床現場において生命維持管理装置やME機器の操作・保守・点検がどのように行われているかを実習する。また臨床工学技士として基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。またチーム医療における臨床工学の重要性を臨床現場で学ぶ。さらに他の職種との協調性を養い臨床工学技士の使命を自覚することも重要な目標である。	
		卒業研究Ⅰ	これまでの教科目や臨床実習などでの学習によって見出した医療現場における課題を取り上げ、担当教員の指導のもとで、その課題解決のための考え方、調査・実験の方法、結果の解析方法などを試行しながら学び、結論を導くことを目指す。	
		卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰで取り上げた課題と目標達成に向け、実際に実験、調査に取り組み、その経過や結果を報告書にまとめる。学内発表会を通じて、プレゼン能力、表現力を育成するとともに、担当教員の指導のもとで最終的には、学術論文誌に掲載されるレベルの研究報告を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	導入 科目		
	キャリアデザイン・チーム論Ⅲ	新入生が4年間の大学における勉学を卒業後の進路と結びつけながらデザインし、組織や社会集団の一員として自己実現しながらそれらに貢献していくための知識とノウハウを学ぶ。教員の一方的な話にならないよう、毎回、予習の必要な課題を与え、集団討議の時間を設ける。また、毎回ミニッツペーパーを提出させる。前半は小松地域で活躍する社会人による講義を組み入れながら各自のキャリアデザインを考えさせる。後半は、事例を上げながらチームワークのあり方を考えさせる。	
	アカデミック・スキルズ	「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。	
	テーマ別基礎ゼミ	1年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。1クラス当たりの平均受講者数は15名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。	
	情報処理基礎	コンピュータの利用分野に適したシステム構成を理解するとともに、ソフトウェアやネットワークの活用法を習得する。授業においては、コンピュータの5大装置の役割と関連知識を学び、パーソナルコンピュータのカスタマイズができる程度の知識と技術を養う。また、アプリケーションソフトウェアの活用法とデータ形式、ネットワークの適切な活用とデータ圧縮・解凍技術、暗号化を含めた情報セキュリティなどについても習得し、理解したことを発表する場を設けて、理解度の向上を図る。	
	南加賀の歴史と文化	南加賀地域の歴史や文化を学びの主対象として、その分野に関する基礎知識・専門能力を十分に得られたという自負や、それらを学ぶことの意義を自覚し、他者に向かって説明できる自信を身につけることを目標とする。具体的には『平家物語』等を題材として、源平合戦当時の仏御前、実盛、義経・弁慶等の物語の概要や地域の伝承、小松に引退した加賀藩3代藩主前田利常が基礎を築いた伝統文化の諸相について講義する。	
一般 科目 （人間力）	哲学	哲学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標とする。本講義では、哲学者たちが考えた問題を、自分の頭で考えることによって、哲学的に考えることについて理解する。また、現代の具体的な事例を取り上げながら、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養うことができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （人間力）		
	心理学	本講義では、心とは何か、心理学では心をどのように扱い研究しているのかを理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。本講義は講義と簡易な心理学実験、ディスカッションによって構成される。心理学の諸理論を解説した上で、実社会や日常生活への応用について考察を深める。本講義では、感覚と知覚、学習と記憶、推論と意思決定、感情と動機づけ、社会的認知、発達、カウンセリングの代表的技法、発達障がいについて扱い、多様な心理過程の総合的理解を目指す。	
	人間の発達と心	本講義では、受胎から死に至るまでの生涯発達のプロセスにおける人間の心の特徴と変化について理解し、自己理解・他者理解に役立つ実践的知識を修得することを目的とする。授業は講義、グループワーク、ディスカッションによって構成される。グループワークでは自己と他者の発達について省察する機会を提供する。発達を規定する要因、発達段階毎の特徴、認知機能と身体機能の発達について具体例を交えて解説する。また、発達における不適応状態について検討し、可能な支援についての考察を深める。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能を代表する能楽・歌舞伎について、南加賀を舞台とする義経・弁慶北国落ちの物語を題材とする能「安宅」、舞「富樫」「笈さがし」、歌舞伎「勧進帳」を読みながら、それぞれの作品を比較し、作品ごとのまた劇ジャンルとしての特徴を理解できることを目標とする。さらに小松における子供歌舞伎の伝統や加賀藩主たちの「安宅」好み、明治の演劇改良や金沢における鳴和の滝・一本松などの地域伝承へと視野を広げてゆく。	
	人文地理学	本講義は、様々な事例を通じて、人文地理学がどのような学問であるのか、様々な人間活動を「地域」という側面から捉えることの意義を理解することを目的とする。人文地理学の基本的な考え方、概念を踏まえ、人文地理学を構成する様々な分野について、具体的な事例を踏まえながら地域の人文現象を捉える際の人文地理学の視点や研究の特徴を理解する。	
	文化人類学	文化を言語・技術・社会・価値の4つの側面から考えながら、世界の多様な文化を相対化し、自らの価値観が絶対的なものではないということを認識させ、異文化にアプローチしていく様々な視点を提示する。授業においては、文化人類学の基本的な考え方、研究方法を理解させ、その上で、言語と文化との関係、狩猟採集、牧畜、農耕という生業の技術と文化のあり方、家族や親族から広がる社会と文化の関係、宗教やその信仰と文化の関わりについて扱い、自文化を相対化しながら、身の回りの社会を捉え直してゆく。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目（人間力）		
	医療と文化	本講義では、遺伝子診断、生殖医療、糖尿病、多元的医療など、健康と病気をめぐり現代医療が抱える課題を、科学や医学的観点ではなく、文化という観点から人類学的に理解するための基礎を学ぶ。それによって、現代医療を支える制度や科学的知識を相対化し、患者にとっての病気の意味や経験にも目を向けることができる視点を持つことを目的とする。医療従事者を目指すものだけでなく、様々な物の見方や価値観の多様性を理解することへの学問的関心がある者の受講が推奨される。	
	文章表現法	日本語の文章を読み書きする能力は生きる力の基本であり、学生生活においても職業人となっても必要な能力である。その能力を鍛えて、学生が文章を理解し表現することの喜びや達成感、あるいは苦悩の原因を言葉でとらえて開放感が得られるような授業をめざす。毎回様々な文章を例示して、その要約作業を行わせ、それを他の学生の要約作業の結果と比較することで、文章を理解しその理解を文章で表現することが生きる力の基本となることを実践的に自覚させる。	
	言葉と文化	（概要）我々が普段なにげなく使用している言葉の実態とその文化的背景について、日本語、中国語の身近な例を挙げながら講義する。 （オムニバス方式／全15回） ③ VANCE, Timothy John／8回） 前半（バンス担当）では、日本語の連濁（濁るか濁らないか）、nga/ga（“が”の発音）など身近な音声の例を取り上げ、どのような規則があるか、また性差、年齢差、方言差など使用実態の違いについて紹介する。 ① 岩田 礼／7回） 後半（岩田担当）では、外来語の受容形態の違いにみられるような日本と中国の文化的差異から説き起こし、実は両者の間に共通性もあることを日本と中国の方言を例に挙げて紹介する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目（社会力）	（概要）科学技術に焦点を絞り、日本の技術産業が、世界の歴史との関わりの中でどのように発展してきたかについて概観する。授業においては、世界における歴史的動きと科学技術の発達の中に、日本の科学技術の発展を位置づけ、互いがどのように影響し合いながら、今日の技術情報社会が出現したかについて述べる。映像教材などを多用し、小松という一地方都市が果たした役割についても再認識させる。 （オムニバス方式／全15回） （20 山田 良穂／4回） 日本産業の発達を概観した後、工業材料の発達に注目し、金属材料、樹脂材料の工業材料としての役割について講義する。 （19 山田 外史／3回） 日本産業の中での電気工学、電子工学の分野における様々なイノベーションについて講義する。 （25 岩田 佳雄／4回） 日本産業の発達の中での、機械工学の果たした役割について講義する。 （27 富澤 淳／4回） 日本産業の発達の中で果たした、鉄鋼産業の歴史と役割について講義する。	オムニバス方式
	自然資源と環境問題	原生的自然とは異なる農林業を通じて形成される自然生態系等、自然資源の特徴を農山村の地域区分ごとに概説し、中山間地域における農林業の衰退が耕作放棄や作業放棄を拡大することにより、限界集落の広がり、野生鳥獣害、生態系の悪化等の環境問題を引き起こしていること、中山間地域の自然資源が観光資源や交流資源として注目されていること等について講義する。	
	経済学	（概要）経済学的手法・思考方法を学ぶことで、現代社会における経済の仕組みを理解し、現実の諸問題を考える際に必要な基礎知識を習得することを目的とする。前半と後半で、それぞれミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を取り上げて講義する。 （オムニバス方式／全15回） （4 盛田 清秀／8回） 経済主体の行動、完全競争及び不完全競争市場、経済厚生などについて講義する。 （14 一ノ渡 忠之／7回） マクロ経済の基礎知識、物価と失業、金融市場と財政の仕組みなどについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （社会力）		
	政治学	（概要）政治学の基礎知識や概念、方法論について学ぶとともに、時事問題を題材に、現実政治の生活に及ぼす影響について理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） ⑬ 木場 紗綾／8回） 政治学の考え方や方法論、政治を分析するための理論的枠組みを講義する。政治の基本的な構造を理解すると共に、政治体制の変動や政権交代、社会運動、住民運動がなぜ起こるのかを議論し、報道や資料にあらわれない背景を理解する概念を身につけてもらう。 ⑭ 千葉 悠志／7回） 権威主義を含むさまざまな政治体制の基礎を講義したうえで、市民社会、メディア、国際政治など、政治社会と関連する諸アクターと政治とのダイナミズムを分析する。報道記事、書籍、各種刊行物などの材料を収集して自分の問題意識を明らかにし、考えをまとめる作業を通して、論点を整理する能力を身につける。	オムニバス方式
	社会学	現代日本社会における、社会と個人の関係とその有り様を現代社会の動向と社会構造に位置付けて理解し、社会分析の基礎的知識を養うことを目的とする。具体的には、産業化、情報化、グローバル化といった社会の変化の様相、地域社会や組織や集団やネットワークの現代的様相について概観する。その際、社会の深層の変化の動向として個人化とその一形態である私事化と全体化のダイナミズムに着目しつつ、これらの状況下における人々の社会意識、社会関係、人々の行為の有り様を考察する。	
	公共政策論	現在、政治、経済、社会における様々な問題を解決する上で、公共政策の重要性が高まっている。本講義では、公共政策とは何か、なぜそれが我々にとって重要なのかを理解した上で、現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現する上で、存在する困難や問題を考察するために必要な視点について受講者が獲得することを目指す。	
	社会福祉論	社会福祉の理論や歴史、現状と課題について学び、現代社会における福祉制度の意義やその理念について理解する。授業では、人権や社会福祉の概念と範囲について触れ、世界とわが国における福祉制度やその理念の変遷について学習する。また、貧困などの現代社会における諸課題についても触れ、これからの社会保障制度に求められる点についても考えを深める。さらに、各国の福祉政策についても取り上げ、国際比較を行う。	
	日本国憲法	この講義では、日本国憲法が私たちに対して何を保障し、かつ要求しているのか、社会生活全般にいかに関わっているのかを知ること、憲法の重要性を自覚することを目的とする。授業においては、憲法の大まかなイメージをつかんだのち、憲法の制定過程と基本原理、平和主義、精神的自由権、経済的自由権と社会権などについて、わかりやすく解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （科学力）	実社会とデータ科学との関わりを学び、統計手法によるデータマイニングの基礎を事例を元に修得することを目標とする。授業においては、基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった基礎を理解し、事例により更なる理解を追求する。 （オムニバス方式／全15回） （22 木村 春彦／9回） 基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析と数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法、データマイニングと統計といった統計手法によるデータマイニング手法を解説する。 （26 新田 雅道／3回） EXCELを用いて基本統計、相関と回帰、重回帰分析、数量化理論1類、判別分析などの応用事例を講義する。 （28 上田 芳弘／3回） EXCELを用いて数量化理論2類、実験計画法、分割表の解析、数量化理論3類と双対尺度法などの応用事例を講義する。 （※平成32年度までは、26 新田雅道が担当する）	オムニバス方式
	情報処理応用A	モバイル端末の基本的な仕組みを理解するとともに、個人情報を守るための知識と技術を学ぶ。具体的には、個人情報保護の観点、およびリアルタイムトラッキングの観点から、IoTに必要なセンサ、クライアントサーバーシステム、アプリケーションシステムの概要について学ぶ。	
	情報処理応用B	情報技術は社会の様々な場面で活用されている。本講義では、主として医療分野における情報技術の意義とその活用の実態、将来展望を概観し、この分野で活躍することになる学生の情報技術に対する理解を深める。具体的には、医療データの特性、情報技術の基礎と医療への応用、医療データの収集・処理・活用の在り方、医療データの集中管理と分散管理の在り方、医療情報システムの具体例、プライバシー保護・個人情報保護のためのルールや倫理観、セキュリティ技術などについて学ぶ。	
	クリティカルシンキング	本講義では、様々な思考の技術、とくに推論に関する批判的思考法を理解し、それを自覚的に使いこなせるスキルを身につけることを目的とする。「思考の技術」の核心には形式論理学があるが、それをそのままの形で日常的に使うことはあまりなく、クリティカル・シンキング、クリティカル・リーズニングのようなまとめ方をした方が効率的である。したがって、論理学の応用という意味においても、具体的な事例や文章作成を通して、論理的技術の力の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （科学力）		
	統計学	調査や実験、観察により収集したデータから法則性を導き出すための手法としての統計学について、その基礎的な理論と方法を確率論との関連に重点を置いて習得することを目標とする。本講義では、データの標準的な分布、分布の特徴表現、サンプルデータから元のデータ集団の分布解析、ある推定の確率的価値を検定する方法、複数の原因から生じる結果について、各原因の可能性を確率的に推定する方法などについて学ぶ。	
	教養としての物理	日常生活やそれを支えている科学技術に欠かせない基本的な物理の現象に関して、その原理や考え方、応用方法を習得することが目的である。授業においては、物体に働く力とつりあい、物体の運動とエネルギー、熱力学の法則とエネルギー、波の性質と音や光の伝わり方、電気と磁気、電圧と電流、原子と原子核などについて学ぶ。	
	教養としての数学	数学の歴史を、その考え方や考察の対象、表現の方法などの変遷を振り返りながら、数学の楽しさや基本的手法を学ぶ。日常生活やそれを支えている科学技術に欠かせない原理を記述するために数学が必要不可欠のものであることを理解する。授業においては、科学技術の進歩に果たした数学の役割を概観する。また、本学における専門教育の基礎となる数学について、指数関数と対数関数、三角関数、行列とベクトル、複素数、微分・積分などを体系的に学ぶ。	
	現代科学技術論	（概要）現代科学技術の源泉に遡りながら、機械、電気、情報などの要素技術の歴史的発展を概観する。授業においては、古代のエジプト、ギリシャ、中国で開花した科学技術についての考え方とそれらの特色について総括し、欧州に勃興したルネサンスを経て、科学技術が飛躍的に発展する様子を述べる。18世紀に始まる英国の産業革命とフランス革命の嵐の中で近代数学と物理学が次第に形成されることを学ぶ。さらに第二次大戦後の情報科学の発展にも触れる。 （オムニバス方式／全15回） （18 木村 繁男／3回） 科学技術の発達の中で熱力学の果たした役割について述べ、特に熱力学の第二法則の現代的意味について講義する。 （21 安達 正明／3回） 科学技術の発達の中で物理学が果たした役割について述べ、現代における物理学と技術の関係について講義する。 （23 川端 信義／3回） 技術史の中で流体力学の果たした役割と、現代における流体力学、流体工学の先端領域について講義する。 （24 田村 博志／3回） 技術の発達の中で数学の果たした役割と、現代における数学と技術との関係について講義する。 （28 上田 芳弘／3回） 戦後急速な勢いで発達した情報技術の歴史について述べ、今後到来する高度情報化社会について講義する。 （※平成32年度までは、22 木村春彦が担当する）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 （健康 と体力）	（概要）健康的な生活を送るために必要となる知識を身に付け、それらを日々の生活の中で実践していくことを目指す。たばこ、飲酒、睡眠などの生活習慣に関するものや、心の健康について取り上げる。 （オムニバス形式／15回） （33 中島 素子／8回） 健康維持や労働の再生産の視点から適切な睡眠・休養の確保の重要性について学ぶとともに、飲酒や喫煙による健康への影響についても学習する。また、禁煙を進めるための運動についても取り上げる。 （49 榊原 千秋／7回） 地域に暮らす人びとを対象にした心身共に健康な生活を送るための活動を踏まえ、ストレスマネジメントやセルフケア、病や障がいについて学び、生涯を通じて豊かに生きるための考え方を学ぶ。	オムニバス方式
	スポーツ演習 （バレーボール）	バレーボールに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、バレーボールを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各技術を身につけることを目指す。また、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。	
	スポーツ演習 （硬式テニス）	硬式テニスに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、硬式テニスを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、硬式テニスの基本技術を習得し、ルールを遵守しながら審判およびプレーヤーとしてゲームが行えるようにする。また、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につける。さらに、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。	
	スポーツ演習 （フットサル）	フットサルに関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、フットサルを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、受講者がフットサルの基礎知識、および基本的技術を十分に獲得し、国際ルールに則ったフットサルを行えるようになることを目的とする。ボールの蹴り方や止め方、ボールコントロール、連携プレーなどの技術を身につけ、身につけた技術の実践機会として、試合を行いフットサルを楽しく行えるようになることを目指す。	
	スポーツ演習 （卓球）	卓球に関する理論を学び、実践を通して基本技術を習得する。また、卓球を通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。競技スポーツとしての卓球は、動体視力と反射能力、高い瞬発力や持久力を必要とし、技術面、精神面ともに総合的な実力が要求される。本授業では、基礎動作の反復練習とミニゲームを通じて、卓球の特性と魅力に触れ、基礎的技術や戦略を用いて卓球を楽しむことができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際文化交流学部国際文化交流学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	一般 科目 (健康 と体力)	スポーツ演習 (バドミントン)	バドミントンに関する理論を学び、実践を通して基本技術習得する。また、バドミントンを通じて、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。本授業では、ラケットの握り方や各種ストロークなどの基本を身につけるとともに、戦術についてもゲームを通して実践的に学ぶ。また、ダブルスではパートナーとの連携での自己の役割を理解し、ゲームで生かせる能力を育成する。スポーツに関する理論や安全管理を学び、安全に留意しながらバドミントンを楽しむ。	
	英語 科目	英語Ⅰa	英語で書かれた情報を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やししながら、基本的なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、科学、社会・文化、時事など様々なジャンルの英文を読み、メインアイデアとそれを支える具体的事例を理解できるよう、パラグラフの構成と目的を意識した読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。	
		英語Ⅰb	英語で話された情報を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、高校までの英語学習を基礎として、文法・語法を定着させ、語彙を増やししながら、基本的なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、会話、アナウンス、ニュースなど様々な形式の素材を聴き、イントネーションや音の変化といった発音上の知識についても学びながら、全体の大意を把握する聴き方や細部の情報まで捉える聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでの会話を中心にリスニングの内容に関する演習を行い、語彙・文法・語法などの基礎的知識を自ら活用できるように練習する。	
		英語Ⅱa	英語Ⅰaで培ったリーディングスキルを発展させ、目的に合う速さで英語を読み、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、難易度の高い一般語彙を増やししながら、より高度なリーディングスキルを演習形式で学習する。 授業では、記事、Eメール、論説文など様々な形式の英文を読み、論理展開を意識しつつ、必要な情報を素早く読み取るスキニングなど多様な読み方を実践する。また、ライティングを中心に英文の内容に関する演習を行い、表現の場で場面に応じた適切な英語表現を使えるように練習する。	
		英語Ⅱb	英語Ⅰbで培ったリスニングスキルを発展させ、やや長めの英語を聴き、内容を正確に理解する力をつけることを目標に、場面特有の表現方法を学びながら、より高度なリスニングスキルを演習形式で学習する。 授業では、インタビューや講演など様々な形式の素材を聴き、発話された明示的な情報だけでなく、非明示的に伝達される内容も理解できるよう、話し手の意図を意識した聴き方を実践する。また、ペアもしくはグループでリスニングの内容について会話やディスカッションを行い、適切な英語表現を用いて自分の考えなどを述べる練習をする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	英語科目		
	英語Ⅲ	英語Ⅰ・Ⅱで培われた英語四技能（リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング）をさらに発展させ、国際試験（主にTOEIC）受験を射程に入れて、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。授業では、社会性の高い文章を読むことができる語彙の習得や、長文を読み要点を把握することに重点を置く。また、長文の要約や自分の意見を英語で書くことができるよう練習し、英語で自分の考えを論理的に伝える能力を養成する。	
	実用英語Ⅰ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英文法・英文読解の学習の基礎を理解し、簡単な英文を最低限聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で600点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅱ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。簡単な英文を読んで理解することができ、ゆっくりと読まれた英文を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で660点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅲ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。ある程度の長さの英文を読んで理解することができ、通常の速さの英会話を聴き取れる程度の能力の修得を目指す。なお、成果の指標として、TOEIC試験で720点を超える程度とする。	
	実用英語Ⅳ	グローバル化の進展により、英語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材が求められている。本講義では、英語のリーディングおよびリスニングなどの英語力を向上させ、総合的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とする。英字新聞や洋書を読解でき、ネイティブスピーカーの英会話を聴き取れる程度の能力を修得させる。なお、成果の指標として、TOEIC試験で800点を超える程度とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	その他 外国 語 科目		
	中国語Ⅰ	授業を通じて、学生が中国語の声母、韻母、声調の基本を把握し、正確にピンインローマ字を書き、漢字を読み、簡単な中国語対話と少量の教室用語が聞き取れるようにする。また中国語学習と関連する言語文化的要素を理解させる。授業は学生を中心とし、教員が主導することで学生の中国語コミュニケーション能力を涵養することを目的とする。言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、学生の中国語学習に対する興味と意欲をかきたてるとことで、その後も中国語学習を継続するための基礎を作る。	
	中国語Ⅱ	授業を通じて、学生が中国語を正確に発音し、会話相手の意図を正確に聞き取り、簡単な日常会話を行い、平易な短文を閲読する能力を身に着けるようにする。また簡単で実用的な文やフレーズが書けるようにする。授業では学生を中心とし、教員が主導するという原則を維持し、言語的知識に関する教育と運用技能の訓練を重視するとともに、中国語学習と関連する文化的要素を教授する。教員の話は簡潔にし、練習を多くすることで、学生の中国語コミュニケーションレベルを高めるよう努める。	
	フランス語Ⅰ	フランス語によるコミュニケーションのために必要な、聴く、読む、話す、書くの4分野にわたる能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、フランス語の発音、初等文法、基本的な会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、簡単な日常会話や平易な読み書きができるようになることを目指す。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに引き続き、コミュニケーションに必要なフランス語運用能力を身につける。社会言語として実践的な場面における意思疎通を可能とする語学力を身につけるため、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化について学習しながら、より発展したフランス語の発音、文法、会話表現を反復練習する。これらの学習を通じて、日常会話や読み書きができるようになることを目指す。	
	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパの主要言語の一つであるドイツ語の基礎を学ぶ。本講義では、ドイツ語を発音でき、文法の基礎を理解し、初歩的な表現力を身につけることを目標とする。アルファベットからはじめ、発音、挨拶表現や簡単な会話を反復練習する。ドイツ語によるコミュニケーション能力の獲得、ドイツ語圏の社会、文化に関する知識を得ることも講義の目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	その他外国語科目		
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の初歩を学ぶ。ドイツ語Ⅱでは、ドイツ語Ⅰの復習からはじめ、さらに初等文法の修得を中心に、会話も含めた講義とする。実際のドイツ語によるコミュニケーション能力を獲得、ドイツ語圏の社会、文化などに触れ、理解を深めることも講義の目標とする。	
	ロシア語Ⅰ	ロシア語を学んだことのない学生を対象とする。今まで英語で使用してきたラテン文字とは違うロシア文字（キリル文字）の発音や書き方から始め、ロシア文字で書かれた単語を読めるようになったらロシア語独自のイントネーションや簡単な挨拶の表現などを学んでいく。さらに、ロシア語を読み、書き、話し、聞くうえで必要な文法事項を学んでいく。	
	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰに引き続き、ごく簡単な文章を読みながら、初等文法を学習していく。この講義で取りあげる範囲は、名詞単数および代名詞の格変化、動詞の時制、運動の動詞、形容詞の短語尾形、無人称文までである。この学期の到達目標としては、少し複雑な文章を辞書を用いて独力で読めるようにすること、簡単な自己紹介ができるようにすることである。	
	スペイン語Ⅰ	テキストの構成に沿って、文字と発音を結びつけることを徹底しておこない、アクセントの位置を習得し、音読できるようにしてから、会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、主格人称代名詞、名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、形容詞、規則動詞AR型、同ER型、同IR型、ser動詞、estar動詞などの不規則動詞、所有形容詞、否定文と疑問文などについて学習する。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。	
	スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰの既習事項を復習しながら、引き続き会話文の練習をすすめ、文法事項の説明を行っていく。ここでは、語幹母音変化動詞、指示詞、間接目的格人称代名詞、gustar構文、感嘆文、1人称単数のみが不規則な動詞、不定詞、直接目的格人称代名詞、命令文、天候、日付、時刻の表現、再帰動詞などについて学習する。ここまでの現在時制での基本的な文法事項をマスターする。併せて、テキストの会話文の背景を通して、スペイン語圏の社会や文化についての理解を進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	国際交流論	（概要）本講義では、国際交流への導入として、異なる文化的背景を持つ人々と交流する意義と交流を通じて生じる諸問題、そして小松市が抱える国際交流の地域課題についての理解を深める。授業では、担当教員の専門とする国との国際交流についての講義の後に演習を設け、具体的な国際交流の計画を学生グループが検討・立案する。グループワーク、ディスカッションを通じて考えを共有し、自身の国際交流への基本的態度を見つめ直す機会を提供する。地域における国際交流の現状と課題についても理解を深め、課題解決への有効な取り組みについて考える。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） ⑬ 小原 文衛／6回） 国際交流の概念について講義を行い、アメリカやカナダに関する事例をもとに、国際交流の意義や諸問題について学習する。また、アメリカやカナダとの国際交流計画を考える演習を行う。さらに、地域の自治体が行っている国際交流への取り組みや課題についても扱う。 ① 岩田 礼／2回） 中国に関する事例をもとに、国際交流の意義や諸問題について学習する。また、中国との国際交流計画を考える演習を行う。 ⑮ 木村 誠／4回） タイに関する事例をもとに、国際交流の意義や諸問題について学習する。また、タイとの国際交流計画を考える演習を行う。さらに、地域の国際交流に係る団体が行っている国際交流への取り組みや課題についても扱う。 ⑩ 塩谷 サルフィ マクスーダ／2回） インドに関する事例をもとに、国際交流の意義や諸問題について学習する。また、中国との国際交流計画を考える演習を行う。 ⑬ 小原 文衛・① 岩田 礼・⑮ 木村 誠・⑩ 塩谷 サルフィ マクスーダ／1回）（共同） 各自が考えた国際交流計画について発表を行うとともに、総括を行う。	オムニバス方式 ・共同（一部） 講義 24時間 演習 12時間

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	観光学概論	（概要）観光学を学ぶにあたっての基礎的な知識と理論を習得し、現代における多様なツーリズムの形態とその内容、およびこれらを取りまく社会的諸条件について学ぶことを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （② 杓谷 茂樹／8回） 観光の動向について、歴史的観点をふまえつつ、地理、言語、経済、経営といった切り口から考察していく。 （③ 中子（佐藤）富貴子／7回） 観光と関連する国の諸政策との関わり、ならびに観光政策の変遷、現代の観光産業における現状と課題、観光消費の動向、地域観光、観光と伝統文化との関連等について実例を踏まえて考察していく。	オムニバス方式
	地域政策概論	（概要）自治体による地域振興政策の概要について講義し、とくに人口、産業、農村政策に関する具体例と政策手法を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （① 宮崎 猛／8回） 地域創生に関する地方自治体のビジョン・総合戦略を例示して、人口政策と産業政策について解説する。東京圏への一極集中の対極にある中山間地域における限界集落地域の現状、都市からの移住者の状況、若い移住者確保の政策等について講義する。 （④ 盛田 清秀／7回） 第1次産業に基盤を置いた農村振興方策について、事例研究と政策手法について学ぶ。とくに観光振興には地域特産物のブランド化、農水畜産物の加工など6次産業化の取組みが有効と考えられるので、その実践例についても学ぶ。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	グローバルヒストリー	（概要）グローバルヒストリーの基本的な考え方を学ぶとともに、時事問題など具体的な問題をトピックとして取り上げつつ、現実政治の生活に及ぼす影響について理解を深めたい。また、学生自身によるグループワーク、グループディスカッションも積極的に取り入れる。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） 〔24〕 古泉 達矢／7回） 1回目でグローバルヒストリーという学問の概観や、ユーラシア大陸東西の相互影響について注意喚起を行った後、ユーラシア大陸東側に位置する東アジアについて比較政治学や比較文化論の視点から、民主化の波、エスニシティとナショナリズムが関係する紛争などについて概観する。 〔14〕 一ノ渡 忠之／7回） 20世紀の社会主義経済圏の背景と成立、同経済圏に巻き込まれた中・東欧諸国の社会システムの諸特徴を主に経済システムを中心に学ぶ。そのうえで、ソ連崩壊後の社会主義国の現状を理解するため、ロシアの市場経済移行プロセスのほか、EUとの関係を通じた中・東欧諸国の新しい経済システムの現状を把握する。 〔24〕 古泉 達矢・〔14〕 一ノ渡 忠之／1回）（共同） 最終回では、学生たちがこれまでの講義とディスカッション結果をまとめたものを報告させ、総合的なまとめを行う。	オムニバス方式 ・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	アジア社会論	（概要）複雑な現代アジア社会を、日本の外交政策とあわせて理解することを目標とする。具体的には、1) 各地域（東アジア、東南アジア、中東と西アジア）ごとの特徴や地政学的背景と、2) 国境を超えるさまざまな社会問題の2つを基軸に、アジアにおける時事問題、社会問題を分析する理論的枠組みや方法論を紹介しつつ、最新の時事トピックスを解説し、リアクションペーパーを取り入れる。現代のアジアの政治・経済・社会の基本的な構図、日本とアジアとの関係および日本政府の対アジア外交について理解し、国際問題について自分なりの考察を行う習慣を身につける。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） ⑪ 酒井 亨・⑫ 木場 紗綾・⑬ 千葉 悠志／1回） （共同） ガイダンスにおいて、授業方針・評価方法の説明、参考文献の指示などを行う。 ⑪ 酒井 亨／4回） 台湾・韓国・中国などの東アジアの地域事情を説明し、国境を超える人々として過去の東アジアにおける華人移民、最近の新華僑などの移民について概説し、最終回のまとめを行う。 ⑫ 木場 紗綾／5回） フィリピン、タイを中心とした東南アジアの地域事情を説明し、国境を超える移住労働、自然災害などのリスク、日本との結びつき、日本の中のアジア系の人々について解説する。 ⑬ 千葉 悠志／5回） 西アジアおよびアラブ世界の地域事情を説明し、アルジャジーラのような中東発の国境を超えるメディア、メディアを通じて形成される越境的なアイデンティティ、さらにメディアを通じた日本との結びつきについて解説する。	オムニバス方式 ・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	日本文化論	日本文化の特殊性と普遍性を地方の視点で確かめ、自分の言葉で海外に向けて説明するための基礎学力を得ることをめざす。一つには地元の白山信仰を日本文化論の視点とする。神仏を信仰することと芸能を奉納することの関係を考える。二つには日本海と越路の道に注目して、文化の交流史をたどる。東国下りや西国下りの旅は種々文芸化して名高いが、北陸道も義経や世阿弥らの流離だけでなく、善光寺・気多神社等への信仰の道、大伴家持・松尾芭蕉らの風雅の道も重要であると気づけるようになる。	
	言語学概論	（概要）言葉の仕組みに関する基礎的知識と研究方法を概説する。講義を通じて学生に論理的な思考法を考えさせることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） ^① 岩田 礼／5回） 言語記号の本質とその機能についてそのエッセンスを講義したのち、言葉のオト（音声学）について基礎的事項を教授する。 ^③ VANCE, Timothy John／5回） 言葉のカタチ、単語の成り立ち（形態論）について日本語と英語などの外国語の比較を通じて講義する。 ^⑦ 岡村 徹／5回） 言語保持の諸問題を考える。言語はどのような条件が重なったときに衰退するのか、逆にどのようなケアをすれば言語は安定するのか考える。あわせて言語変化や言語接触の諸問題についても考える。	オムニバス方式
	異文化コミュニケーション論	（概要）異文化コミュニケーションを可能にするために不可欠な知識基盤、特に相対的な視点で異文化を見つめるために有効な思考法についての理論を紹介し、異文化との共生に必要な理論的な知識を紹介する。学生は、こうした理論の学習・考察を土台にして、理想的な異文化コミュニケーションとは何か、自文化の代表として自らが求められていることは何か、という問題に、ディスカッション・グループワークを通して主体的に取り組み、グローバル化した世界における自己の責任を自覚するとともに、着実かつ理想的な異文化コミュニケーションに取り組める人材となるために肝要な経験と知識を身に着ける。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） ^⑬ 小原 文衛／7回） イントロダクション、哲学で考えるグローバル化、サイードのオリエンタリズム、自文化の理解、異文化コミュニケーションを支える文脈（文学・映画）、異文化コミュニケーションの準備としてのグループワーク ^⑩ 塩谷 サルフィ マクスダ／6回） 文化人類学の視点・方法論と異文化コミュニケーション、他者と他者の差異について、異文化コミュニケーションを支える文脈（食・衣）、自文化の代表として何が必要かに関するグループワーク ^⑬ 小原 文衛・^⑩ 塩谷 サルフィ マクスダ／2回） （共同） グループワークの成果発表、まとめ	オムニバス方式 ・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語 科目	基礎外国語科目		
	English comprehension I	授業中、履修者と十分コミュニケーションをとりながら、演習形式で進めていく。英語あるいは英語圏にまつわる様々な事柄を教材とし、英語の基礎力を習得するとともに、教養を養う。英語の「読み」、「書き」、「話し」、「聞く」という4技能の総合運用能力を養うと同時に、オーストラリアの社会や文化についての知識も身につける。その知識は毎回授業の始めに、英文のクイズを実施することによって吸収する。ふだんから英語の新聞、エッセイ、報告、論文等を読むなど多読の習慣を身につけて欲しい。	
	English expression I	1年次で培ったリーディング・リスニングスキルをふまえ、英語によるコミュニケーションを豊かにするための表現力をつけることを目標に、スピーキングを中心とする基本的なアウトプットスキルを演習形式で学習する。授業では、視聴覚教材（映画・ドラマ）も利用しながら、音読やロールプレイ、英作文などの方法を通して、日常会話でよく使われる表現や依頼・反論・提案といった様々な状況における実用的な表現を実際の使用文脈と結びつけて学ぶ。また、ペアもしくはグループで内容に関連したトピックについてのディスカッションなどを行い、学習した表現を実践的に練習する。	
	Tourism English I	この授業では、観光関連英語に必要なコミュニケーション力を身につける。観光業界を目指すものだけでなく、海外旅行で必要となる英語を学びたい者を受講の対象となる。海外旅行での様々な場面における実用的な英会話、観光・旅行業に必要な基本的な英語および英語による日常会話、最終的には、日本の観光地や文化を英語で説明できるようにすることを目指す。授業形態は、リスニング、スピーキング練習を中心に、読解力と作文も学習していく。これらをペアワークやロールプレイングで習得する。	
	English comprehension II a	映画や文学作品を通じて、英語圏の社会や文化についての幅広い知識を獲得すると同時に、英語圏の文化に対する理解を多角的な視点から論じ、深める。授業では、英語圏の社会や文化について、歴史的な背景を踏まえながら講じる。授業を通じて、さまざまなジャンルや文体のテキストに慣れることが大きな狙いでもある。なお、授業は教科書を中心に進めるが、適宜補助プリントも配布し、DVDやCD等の視覚教材もあわせて使用する。紹介した作品や資料は積極的に読むこと。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国 語 科 目	基礎 外国 語 科 目	現代社会のグローバル化とそれに伴う諸問題（経済格差、環境・エネルギー問題、高齢化問題等）に関わる英語表現について読み・聴く訓練を行う。授業は、テキストの講読のほか、キーワードの使い方の訓練および簡単な経済および時事関連ニュースのリスニングを通じて行う。テキストはIMFや世界銀行のレポート、海外経済文献のほか、主要外国経済紙を随時利用する。キーワードおよびリスニングは教授者が作成・収集した用例集や録音教材を活用する。	
	English comprehension Ⅱb		
	English expression Ⅱa	（英文） Students will learn how to express themselves in English, mastering the usage of basic and more advanced sentence patterns. International cultural information together with related vocabulary, collocations, and other structures/expressions will be taught in an active learning environment, with students regularly working in discussion groups. The class theme will be centered on the experiences that Japanese people can have when travelling abroad and/or encountering foreigners in Japan. Although particular focus will be put on speaking, the four-skills emphasis will also provide active writing, listening and reading opportunities. The student-centered learning environment will use PBL (Project Based Learning) techniques. The class will be conducted in English. （和訳） 英語でどのように自己表現するかを学び、基礎文型と応用文型をマスターする。国際的な文化情報とともに、関連する語彙、連語、及びその他の構造/表現を、定期的なグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの環境で教授する。授業のテーマは、日本の人々が海外旅行や日本で外国人に出会った時に経験する事柄を中心とする。特に話すことに力点を置くが、4技能に配慮して、積極的に書き、聴き、読む機会を作る。PBL（プロジェクトに基づいた学習）の方法によって学生中心の環境を作る。授業は英語で行われる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 基礎外国語科目	English expression II b	（英文） Students will learn how to express themselves in more advanced English, with the language of international business and economics given a particular focus. Necessary vocabulary, collocations, and other structures/expressions will be taught in an active learning environment, with students regularly working in discussion groups. The class theme will be centered on the transactions, working situations, and mannerisms that Japanese people will be expected to be familiar with when using English. Although particular focus will be put on speaking, the four-skills emphasis will also provide active writing, listening and reading opportunities. The student-centered learning environment will use PBL (Project Based Learning) techniques. The class will be conducted in English. （和訳）特に国際ビジネスと経済に焦点をあて、上級英語でどのように自己表現するかを学ぶ。必要な語彙、連語、及びその他の構造/表現を定期的なグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの環境で教授する。授業のテーマは、日本の人々が英語を使う際に知っておくべき業務報告、就業状況、及び作法を中心とする。特に話すことに力点を置くが、4技能に配慮して、積極的に書き、聴き、読む機会を作る。PBL（プロジェクトに基づいた学習）の方法によって学生中心の環境を作る。授業は英語で行われる。	
	中国語 I a	この授業では、現代口語中国語の基礎を教授する。英語学習との相乗効果を目的として、英語で書かれた中国語テキスト（Robert Sanders, Nora Yao Fundamental Spoken Chinese, University Of Hawaii Press）を使用する。テキストに従って説明は主に英語で行い、日本語で補足する。文法、語彙及び「話す・聞く」に力点を置きながら、学生に正確な発音と口語運用技術を習得させるために、漢字は導入せず、漢語ピンインローマ字のみを使う。トピックスは、挨拶、問いかけと答え、数字の表現、人や事物の命名、買い物と値段、物・人・場所の所在などである。学生は課文の予習をして授業に臨み、授業では学習内容を定着させるためにドリルとロールプレイを実施する。	
	中国語 I b	テキストは中国語 I aと同じく、Robert Sanders, Nora Yao Fundamental Spoken Chineseを使用する。毎週、中国語 I aの後ろの授業時間帯に配置し、前半は I a で教授した文法、語彙事項の総復習と学生の学習度のチェックを日本語で行う。学生は必ずテキストの説明を復習して授業に臨む。後半は当該トピックスについて、発音の反復練習を行ないながら、中国語によってドリルとロールプレイを実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国 語 科 目	基礎 外国 語 科 目		
	中国語Ⅱa	前期の中国語Ia/Ib を承けて、Fundamental Spoken Chineseの残りの課文を主に英語で教授する。引き続き漢語ピンインローマ字を使用するが、学生が中国語で表現できるようになった事項については、段階的に漢字を導入する。テキストの説明は主に英語で行い、日本語で補足する。トピックスは、電話や手紙での応答、人助け、乗り物、道案内、時間の言い方、色と年齢の言い方などである。学生は課文の予習をして授業に臨み、授業では学習内容を定着させるためにドリルとロールプレイを実施する。	
	中国語Ⅱb	毎週、中国語Ⅱaの後ろの授業時間帯に配置し、前半は中国語Ⅱaで教授した文法、語彙事項の総復習と学生の学習度のチェックを行い、後半は当該トピックスについて、発音の反復練習を行ないながら、ドリルとロールプレイを実施する。説明は中国語を主とし、日本語で補足する。漢字導入については見極めの判断を行ない、導入ごとに簡体字の特徴を教授する。学生は必ずテキストの説明を復習して授業に臨む。	
	中国語Ⅲa	この授業は、複雑な話題について「話す・書く」訓練に移行する前段階と位置付け、表現のスタイル（口語表現と書面語的表現）の違いに留意しながら、現代口語中国語の基礎固めをする。文法、語彙及び「話す・聞く」に力点を置く。テキストはFundamental Spoken Chineseの続篇（私家版）を使用し、説明は主に英語で行うが、教室で使用する言語は順次中国語に移行し、読む・書くにも力点を置く。トピックスは、物の作り方と移動、料理、対象・行為の相互比較、受け身形を使った已然の動作の表現などである。	
	中国語Ⅲb	毎週、中国語Ⅲaの後ろの授業時間帯に配置し、授業は主に中国語で行う。学生は必ずテキストの説明を復習して授業に臨む。課文の復習をしながら、話す・聞くに力点を置いて徹底的な反復練習とロールプレイを実施する。また、これまでに中国語科目で教授した文法、語彙事項を基に作文練習を行う。	
	中国語Ⅳa	この授業では、引き続きFundamental Spoken Chineseの続篇をテキストとして、学生の話す能力と、複雑な話題について書く能力を伸ばす訓練をする。口語表現と古典中国語の影響を受けた書面語表現の違いに留意する。文法、語彙の説明は英語を主とするが、教室で使用する言語は主に中国語とし、「話す・聞く」と「読む・書く」に同じ比重をもたせる。取り上げるトピックスは、主に中国の若者の日常生活に関する社会的、文化的な話題、例えば、住宅、雇用、人間関係などに関するものである。	
	中国語Ⅳb	毎週、中国語Ⅲaの後ろの授業時間帯に配置し、授業はすべて中国語で行う。学生は必ずテキストの説明を復習して授業に臨む。課文の復習をしながら、話す・聞く・書く能力をブラッシュアップする。さらに、課文で取り上げられた中国の若者の日常生活に関する社会的、文化的な話題について、自分の考えを口頭や作文で表現する練習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 専門外国語科目	Tourism English II	（英文） This course is a continuation of Tourism English I. It is intended primarily for those intending to work in the tourism industry. This class focuses on English for travel and tourism industry including specialized vocabularies and phrases for various situations. The class is mainly focused on listening and speaking skills, but also included readings and short compositions. The class involves learning through pair work and role playing. （和訳） この授業は、Tourism English Iの続編となる。観光業界を目指す者が主な受講の対象となる。さまざまな場面での専門的な用語や言い回しなどが含まれた観光・旅行業に必要な英語を学ぶ。授業形態は、リスニング、スピーキング練習を中心に、読解力と作文も学習していく。これらをペアワークやロールプレイングで習得する。	
	English comprehension III	この授業では、国際理解にかかわるもの、特に異文化理解、多文化共生、国際交流、言語教育等のキーワードに即した英字新聞を読む。世界の英字新聞を読みながら、各自興味のあるトピックを対象を絞り、自らの考えを英語でプレゼンできるようにしていきたい。また海外の大学生と英語でemailをし、他者の意見を聞く。そうすることによって自らの考えが揺さぶられ、確固とした意見を持つことができるようになる。そのためには日頃から図書館で異文化理解にかかわる英文資料に目を通すなどの努力が必要になってくる。	
	English expression III	2年次までに培ったインプットスキル及びアウトプットスキルを応用し、自分の考えを英語で論理的にわかりやすく表現する力をつけることを目標に、英文エッセイを書くためのライティングスキルを演習形式で学習する。授業では、時系列・因果関係・比較など様々なタイプの論理展開と、関連する表現や文パターンを確認しながら、パラグラフの基本構造とエッセイの構成を実践的に学ぶ。アカデミックな英文を書くことに慣れるため、状況設定の下で指示に従って書く“Guided Writing”などのタスクを通して、アイディアをまとめることからエッセイを書き上げるまでの一連のプロセスを段階的に練習する。	
	English presentation I	英語による口頭発表の基礎的訓練を行う。まず挨拶の練習を反復して行う。続いて、学生生活で取り組んでいる課題について、目的、プロセス、結論を明確にした10分程度のスピーチができるようにする。以上はパソコンの補助ツールを使用しない。次に、英語による模範的なスピーチをビデオ教材によって学習する。最後に、先に行ったスピーチの課題について、時間を20～30分に延長し、パワーポイントなどを用いたプレゼンを実施する。その原稿は期末にレポートとして提出する。	
	English presentation II	自ら調査・研究したことを外部の研究会や学会で英語を使って報告できるようになることを目標とする。具体的には、過去に提出した学内のレポート等を題材として、プレゼンの準備および発表を行なう。そのためには英文で書かれた研究論文や報告を多読しないといけない。その中で、主題、副題、要旨、序論、本論、結論、注、参考文献のまとめ方を自然に体得していく。ふだんから英語放送を聴いたり、積極的に英語を使う習慣を身につけて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 専門外国語科目	中国語理解Ⅰ	この授業は学生の読解能力の向上と発音矯正を目的とする。平易な短編小説、散文を選んで教材とし、学生にはテキストの漢字の発音を予習することを義務付ける。授業では、まず中国語を正確に、またリズムカルに発音する訓練を反復して行う。次に、2年生までに学習した文法事項をふまえたピンポイント式の質問と応答を繰り返すことで、テキスト理解を確認する。授業が進捗するにつれて読解のスピードを上げ、中国語を読むことの楽しさを感じ得できるようにする。	
	中国語理解Ⅱ	（中文）本课程选取当代中国报刊上浅显易懂的新闻报道或通讯评论等作为教学内容，在词句、段落和篇章等方面对学生进行阅读理解技能训练，同时教授与课文内容相关的中国国情和文化知识等，以提高学生汉语理解水平，并在此基础上深入了解当代中国。 （和訳）この授業では現代中国の新聞・雑誌に掲載されたやさしいニュースや評論を選んで教材とし、語句、段落、章ごとに読解理解の訓練を施すとともに、テキストと関連する中国の国情、文化的知識などを教授することによって、学生の理解のレベルを引き上げ、その基礎の上に現代中国を理解させる。	
	中国語表現法	（中文）本课程在教学中采用命题的或非命题的教学方式，对学生进行汉语口语和书面语的表达训练，通过训练以巩固学生已有的汉语知识，发现并纠正学生在运用汉语时出现的错误，帮助学生掌握在不同语境下汉语的表达方式，提高学生正确运用汉语进行表达的能力。 （和訳）この授業では命題的又は非命題的な教授法を採用し、学生に対して中国語の口語と書面語の表現訓練を実施する。訓練を通じて学生が有する中国に対する知識を固め、中国語を使う際に現れる誤りを発見し、正すことで、学生にコンテキストの違いによる中国語の表現方式の違いを把握させる。学生が中国語を使って正確に表現する能力を向上させる。	
	中国語会話	（中文）本课程安排多种交际话题进行口语练习，其内容涉及择业、消费、婚恋、教育和老人等，培养学生能就日常生活中的常见话题，运用汉语进行较深入地讨论的能力，使学生能用汉语成段地表达自己的意见和情感。 （和訳）この授業では、多種類のトピックスを設定し口語の練習を行う。内容は就職、ショッピング、恋愛、教育、老人問題などに涉り、学生が日常生活でよく遭遇するトピックスについて、中国語を使って深く討論する能力を養成する。学生に中国語で自分の意見と感じ方をまとめて話せるようにさせる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際文化交流学部国際文化交流学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	専門外国語科目	ビジネス中国語	(中文) 本課程在介绍中国贸易文化的基础上，以开展某一国际贸易活动为线索，就其活动的主要环节开展贸易汉语的学习与练习，使学生掌握在贸易过程中常用的贸易用语和常用格式，了解有关中国贸易常识和商务文化，从而达到能运用汉语进行贸易谈判和写作的目的。 (和訳) この授業では、まず中国の貿易文化を紹介する。その上でなんらかの国際貿易活動の展開を手掛かりとして、その活動の主要な部分について、貿易中国語の学習と練習を行う。学生に貿易のプロセスで常用される貿易用語と常用形式を把握させ、中国貿易の常識とビジネス文化を理解させることで、中国語を用いて貿易交渉と文書作成を行うという目的を達成する。	
専門科目	観光・地域創生系科目群	サステイナブル ツーリズム論	(概要) サスティナビリティの考えの広がりとともに、近年多様なあり方を見せている観光の新しい展開について、様々な視点から考察し、新しい観光としてのサステイナブルツーリズムの全体像を把握する。 (オムニバス方式／全15回) (② 杓谷 茂樹／7回) マスツーリズム批判について考え、そこから生まれた持続可能な観光のいくつかを挙げ、その考え方について解説する。 (③ 中子 (佐藤) 富貴子／5回) バリアフリーツーリズムにおける人権を起点とした観光の考え方の潮流、フードツーリズム等の地域における多様なツーリズムのあり方や動向について概説する。 (① 宮崎 猛／3回) 日本とアジアのグリーンツーリズムについて概説し、共通する特徴として地域経営型ツーリズム (community based tourism) が指摘できる要因を明らかにする。	オムニバス方式
		観光産業概論	観光は地域活性化の有力な手法であるが、その盛衰は激しい。観光産業にも、温泉、旅館、ホテル、リゾート、テーマパーク等の従来の産業の他に、グリーンツーリズムやエコツーリズム等の新しい着地型の観光産業 (農家民宿、農家レストラン、体験施設、加工直売所等) が勃興してきている。規制緩和による農家民宿や着地型観光の受入法人も増加している。最新の観光産業の動向や観光業の経営形態について講義する。	
		世界遺産を学ぶ	世界遺産とは、世界遺産条約に基づき「世界遺産リスト」に記載されている、文化遺産や自然遺産などのことを言う。ここでは、世界遺産の中でも重要な100件について扱うことにする。文化遺産については、それが作られた歴史・文化的背景や気候風土に対する理解を深めながら、世界中に存在する多様な文化や伝統、価値観などを正しく認める力を養い、また自然遺産については、その地球における意義を理解しながら、地球環境保護の意識を高めることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	観光・地域 創生系 科目群		
	地域再生マネジメント論	地域の活性化方策について、目標設定、地域資源調査、農業の6次産業化等の活性化手法、自治体、経済団体・企業、消費者・住民の連携方策などの視点から、具体的実践例を踏まえて講義する。また地域計画策定手法に関して、目標設定において重要となる住民参加方式、資源調査の方法論、6次産業化の主要な取組みである直売方式・農産物加工方法・観光農園や農家レストランの開設等に関する具体的課題や手法を事例をもとに学習する。それらを通して地域再生の具体策・手法に関する体系的知識を習得する。	
	観光社会学	現代社会では多くの人たちが観光に出かけ、様々な場所に＜移動＞している。その意味で観光は、現代社会のあり方を考える上でとても大切な現象となっている。この観光という現象をめぐるのは、3つの立場が介在する。それは、①「観光客（観光を消費する人）」、②旅行会社・宿泊業者・交通業者などの「プロデューサー（観光を制作する人）」、③「地域住民」である。この講義では、これらの立場の相互関係において観光という現象がいかになじり、自我、メディア、文化、地域、都市、ジェンダー等のあり方とどのように交差するのかを考えていく。	集中
	観光資源論	観光資源とは、観光の対象、観光行動の目的となるあらゆるものである。その観光資源が地域や国にとってどのような意味を持つのかを考えていく。世界遺産や観光都市などの内外の具体的な事例の紹介を交え、観光資源の類型化、ツーリズムと観光資源の関係などを考えながら、観光資源の持つ役割や意味を「保護する」、「活用する」、「創造する」という観点から理解していく。	
	マーケティング調査論	マーケティング調査とそれに基づくデザインなど、顧客価値創造のための方法を学習する。観光業、宿泊業、製造業、交通業などで利用されているマーケティング手法について、調査の種類とそれぞれの特性、用いる場合に気をつける事項について学ぶ。また、調査結果をふまえて、事業者がどのような取り組みを行ったのかを実例をもとに説明を行う。	
	インバウンド観光論	インバウンド旅行者（訪日外国人）の集客が現代日本における観光産業の主要な原動力となっていることを踏まえ、従来の日本における観光産業の歴史的動向として、アウトバウンドからインバウンドへの大きな流れを理解する。その上で、今後にはむけたインバウンドのあり方、海外の動向、日本国内の環境整備の方向性について概説する。現在、日本とつながりの深い諸外国からのインバウンド旅行者の動向についても事例を交えて学習し、観光現場での課題についても考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	観光・地域創生系科目群	（概要）観光において、旅行者を受け入れる際に求められる受け入れ側のサービス構築のあり方について学び、日本とタイの実例を取り上げながら説明を行う。 （オムニバス方式／全15回） （③ 中子（佐藤）富貴子／7回） 「ホスピタリティ」の概念、考え方について概説する。次いで、事例を取り上げ、現場での顧客とのコミュニケーション、ホスピタリティを高めるための組織システム、職員の職場環境や育成等についての現状と課題を考察する。 （59 Pornpisanu Promsivapallop／8回） タイにおけるホスピタリティマネジメントの現状と課題、ならびにタイから見た日本のホスピタリティマネジメントのあり方とその課題について考察する。	オムニバス方式
	観光人材育成論	観光産業における人材に求められる資質、その育成について学ぶ。まず、観光産業として共通して求められる能力や資質やスキル、現状や課題について概説する。次いで、いくつかの業種を取り上げ、それぞれの領域での仕事や活動の内容、人材のあり方、スタッフマネジメント、スキルアップやキャリア形成について解説する。宿泊産業や旅行会社等の民間営利企業だけでなく、地域の観光ガイドなどを行うボランティアも含めた幅広い人材について考える。	隔年
	バリアフリーツーリズム論	旅行におけるバリアとは、障がいのある人や高齢者に限らず、妊婦、乳幼児連れ、疾病等、様々な人が遭遇するものであることを基本的な認識として持ち、海外からの旅行者も含め、幅広い見地から旅行におけるバリアを考える。また、その背景として国、地方自治体などの行政が進めるユニバーサルツーリズムの推進施策、ならびに観光産業や種々の民間団体のバリアフリーツーリズムをめぐる活動の状況と今後の課題について考察する。またそのことを通じて旅行におけるバリアをなくすことで国民の観光へのアクセスを可能にする方策を考える。	隔年
	グリーンツーリズム論	国土の大半を占める農山漁村（以下：農村）地域では、各地の個性ある地理的条件を活かしたグリーンツーリズムが展開され、農村の活性化に貢献する一方で、幅広い国民の参加希望に十分対応できていない状況もみられる。1992年から開始された日本の地域経営型グリーンツーリズムは、今世紀に入り、韓国、中国、東南アジアの各国に広がっている。風土・文化・農村環境において多くの共通点を持つ日本と韓国・中国・タイのグリーンツーリズムについて講義する。	
	観光人類学	観光という現象を通して、西欧の影響により消滅しようとしていると考えられてきた「未開」社会固有の文化というものが、実は固定的でただ消滅してゆくのを待っているわけではなく、様々な文脈の中で操作され、変容し、ときに新たに生み出されているのだという視点で見られることを、内外の事例を交えて理解してゆく。	隔年
	観光地理学	観光地域の形成と現状、および課題について、日本と外国でよく知られる観光地域を事例として考える。観光は地域の歴史・文化・産業などの文化資源や、地形・気候・植生などの自然環境資源が有効に活用されることで成立していることを理解してゆく。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	観光・地域創生系科目群	（概要）本授業では、国家が国家として成り立つ際に、文化は、その障壁にも、国家を豊かにする資源にもなりうることを学び、いかなる時に、なぜ、文化が争点になるのかを探る。それを通じて、多文化主義や文化相対主義の概念と問題点を学び、来たるべき日本の多文化共生社会を考える。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） 〔7〕岡村 徹・〔10〕塩谷 サルフィ マクスダ／1回（共同） 多文化共生社会の意義について講義を行う。 〔7〕岡村 徹／7回 主に、オーストラリアの先住民や移民をめぐる歴史および社会的諸問題等を通して、多文化社会といわれるオーストラリアの光と影を知る。 〔10〕塩谷 サルフィ マクスダ／7回 州や地域毎に人種・言葉や習慣・宗教・文化が異なる多文化共生社会国、インド共和国、モンゴル国を例に、急速な国際化の進展に対応できる社会の利点、文化や習慣の違いから起きる、制度差別等の問題点を学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）
	地域ブランディング論	地域特有の豊かな自然、美しい景観、伝統的文化、住民の経験や知恵（人材）等は各地に存在する地域資源であり、これらの地域資源を活用して、地域で生産される財やサービスの付加価値を高めることが地域ブランド化である。観光業や農林漁業等の分野で展開される地域ブランド化について事例を中心に考察し、そのノウハウについて講義する。	隔年
	地域産業論	地域産業は、農林水産業、製造業、各種サービス業等の多様な産業部門から構成されている。その中でも、農山漁村地域を多く抱える地方圏の産業部門構成については、大都市圏に比較して、農林水産業や製造業の占める割合が相対的に高く、一部の地方圏では観光産業も重要な役割を果たしている。観光産業は各種サービス業のうち、対個人サービスの中に含まれており、観光産業の成長は地域産業に与える経済効果が高いとみられている。産業連関分析等の経済効果計測法も紹介しながら、地域産業について講義する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	観光・地域創生系科目群		
	フードシステム論	現代の食は、農林漁業による食材生産、食品製造業による食品加工、食品卸売業・小売業による膨大な種類の食品流通、飲食業・旅館等宿泊業による食の提供といった連鎖で構成されている。これはフードチェーンともフードシステムとも呼ばれる食の川上から川下に至る複雑なシステムである。現代の食を理解するこのような枠組み設定は近年の学問的成果の一つであり、現代の食の理解に不可欠な捉え方である。この講義ではフードシステムを構成するそれぞれの産業・産業主体の構造と行動、産業間関係、世界のフードシステムの現状を解説する。	
	農村地域振興論	農村振興の手法全般について学ぶとともに、農村における産業基盤である農業の振興方策を体系的に学ぶ。とくに農業生産のコスト低減、付加価値化に向けた自治体、関係団体の果たすべき役割を学び、生産された農畜産物の加工、直売所やネットを通じた直接販売、観光農園の開設、農家レストランの成功条件など6次産業化の取組みに焦点をあて実践例を踏まえて講義する。	隔年
	財政学	財政の健全化が日本経済ひいてはわが国の重要な課題となっている。このため財政の基本原則を体系的に学ぶとともに、現在のわが国の財政状況を理解し、先進諸国との比較を通して財政問題の的確な理解を目指す。また、中央と地方の財政関係、地方財政の直面する課題についても講義する。	隔年
	社会調査法	地域社会や集団・組織の状態や課題を分析したり、人々の意識や行動を分析するための技法としての社会調査の基礎を身につけることを目的とする。本講義ではまず、調査の企画、設計の方法について習得し、次いで計量的分析法と質的分析法について学習する。計量的分析法では、統計分析の基礎、ならびにアンケートの作成・分析の技法を身につける。質的分析法では、地域分析や組織・集団分析や個人のケーススタディを進めるにあたって身につけておくべき基本的な事項を学ぶ。	
	地理情報学概説	GIS(Geographic Information System)を利用した地域調査の手法について、基本的な理論・手法を身に付ける。授業では、地域調査がどのように行われているのかについて、実例を挙げながら説明を行い、GISなどの調査法がなぜ必要なのかについて概要を説明する。また、GISの機能と利用方法、データの取得や各種統計データの取り扱い方法について学び、実際に活用する際に必要となる基本的な分析手法についても説明を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	観 光 ・ 地 域 創 生 系 科 目 群	観光学演習 A	受講生が観光に関して自分が取り組んでいきたいと考える問題意識を担当教員と相談しながら明確にし、このテーマのもと地域を決めて行うフィールドワークによって得られたデータをもとに、これを分析・議論することによって、当該地域が抱える問題点を明らかにして、その解決のためのアイデアの策定につなげてゆくことへのトレーニングを行う。
		観光学演習 B	小松市をはじめとする石川県内の各地の観光地における観光客の動向、観光客の受け入れ現場や観光をめぐる産業の実情に関わるデータや資料を収集し、各地の現状と課題を検討する。その上で、これらの観光地の中から特定の地域を取り上げてグループで訪問し、ヒアリング等によるフィールド調査を行い、授業等でその結果をグループ発表する。これらを通して、フィールド調査の企画・設計、分析の技法、発表時におけるプレゼンテーションの技術、ディベートの進め方等を習得し、後期の課題研究につなげていく。
		観光学演習 C	観光学の中でも、農山漁村をフィールドとする観光、すなわちグリーンツーリズムやエコツーリズムを主な対象として、前半は専門書を輪読する。後半は各自のテーマを設定して、調査・学習した内容を順次、発表して、ゼミ形式で議論する。
		地域創生演習	講義で得た知識をベースに、学生が6次産業化の取り組みの実践例を調べ、その成果・到達点と課題を整理して報告し、演習参加学生と討論を交わして地域創生に関する知見を自らの中に内在化することを目指す。また、演習におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。とくに情報発信力だけでなく他者の主張の受信力の向上も重視する。
		多文化共生社会演習	前半は、講義とディスカッションを併用し、多文化社会の利点・問題点をインドやアメリカの事例を通じて理解することに主眼を置く。後半は、多文化社会の調査方法を教授し、地域行政・国際交流団体担当者を招いて聞き取り調査を行う。全体として、地域社会における多文化共生のあり方について提言ができるリーダーの育成を目指す。授業においては、テーマ毎に考え方の違う学生同士をグループ化し、共同で聞き取り、分析、提案をすることで、相手を理解し、自分の考えを伝達し、さまざまな意見をまとめる力を養い、多文化共生社会に対応できる能力を身に着ける。
		課題研究 A	小松市をはじめとする石川県内の各観光地の中から一地域を選択し、自らの関心に沿った調査テーマを定め、それぞれのフィールドにおいて調査を企画し、適切な調査方法を選定し、各自が現地に赴き調査を実施する。加えて、その際に調査対象の現場の業務を見学したり体験することによって、自らの関心とテーマをより深く考察する機会ともする。また、受講生はこれらのフィールド調査と実習の成果を報告発表し、選定した観光現場の課題の洗い出し、提言などをアウトプットとして行う。
			共同

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	政治 経 済 系 科 目 群	（概要）本講義では、国際政治の歴史および諸問題を、日本の外交政策とあわせて理解する。日本を取り巻く国際環境を概観したのち、安全保障、移民・難民問題、テロの拡散、国際協力といった現代的トピックを取り上げ、それらを分析する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） ⑬ 千葉 悠志・⑫ 木場 紗綾／1回）（共同） 授業の全体像や進め方を示すとともに、評価方法や参考文献について指示する。 ⑬ 千葉 悠志／7回） 第二次世界大戦以降の国際政治を、情報覇権をめぐる各国の角逐という観点から理解する。具体的には、1950年代以降の開発コミュニケーションをめぐる欧米と途上国との関係、1970年代の「南」「北」の情報格差是正をめぐる国際舞台での論争、1990年代以降の情報技術革新とその政治的影響などを論じる。 ⑫ 木場 紗綾／7回） 国家と領域をめぐる基本的な考え方を踏まえたうえで、日本をとりまく東アジアや東南アジアの安全保障問題、日本の難民受け入れをめぐる状況、支援をめぐる国際規範・国際協力などの問題を扱う。	オムニバス方式・共同（一部）
	国際政治論		
	国際貿易論	本講義は、急速に拡大するグローバル化の諸問題を、国際貿易の視点を通じて多面的に理解することを目指す。そのために、国際貿易の歴史を概観し、その後、国際収支統計の活用法や海外直接投資（FDI）の理論と現状を学ぶことで、我々が日々目にする世界的な経済活動を理解する。さらに、貧困や環境問題など、現代の国際貿易システムが生み出す負の問題を検討するとともに、国際取引法や貿易実務を学び、実際の貿易や為替の知識も学ぶ。	
	中国語圏社会文化論	本授業では、アジア地域の中国語圏、あるいは「華人」社会について、台湾、シンガポールを中心に、東南アジアなどの華人社会をカバーしつつ、その成り立ち、現在の政治・経済・社会・文化、相互関係、ネットワークなどについて学ぶ。中国をルーツとしたり、中国語系の言語を使っているからといって、中華人民共和国とは直結するかというと、そうではない。物事を一面的・短絡的でなく、多角的・多樣的にとらえる重要性についても浮き彫りにしたい。	
	アジア現代史概論	中国とその周辺諸国における歴史は、現在のアジアの国際政治に大きな影響を与えており、これをふまえなければ現状を十分に理解することは困難である。本授業では、20世紀後半の中国及びその周辺地域における歴史について、全体の流れを重視しつつテーマを設けながら学んでいく。授業においては、歴史上の出来事と現在の国際情勢とのつながりについても解説を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際文化交流学部国際文化交流学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	政治 経済 系 科目 群	東南アジア地域社会論	日本に近接する東南アジア10カ国は、地理的な近さにもかかわらず、民族、宗教、言語はもちろん、政治体制や経済規模も多種多様である。東アジアおよび東南アジアの各国の政治体制の特徴を学び、各国の事情を客観的に比較する視点を身につける。また、地政学的観点から、経済分野や安全保障分野におけるASEANと非ASEAN諸国、大陸アジアと海洋アジアとの戦略上の差異や対話を分析する能力を養う。さらに、経済統合が及ぼす影響、華人・華僑の企業家、移民労働者、エスニック・マイノリティなど、地域に共通する課題を考察し議論する。	
		NGO論	国際協力NGOの役割とその課題を学ぶ。開発途上国で具体的な事業を実施している団体、主として政府開発援助の監視や政策提言を行っている団体、さらには国際環境NGOのようなグローバルな団体など、さまざまな種類のNGOの登場した背景とその社会的役割、課題を考察する。国際NGOを国際社会のステイクホルダーとして客観的に分析する理論的アプローチを身につけた上で、主に日本のNGOが直面している組織基盤、人材育成、政策提言上の諸課題を具体的に議論する。	
		国際協力論	ミレニアム開発目標を含む世界的な開発援助政策の全体像と、戦後賠償から始まった日本の援助政策といった現在の援助の背景を学ぶ。その後、PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）のような国際協力プロジェクトの立案・評価プロセスを理解する。その後半では、持続可能な開発、オーナーシップ、新興ドナーの台頭、平和構築、といった現代的なトピックスを紹介しながら、それにかかわる具体的な国際協力プロジェクトの事例を取り上げ、ディスカッションを通じて、国際協力を多角的な視点から見る訓練を行う。	
		イスラーム社会論	現在、世界のおよそ4人に1人がイスラーム教徒とされ、さらにその数は2070年頃までにキリスト教徒と並んで世界最大になるとの試算もある。このように、現代社会を理解するうえで、もはやイスラームについての知識は欠かせないだろう。本講義では、イスラームの教義や信仰がどのようなものか、またアジアやヨーロッパの国々へと広がるイスラーム社会の多様性と政治経済の動きを論じる。	
		中東政治論	本講義の目的は、冷戦終結後、とりわけ2001年のアメリカ同時多発テロが生じて以降、国際政治の一角に深く組み込まれるようになった中東地域の政治を深く理解することで、国際社会に対する理解を深めることにある。具体的には、オスマン帝国の崩壊を起源とする現代中東諸国体制の成立、イスラームを政治へと適応しようとするイスラーム主義運動、さらに2000年代以降のアフغانستان・イラク戦争、近年生じた「アラブの春」と、それにともなう急進的・過激派イスラーム主義組織の台頭などの諸問題を、体系的に理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際文化交流学部国際文化交流学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	政 治 経 済 系 科 目 群	資源エネルギー・環境論	世界の歴史の進展と人類の科学技術の進歩に伴い、国境を超えた経済活動が活発化し、世界はグローバル社会の時代に突入している。その間、人類は経済発展のため多大なる天然資源を利用してきた。しかし、そのことは同時に大量の資源の採取と廃棄を生み出しており、地球規模の環境問題にもつながっている。本講義ではこうした状況を歴史的に概観し、現状を把握した後、環境問題に対し今後どのように対処すべきかを検討する。	
		新興国経済論	グローバル化が進行する世界経済における新興国経済の現状を学ぶ。第一に、ソ連崩壊以降のボーダーレス、グローバル経済が進行する中で新興国の歩んだ経済プロセスを歴史的・政策的観点から把握する。その上で、新興市場国経済の現状を概観、分析し、その成功と問題点を検討する。また、日系企業の進出動向などにも触れ、新興国との関わりを理解することで、学生の海外に対する関心を高めていく。対象とするのはラテン・アメリカ諸国、アジア諸国、ロシア・中東欧諸国である。	
		グローカル論	ローカルとグローバルの2つの視点を合わせ持ち、社会を捉える力を育成するため、地域社会と国際交流とのつながりについて学ぶ。国際展開している地元企業や小松空港の活用を軸にして、地域社会の在り方と活性化を国際交流や対外発信とどう結びつけることができるかについて、学際的かつ具体的に考察する。地域について学んでいる学生が国際化について考え、海外について学んでいる学生が地域課題を理解するための、橋渡しの科目である。	
		サブカルチャー論	日本製のアニメ・漫画・ゲームなどのサブカルチャーは現在世界の若者に浸透し、支持されており、日本政府も「クールジャパン」戦略の中核に位置付け、海外からの誘客に一定の成果を挙げつつある。本科目では、日本製のサブカルチャーの歴史、海外における拡散、日本政府の政策、誘客効果などについて体系的に学ぶ。また今の学生にとってきわめて身近なサブカルチャーを題材とすることで、論理構築の方法やあり方についてより根本的な理解が可能となる。	
		メディア情報論	「情報化社会」と呼ばれる現代社会を理解するために、メディアや情報がどのように発展してきたか、現在どのような領域や分野があるのか、新たに発展しているネット技術や応用はどのようなものなのか、今後の展望も含めて概観する。メディアの基本を構成する文字の歴史についても言及し、学際的な考え方も提供する。現在のメディアや情報の状況、新たな技術の台頭を知ること、メディアリテラシーを養うだけでなく、今後社会で活躍するうえでの思考力、批判力、創造力を育む効果も期待される。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際文化交流学部国際文化交流学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	政 治 経 済 系 科 目 群	現代メディア史	本講義の目的は、情報社会といわれる現代社会の特徴を、メディア・コミュニケーション研究の立場から深く理解することである。従来のメディア・コミュニケーション研究の理論を踏まえたうえで、グローバル化の進展や技術革新によって引き起こされた世界的なメディアの地殻変動を理解し、それによって今まさに生じている政治や社会の問題を検討したい。具体的には、出版、新聞、ラジオ、テレビといったマス・メディアに加えて、ポスト・マスメディアとしてのインターネットやソーシャルメディアなどを取り上げて論じる。	
		国際政治論演習 A	国際政治を理解、分析する上で不可欠な基礎的概念、制度、モデルを解説した上で、国際政治における諸課題を、理論的・分析的な観点から考察する。国際社会には主権国家、国際機関、多国籍企業、NGO など多様なアクターがあること、多国間関係と二国間関係のダイナミズム、各国の国内情勢などの要素を複合的に捉える視点を養う。授業ではとくに国際安全保障、紛争と平和に焦点を当て、日本外交が国際政治の課題に対して果たす役割についても議論する。目に見える事象や政策文書の背景にある事情を想像し、多角的に分析する訓練を行う。	
		国際政治論演習 B	本演習では、国際政治に関する基礎的知識を習得するとともに、それを応用しながら今日の国際社会に生じている諸問題について議論をおこなう。具体的な進め方としては、国際政治や国際社会に関する重要文献を取り上げて、参加者が各文献について報告をおこない、それに対して全員で講評・ディスカッションをおこなう。本演習を通じて、学術的な文章を正確に読み解く力や、自らの考えを表現する方法、またそれらを自らの研究テーマに応用していく力を獲得する。	
		国際経済論演習	本演習では、世界経済に関する基礎的な知識や現状を学習・理解したうえで、グローバル化が進む世界の諸問題を分析し、その解決のための諸方策を導くことを目的とする。具体的な研究テーマを各自（あるいはグループごと）が自由に設定し、ゼミでの報告・討論を通じてそれらのテーマを全体で共有し、独自の世界経済論を構築していく。	
		国際社会論演習	アジアの国や地域（複数可）を中心とした海外について、社会・文化を切り口とした研究を進めるための導入。アジア地域全体あるいは一国・地域ごとの社会・文化に関する入門書の輪読と議論、さらにあらかじめ指定した日本語・英語の短い論文のなかから学生それぞれに選択させ、概要、批判的考察、議論を行う。また、小松空港等を活用したフィールドワークも適宜実施することで、現実に立脚しつつ物事を論理的に構築するスキルを身につける。	
		課題研究 B	前期の演習を受けて、アジアの国や地域（複数可）を中心とした海外について学生が調査研究を行う。導入部分では専門論文を講読し議論する一方で、フィールドワークを実施する。その後は個々の学生が政治・経済・社会・文化を切り口としたテーマを選んで順番に発表し、討論を行う。フィールドワークを取り入れることを必須とし、また文献の選定、情報の取捨選択、論理構成を学ぶことで、ロジカルシンキングを身につけることが期待される。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	言語文化系科目群		
	英語圏言語文化論	英語の多様化・国際化について、文化的背景をふまえながら学ぶ。授業では英語母語国からオーストラリアを取り上げ、その言語的世界を五つの角度（英語、先住民語、ピジン英語、コミュニティ言語、日本語）から概観しながら異文化間のよりよいコミュニケーションの在り方を考える。また時間が許せば、英語が英米語に限らないことを理解するために、英語第二言語国や英語国際言語国で話されている英語の実態についても紹介する。	
	中国言語文化論	中国の言語とその文化的背景について、時間軸と空間軸の双方からアプローチする。前半は時間軸に沿って、漢民族とその言語と文字の起源から説き起こし、文字発展史、辞書発展史について文化史的背景をふまえながら解説する。後半は漢語（中国語）の空間的分布について、歴史的な文化圏の形成と関連付けて解説する。また農村地域における言語文化的状況を紹介する。前半終了時に理解度測定のための中間試験を実施し、後半の最後にレポートを提出させ、平常点と合わせて評価する。	
	英語圏文芸論	英語圏文芸論はイギリス、アメリカばかりでなく、より広い範囲の英語圏の文化や文学に焦点をあてつつ、さらに広い視野に立って考え、幅広い教養の獲得を目指す。 この講義では英語圏における映画、演劇、音楽等のメディア文芸を主な題材として、英語圏文化の特質と多様性を考える。	
	英語研究A	言語としての英語を多面的に理解することを目標とする。英語学の基礎として前半は、いわゆる伝統的な英語学の分野である音韻論、形態論、統語論をおこない、後半は応用的な側面としての非言語コミュニケーションやポライトネスの諸問題を概観する。あらゆる英語研究の基礎となる科目なので、使用するテキストをよく読んで、予習と復習をすること。参考文献は適宜、授業中に紹介する。	隔年
	英語研究B	英語の類型論的位置づけを試みることを目標とする。特に英語の語順、格、名詞句階層、他動性、二項述語階層、所有傾斜等の諸問題を扱い、世界の言語の中で英語がどのような類型論的特徴を有するかを考え、タイプに分類する。これらの考察を深めることによって、日本語が決して特殊な言語ではないということ、ありふれた言語であること、むしろ英語のほうが特殊であること、も理解できるようになる。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	言語 文化 系科 目群	（英文） Taught in English, this course examines the Chinese language from a basic linguistic perspective through lectures, readings of important empirical works and student presentations. Topics to be covered include the Chinese phonetic and phonological systems, Chinese parts of speech and word formation, the Chinese writing system, Chinese dialects, the standardization of the spoken and written languages, Chinese word order and iconicity, the Chinese aspectual system and the passive, causative and disposal constructions. Comparison is made with English and/or Japanese where appropriate. Student performance will be assessed by oral presentations, one written assignment and one final exam. （和訳） この授業は英語による講義と主要な実証研究資料の講読、学生の発表を通じて、基礎的な言語学的視点から中国語を分析する。授業では、英語および日本語との比較対照を適宜行いながら、中国語の音声・音韻体系、品詞と語構成、表記体系、方言、話し言葉・書き言葉の標準化、図像性、アスペクトおよび受動、使役、処置の諸構文を取り上げる。成績評価は、資料に関する発表および期末レポートによる。	
		現代中国語（普通話）の音声について、その特徴を日本語や英語との対照を通じて講義する。授業は、子音（声母）、母音（韻母）、声調・アクセント・イントネーションの三部構成とする。アクティブラーニングを採用し、三部それぞれについて1回目の講義終了時に課題を出す。課題の内容は、音声分析ソフトを用いた音声分析及び辞書類を用いた統計研究である。各部とも、学生は初回後に行われる2～3回の講義を経て、作業結果を報告し、レポートとしてまとめる。作業を通じて講義内容をしっかりと把握させることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	言語文化系科目群	（英文） This course assumes no previous background in linguistics and is intended for students who have an interest in the relationship between language, culture and society. Topics covered include language variation, language, culture and thought, speech as social interaction, quantitative study of speech, linguistic and social inequality and language variation and change. Taught in English, the delivery of the course will consist of textbook readings, bi-weekly lectures and directed classroom discussion based on sets of focused questions aimed at reinforcing the content introduced in the previous week's lecture. When appropriate, parallel or contrastive phenomena from Japanese and Chinese will be used to supplement English examples. （和訳） この授業は言語・文化・社会の関心を持つ学生を対象とし、言語の変異と変化、言語・文化・思考の関係、社会的コミュニケーションとしての発話、発話の定量的研究、言語的・社会的不平等などを取り上げる。言語学の予備知識は不要である。学生はテキストを予習して授業に臨み、テキストの内容に基づいて英語による講義が隔週で行われる。講義の翌週は、前週の講義内容の理解を深めるため、焦点を絞った一連の質問に関するディスカッションを行う。英語の例に加え、中国語や日本語にみられる平行的又は対照的な現象にも適宜言及する。	
	日本語の歴史	奈良時代の日本語(上代語)をはじめ、現代日本語までの史的变化を紹介する。文字の導入と発展を軸に、各時代の文献から推測できる音韻構造、文法構造、地域差などについて解説する。語彙の変化にも焦点を当て、平安時代以来の漢語の普及、室町時代以後にヨーロッパの言語から借用された単語の役割、明治時代の和製漢語の急増、20世紀後半からの英語の強烈な影響などを取り上げる。前半終了時に理解度測定のための中間試験を実施し、後半の最後にレポートを提出させ、平常点と合わせて評価する。	
	語用論	私たちのコミュニケーションにおいて、聞き手は、話し手がある発話によって伝達しようとした意味をどのように理解するのだろうか。ことばと推論の関係を探り、発話の解釈プロセスについて理解することを目標に、コミュニケーションにおける発話解釈の基本的な考え方を講義により学ぶ。授業では、発話解釈モデルの基礎的知識を英語や日本語の例に基づいて学習し、具体的な言語現象の説明にどのように適用されるのかを考察する。受講生は、学習した考え方や分析方法を基に自ら収集した具体例の分析を行い、言語分析の汎用的技能と語用論的視点を身につける。	
	日英対照言語表現論	日英対照の観点から言語学の知識を広げ、英語と日本語の仕組みについて理解を深めることを目標に、対応する表現や構造（構文）の使用条件にどのような共通点・相違点があるのかを講義により学ぶ。授業では、機能的構文論やメタファーに基づく拡張構文を中心に引き上げ、表現や構造（構文）の使用が統語的要因によっては説明されず、意味論的もしくは語用論的（機能的）要因によって影響されるケースを考察する。受講生は、学習した考え方や分析方法を基に自ら収集した具体例の分析を行い、言語分析の汎用的技能と対照言語学的視点を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	言語文化系 科目群		
	比較文学論	（概要）日本文化の特徴を、海外文学から日本文学への影響、日本文学から海外の文学への影響、言語の境界で活動する作家などを材料に、比較文学の方法・視点による分析から理解することをめざす。海外の文学にそれぞれの文化の特徴を見だし日本文化と比較することで互いの特徴を明らかにするだけでなく、文学の受容に翻訳を介することで浮かび上がる問題に文化の特徴を探ることも行う。講義は比較文学を専門とする複数の教員が分担し、中国文学・フランス文学・アイルランド文学などを取り上げる。 （オムニバス方式／全15回） ⑤ 西村 聡／3回 日本文学、授業のまとめ 62 上田 望／4回 中国文学と日本文学 57 岩津 航／4回 フランス文学と日本文学 63 鈴木 暁世／4回 アイルランド文学と日本文学	オムニバス方式
	日本古典読解	日本文化を海外に紹介するために必要な日本古典文学の基礎知識を、具体的な作品の読解を通して獲得することをめざす。日本古典文学の作品は日本文化の特徴を語る最良の根拠である。それを断片的知識の羅列ではなく、文章を正確に読み、理解するところを適切に表現することで、紹介する相手に対する説得力を増す。そのことが実感できるような作品を、主として北陸地方を舞台とする作品の中から選んで教材とする。逐語訳よりも文章の要約力とキーワードの発見力を向上させることに重点を置く。	
	相互理解の心理学	本講義では、生得的要因、環境的要因の相互作用の中で形成される個人の特性について、主に実験心理学の領域で確立されてきた諸理論を中心に理解を深める。個人の多様性の背景を理解し、自己理解と他者との相互理解の基礎となる知識を養成する。授業は基礎理論の講義の後に実社会、日常生活への応用へと展開する。グループワーク、ディスカッションを通じて学びを共有し、自己・他者との関わりにおける基本的態度を見つめ直し、改善に繋げる機会を提供する。	
	言語学演習	演習形式によって、言語学および英語学に関わる各領域、方面の文献を読む。具体的には言語分析の手法を学ぶことになるが、その過程を通じて、卒業研究のテーマを絞っていく。また、卒業研究を進めるために必要なスキルもあわせて磨いていく。なお毎回、各自の関心のあるテーマに沿って研究発表をしてもらう。発表時間は一人15分、質疑応答は5分。他者の意見を聞くことによって、自身の考えが揺さぶられ、新たな考察が生まれるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	言語文化 系科目群	（英文） Taught in English, this course gives students the opportunity to carry out fieldwork that explores relationships between sociolinguistic variables such as age, gender, level of education and geographical place of origin and actual language use among native speakers of English, Chinese or Japanese living in the local area. The first several weeks will be spent gaining familiarity with basic sociolinguistic concepts and methodologies, before designing group fieldwork projects. Groups will present their research results to the class before submitting a final written report of 2,000 words. Student performance will be assessed by one group survey design, one group oral presentation and one final group written report. （和訳） この授業では、小松地域に居住する日本語、英語、中国語話者を対象に、社会的変数（年齢、性別、学歴、出身地）と言語使用の実態の関連性を、フィールドワークを通じて調査する。最初の数週間で基礎的な社会言語学上の概念と方法論に関し英語の講義を受けたのち、学生はグループを編成しフィールドワークプロジェクトを計画・実施する。調査結果は授業中に英語でプレゼンテーションを行った上で、2,000語の英語の最終レポートに纏める。フィールドワークの計画、プレゼンテーション、レポートにより学生の評価を行う。	
		この授業では、連濁に関する課題を見つけて調査する。連濁とは、複合語後部要素の濁音化を指し、日本語で一番広く知られている音韻交替現象である。例えば、「鳥」は「とり」と発音されるが、「海鳥」の「鳥」は「どり」になる。今までの連濁研究について解説してから、現存する資料(逆引き辞典、データベース等)を紹介し、様々な調査方法(インタビュー、アンケート等)を説明する。学生は個人で小規模な調査を計画し、実施する。調査結果は授業中にプレゼンテーションを行った上で、最終レポートにまとめる。調査の計画、プレゼンテーション、レポートにより学生の評価を行う。	
		言語学（英語学）の基礎的知識を広げ、ことばの背後にある規則性・法則性を理解することを目指し、主として語用論の領域と関連する英語の諸現象を取り上げ、その言語学的特徴と分析方法を演習形式で学ぶ。 授業では、含意・ダイクシス・指示・発話行為・談話標識などのトピックを扱い、英語論文も参照しながら、各現象の基本概念と分析方法の理解を深め、文献に挙がっている具体例について議論する。受講生は、学習した考え方や分析方法を基に自ら収集した具体例の分析を行い、言語分析の汎用的技能と言語学的視点を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	中国語学演習	この授業は学生が音声現象に興味を持ち、聞き取り能力を向上させることを目的とする。東京外国語大学言語モジュールを使用し、授業では北京語、蘇州語、台湾語の対話を聴きながら、学生はそれぞれの“訛り”の特徴を指摘、記録する。次に対話を反復して聞いた後に、自分で模倣して発音する。これらの練習を通じて、実用的な聞き取り能力を身に着ける。受講対象者は原則として中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを受講済みの学生とする。また「中国語研究B」を履修していることが望ましい。	
	日本文化論演習	日本文化を論ずるために必要な文献や情報の探索・収集の方法、その読解や整理のしかた、それらを使用して自分の考えをまとめ、口頭発表のレジュメやレポートを作成する時に留意すべきことなどを、実践を通して身につけてゆく。「日本文化論」の講義内容を踏まえて、学生自身が自身の切り口で日本文化を論じられるようになることをめざす。その材料は身近な、自分の言葉で語れる、体験に基づくもの、の中から見いだすことをねらいとする。	
学部 共通 科目	卒業論文	本学部では、4年次における学習目標を卒業論文の執筆に定め、全学生が一人の主任指導教員を定める「ゼミ制」を取る。この授業は、通年で実施し、前期では、卒業論文のために必要なノウハウを教授した後、学生個々人の課題設定について演習形式で指導する。夏季休業期間は調査期間と位置づけ、フィールドワークやデスクワークによる調査、資料収集を行う。後期では、学生一人一人の発表と参加者全員による討議を中心に進め、執筆状況について逐一指導を行い、論文へとまとめていく。	
	インターンシップⅠ	3年次の夏季休業中に実施する就業体験実習である。学生には極力参加を勧めるが、実施期間が「地域実習」、「異文化体験実習」、「海外語学研修」と重なることもあるため、選択必修科目とした。学部として全学生の約半数分（約40名）のインターンシップ受け入れ先を地元で確保するが、学生の希望職種と企業は多岐にわたることが予想されるため、学生の自主的な選択を優先し、南加賀地域以外での受け入れ企業については、大学側から実習記録の提出を求めた上で認める。ガイダンス、事前指導、事後指導を実施し、学生のレポートと事後指導における体験発表及び受け入れ先の実習記録と講評を参考にして、成績を判定する。	
	インターンシップⅡ	主に2・3月に実施する就業体験実習である。後期の10月から、ガイダンス→事前指導→実習→事後指導というプロセスで実施する。実習期間によっては事後指導が翌年度の4月になることもある。単位認定は次年度前期に行なう。 なお、夏期休業中に「インターンシップⅠ」の他に、別の事業所において2週間以上の就業体験実習を行った場合においても、2つ目のインターンシップは本授業科目として単位認定する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（国際文化交流学部国際文化交流学科）			
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容
専門 科目	学部 共通 科目	異文化体験実習	タイ、カンボジア、台湾等の提携校において観光学等の実習を行なう。研修期間は2週間程度を予定している。現地での実習に先立ち、ガイダンスと事前指導を行い、終了後はレポートの提出と事後指導における体験報告によって成績を評価する。実習受け入れ先としてタイ・プーケットのプリンスオブソンクラ大学、カンボジアのアンコール遺跡整備公団、台湾の建国科技大学がある。
		海外語学研修	外国語の実践能力向上を目的として、海外の提携校等において語学研修を行う。現地での研修に先立ち、ガイダンスと事前指導を行い、終了後はレポートの提出と事後指導における体験報告によって成績を評価する。また、英語、中国語の検定試験の受験を義務付ける。
		地域実習	この授業は、主に小松地域での観光・町おこし・村おこしのための実習を教員のサポートを受けながら学生が主体的に実施することを目的とする。海外提携校からの受け入れ学生との交流、自主的イベントの立案・実施等を含む。国際観光・地域創生コースの教員が中心となるが、他の2コースの教員もサポートして、毎年5項目程度の企画を立案し、年度当初に公示する。学生は自分が選択した企画に参加し、具体的な実習プランの策定に主体的に関与する。実習は夏季・冬季休業中に集中して行う場合もあれば、毎週末の休日を利用して長期間行う場合もある。いずれも実習の達成度に関する自己評価と年度末に提出するレポートによって成績を評価する。

公立大学法人公立小松大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
小松短期大学				公立小松大学				大学新設
				生産システム科学部				
				生産システム科学科	80	-	320	
				保健医療学部				
				看護学科	50	-	200	
				臨床工学科	30	-	120	
				国際文化交流学部				
				国際文化交流学科	80	-	320	
				計	240	-	960	
小松短期大学				小松短期大学				平成30年4月設置者を「公立大学法人公立小松大学」に変更
	地域創造学科	120	- 240	地域創造学科	0	- 0	0	平成30年4月学生募集停止
	専攻科			専攻科				
	臨床工学専攻科	20	- 20	臨床工学専攻科	0	- 0	0	平成32年4月学生募集停止
	診療情報管理専攻科	40	- 40	診療情報管理専攻科	0	- 0	0	平成32年4月学生募集停止
計				計	0	- 0	0	
こまつ看護学校				こまつ看護学校				
	看護学科	40	- 120	看護学科	0	- 0	0	平成30年4月学生募集停止
	計	40	- 120	計	0	- 0	0	